

Title	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵〔南北朝〕写老子道德經：本文並びに訓読文・附本文校異記(四)
Sub Title	Nanbokucho manuscript copy Lao Tzu-Tao Te Ching in the Shido Bunko Institute: transcription and the Japanese rendering append text collation (4)
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2008
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.43 (2008.) ,p.25- 113
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20080000-0025

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学
附属研究所

斯道文庫蔵〔南北朝〕写 老子道德經

本文並びに訓読文 附本文校異記 (四)

山城 喜 憲

凡 例

一、本翻印並びに訓読文の底本は斯道文庫に所蔵する次の古鈔本である。

老子道德經 一、卷 漢河上公章句
〔南北朝〕写 康應二年(一三九〇) 施入識語本

大二冊(函架番号 〇九一―ト八八―)

書誌事項についての詳細は、本稿(一)(二)『斯道文庫論集』

第40・41輯)の「凡例」を参照されたい。

本稿(四)では、卷下後半の第六十章から八十一章まで(四卷本で言えば、卷四に相当)と、真人葛玄の作として附添され

ている「老子道德經序」及び奥書の後付け部分を収めた。

一、「本文」翻字、「訓読文」翻記、「校異」、「訓読文補注」の表記要領については前稿を踏襲する。その凡例を参照されたい。只、此の本の明かな誤写と認められる場合、訓読文では、誤字の直下――内に本来の正字を示すこととした。

一、対校に用いた諸本及びその略称は次の通りである。

活 I (慶長) 刊古活字版

活 II (慶長) 刊古活字版 異植字版

陽 I 陽明文庫蔵〔室町末近世初〕写本二冊

書陵 宮内庁書陵部蔵〔室町〕写至徳三年(一三八六) 識語

本二冊

無窮 無窮会図書館蔵（井上頼因旧蔵）〔近世初〕伝写天文

五年（一五三六）書写清家本一冊

足利 足利学校遺蹟図書館蔵〔室町〕写本二冊

杏Ⅱ 杏雨書屋蔵（内藤湖南旧蔵）〔室町中期〕写本存巻下

徳經一冊

筑波 筑波大学附属図書館蔵天文二十一年（二五五二）写本

一冊

弘文 戸川濱男旧蔵〔室町末〕写元和五年（二六一九）付与

識語本合一冊

斯Ⅱ 斯道文庫蔵（伊藤有不為齋・戸川濱男旧蔵）天文十五

年（一五四六）写本二冊

梅沢 梅沢記念館蔵（戸川濱男旧蔵）應安六年（二三七三）

写本二冊

慶Ⅰ 慶應義塾図書館蔵（戸川濱男旧蔵）天正六年（一五七

八）足利学校南春写本一冊

大東 大東文化大学図書館蔵天正六年（一五七八）足利学校

真瑞写本一冊 宝素堂旧蔵経籍訪古志著録本

武内 瀧川君山・武内義雄旧蔵〔室町〕写本一冊

東大 東京大学総合図書館蔵〔南葵文庫旧蔵〕〔室町末〕写

本一冊

東洋 東洋文庫蔵〔室町末〕写本一冊

聖語 正倉院聖語蔵〔鎌倉〕写本存巻下一軸

東急 大東急記念文庫蔵〔室町〕写本二冊

六地 六地藏寺蔵〔室町末〕写本経本一冊

宋版 北京図書館蔵（常熟瞿氏鐵琴銅劍樓旧蔵）〔南宋〕建

安虞氏家塾刊本

世徳（明嘉靖十二年（一五三三））世徳堂顧春刊本

道蔵 明正統刊道蔵本（道徳眞經註四卷）道蔵洞神部玉訣類

知字号

敦Ⅱ 大英図書館蔵〔唐〕写零卷（存第三十九章、八十一章、

首欠）敦煌出土スライイン蒐集本（S三九二二六）

治要 羣書治要卷卅四所収本 宮内庁書陵部蔵〔鎌倉〕写金

沢文庫本

一、各本の書誌事項等詳細については拙著『河上公章句』老子

『道徳經』の研究』（東京 汲古書院 平成十八・二）緒論の

七「対校諸本略解題」を参照されたい。

河上公章句第四¹

下31才6

居位第六十⁴

治大國若烹小鮮⁵

鮮魚也烹小魚不去腸不去鱗不敢撓恐其糜也治國
煩則下乱治身煩則精氣散去也^{6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18}

以道莅天下者其鬼不神¹⁹

以道德居位治天下則鬼不敢見其精神以犯人也^{20 21 22 23}

非其鬼不神其神不傷人²⁴

其鬼非无精神也邪不入正不能傷自然之人^{25 26 27 28 29 30 31 32}

非其神不傷人聖人亦不傷人^{33 34}

非神不能傷害人以聖人在位不傷害人故鬼不敢干
人^{41 42 35 36 37 38 39 40}

河上公章句第四

居位第六十

大國ヲ治(ム)ルハ・小鮮ヲ烹(ル)カ若シ

鮮ハ・魚(也)。小魚ヲ烹(ル)ハ・腸ヲ去(上)テ不・鱗ヲ
去(上)テ不・敢テ撓(ミダ)ラ不・其ノ糜(カク)ケンコトヲ恐(レ)テナリ
〔也〕。(國ヲ治(ム)ルコト煩シキトキハ・〔則〕下乱(ル)。身
ヲ治(ム)ルコト煩シキトキハ・〔則〕精氣散シ去(ル)(也)

道ヲ以テ天下ニ莅(ム)トキハ〔者〕・其ノ鬼神アラ不

道德ヲ以テ位ニ居テ天下ヲ治(ム)ルトキハ・〔則〕鬼敢テ其
ノ精神ヲ見(去)ハシテ・以テ人ヲ犯サ不(也)

其ノ鬼ノ神ナラ不(ル)ニ非ス(・)其ノ神ノ人ヲ傷ラ不(レ)ハ

ナリ

其ノ鬼ノ・精神无(キ)ニ非ス(也)。邪・正ニ入(ラ)不レハ・
自然ノ〔之〕人ヲ傷ルコト能(ハ)不

其ノ神ノ人ヲ傷ラ不(ル)ニ非ス・聖人ノ・亦人ヲ傷ラ不レハ

ナリ

神ノ人ヲ傷害スル[可]上能(ハ)不(ル)ニ非ス・聖人ノ位ニ
在テ・人ヲ傷害セ不(ル)ヲ以テス・故ニ・鬼敢テ人ヲ干(カ)
サ
不

夫兩不相傷

鬼与⁴⁶聖人俱⁴³兩不相傷也⁴⁴⁴⁵

故德交歸焉

夫兩不相傷則人得治於陽鬼得治於陰人得全其性⁴⁹⁵⁰
命鬼得保其精神故得德交歸焉⁵⁴⁵⁵⁵⁶

夫へ平^レ兩ツナカラ相^レ傷ラ不

鬼ト聖^ト人^ト与^レ俱ニ^レ兩^ツナカラ相^レ傷ラ不^レ也^レ

故ニ德交^ト歸ス^レ焉^レ

夫へ平^レ兩^ツナカラ相^レ傷ラ不^レル^レトキハ^レ則^レ人^レ於^レ陽ヲ
治^ムルコトヲ得。鬼^レ於^レ陰ヲ治^ムルコトヲ得。人^レ其
ノ性^ト命ヲ全スルコトヲ得。鬼^レ其ノ精^ト神ヲ保ツコトヲ得^レ。
故ニ得德交^ト歸ス^レ焉^レ

校異

- 1 「道藏」は此の題の前行に「道德真經註卷之四」と、また、「東急」は題上方に「老子德經」と、「敦II」は上方に「老子德經下」と内題を掲出
 - 2 「河上公章句第四」、「活I・活II・陽I・武内・東大・東洋・杏II・筑波・慶I・大東・弘文・足利・斯II・無窮・書陵・梅沢・六地」は此の題書無し、尚、「無窮」には本文首句右旁行間に「老子德經 河上公章句第四イ本」との校異記有り、此のイ本の首題は「東急」と吻合する
 - 3 「道藏」〔第四〕の二字無し
 - 4 「無窮・書陵・足利・斯II・六地・東急・敦II」は章題無し、「武内・東大・東洋」は「居位章第六十」に、「慶I」は「治大章第六十」に、「杏II・大東・筑波・弘文」は「治大章六十」に作る
- また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「東大・東洋」は「治大章」と、「筑波・慶I・大東」は「居位章」と、「杏II」は「君位章／居位章」と小書きされ「弘文」は大字で「一本云居位第六十」と題す、尚、「梅沢」は章題「居」字右旁に「二十三」と、「無窮」は本章首行眉上に「廿三」と下巻内章次數を記す
- 「東急・敦II・治要」「享」字に作る
「宋版・世徳」一也」字無し

- 7 「東急・敦II・治要」「享」字に作る
- 8 「不去腸不去鱗」、「治要」此の六字無し
- 9 「無窮・東大・弘文」は「腹」字に作る
- 10 「無窮」「削」字に作る
- 11 「東大」「鮮」字に作る、恐らくは伝写の譌
- 12 「筑波・足利」は「麩」字に、「慶I・斯II・弘文」は「麩」字に作る
- 13 「敦II」一也」字無し
- 14 「精」字無し
- 15 「敦II」一也」字無し
- 16 「東急・宋版・世徳・道藏・治要」「氣」字無し
- 17 「治要」「版」字無し
- 18 「宋版・世徳・敦II・道藏」「去」字無し
- 19 「宋版・世徳・道藏」「者」字無し
- 20 「道藏」「蒞」字に作る
- 21 「下」字下、「敦II」一者」字有り
- 22 「鬼」字下、「敦II」一神」字有り
- 23 「敦II・道藏」一也」字無し
- 24 「非其鬼非无精神也邪不入正不能傷自然之人」、「斯II・道藏」此の

注文句無し

26 〔活〕・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳〔無〕字に作る

27 〔敦〕・治要〔也〕字無し

28 〔無窮〕・敦Ⅱ・治要〔耶〕字に作る、〔未版〕は〔非〕字に誤る

29 〔未版〕〔八〕字に誤る

30 〔能傷〕、〔敦〕Ⅱ〔傷能〕に作る

31 〔活〕・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・東洋・梅沢・治要・敦Ⅱ〔民〕字に作る

32 〔活〕・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・梅沢・治要〔は〕〔也〕字、〔東洋〕は〔者〕字有り、但、〔東洋〕は青筆で〔者〕字左旁に見消ちを付し右旁に〔也〕字を加筆する

33 〔非其神不傷人〕、〔斯〕Ⅱは此の經文句六字無し

34 〔未版〕〔人〕字無し、譌脱か

35 〔神〕字上、活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・未版・世徳・道蔵・治要〔は〕〔鬼〕一字、〔敦〕Ⅱは〔其鬼〕二字有り、但、〔東洋〕は青筆で〔鬼〕字左旁に見消ちを付し、〔神〕字右旁に〔或乍鬼神〕との書入れがある、また、〔東活〕同所にも同文の書入れを見る、〔大東〕は〔鬼〕字左旁に〔イ无〕と校異書入れがある

36 〔不〕字下、道蔵〔於〕字有り

37 〔不〕字下、道蔵〔敢〕字有り

38 〔道蔵〕〔書〕字無し

39 〔人〕字上、杏Ⅱ・慶Ⅰ・弘文・斯Ⅱ・足利〔于〕字有り

40 〔鬼〕字下、無窮・敦Ⅱ・道蔵〔神〕字有り

41 〔大東〕・筑波・東急・未版・世徳・敦Ⅱ・治要〔人〕字無し

42 〔活〕・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・弘文・足利・無窮・書陵・梅沢・東急・治要〔は〕〔也〕一字、〔大東〕・筑波・斯Ⅱ・未版・世徳〔は〕〔之也〕二字有り

43 〔俱〕字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・大東・筑波・足利・梅沢〔而〕字有り、尚、〔東洋〕は青筆で〔兩〕字上の字間に小圈を付し右旁に〔而〕字を加筆

44 〔道蔵〕〔兩〕字無し

45 〔敦〕Ⅱ・道蔵〔也〕字無し

46 〔敦〕Ⅱ〔交〕字に作る

47 〔梅沢〕〔交〕二字に作る

48 〔杏〕Ⅱ・大東・筑波〔飯〕字に作る

49 〔夫兩不相傷則人得治於陽鬼得治於陰人得全其性命鬼得保其精神故得德交歸焉〕東急 此の注文三十四字無し

50 〔於陰〕、〔梅沢〕本行に脱、〔治〕字の下地脚余白に加筆して訂正

51 〔筑波〕〔金〕字に誤る

52 〔道蔵〕〔人〕字に作る

53 〔得〕字に重ねて墨小圈及び兩傍に墨斜線を付す、抹消符である、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・聖語・未版・世徳〔德〕一字に作り、〔敦〕Ⅱは〔得〕字に作る、〔武内〕・東大・道蔵〔德〕〔得〕字ともに無し

55 〔無窮〕・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文〔飯〕字に作る

56 〔敦〕Ⅱ〔焉〕字無し、〔武内〕は〔之〕字に、〔東大〕は〔也〕字に、〔梅沢〕は〔焉也〕に、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・慶Ⅰ・書陵・大東・足利・斯Ⅱ・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文〔は〕〔之也〕に作る

下32才6 謙徳第六十一

大國者下流

治大國當如居下流不逆細微

謙徳第六十一

大國ハ〔者〕下流ナリ

大國ヲ治(△)ルコトハ・當ニ下流ニ居テ・細微ニ逆(△)

天下之交

大國¹⁰天下¹¹士民¹²之所¹³交會¹⁴

天下之牝

牝者¹⁵陰類¹⁶也柔謙¹⁷和而不唱¹⁸也¹⁹

牝常以靜勝牡²⁰

女所以能屈於男²²陰勝陽²³以安靜²⁴不先求也²⁵

以靜為下²⁸

陰道以安靜為謙下²⁹

故大國以下小國則取小國³¹

能謙下之則常有之³⁴

小國以下大國則取大國³⁶

此言國无大小能執謙畜人則无過失也⁴⁰

故或下以取或下而取⁴³

下者謂大國以下小國小國以下大國更以義相取⁴⁴

不カ如(ク)ナル「當」シ

天¹⁰下ノ「之」交ナリ

大國ハ・天下ノ士民ノ「之」交會スル所ナリ

天下ノ「之」牝ナリ

牝ハ「者」・陰ノ「類」ナリ也。柔謙ニシテ和(去)シテ唱¹

セ不(也)

牝ハ・常ニ靜ヲ以テ牡ニ勝ツ

女ハ能(ク)於男ヲ屈シ・陰ハ陽ニ勝(ツ)所以ハ・安靜ニ

先(ツ)求メ不(ル)ヲ以テナリ也

靜ヲ以テ下(ル)コトヲ為

陰道ハ・安靜ヲ以テ謙下ヲ為

故ニ大國ハ・小國ニ下ルヲ以(テ)・(則)小國ヲ取(ル)

能(ク)謙下スルトキハ「之」・(則)常ニ有(ツ)也

小國ハ・大國ニ下(去)ルヲ以(テ)・(則)大國ヲ取(ル)

此ハ言ハ國大小ト无(ク)・能(ク)謙ヲ執テ人ヲ畜フトキハ・

(則)過(去)シテ失无(シ)也

故ニ或ハ下(去)リテ以テ取(リ)・或ハ下(リ)テ而モ取(ル)

下ト云ハ「者」・大國ノ小國ニ下(去)ルヲ以(テ)・小國・

大國ニ下ルヲ以(テ)・更(平)義ヲ以テ相取(ル)ヲ謂(フ)

大國⁴⁶不過欲兼畜人

大國不可失則兼并人國而牧畜之^{47 48 49 50}

小國不過欲入事人

使為臣僕也^{51 52}

各得其所欲大者宜為下^{53 54}

大國小國各欲得其所大國又宜為謙下也^{55 56 57 58 59 60 61}

校異

- 1 「無窮」書陵・斯Ⅱ・足利・六地・東急・敦Ⅱは章題無し、「武内・東大・東洋」は「謙德章第六十二」に、「杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東」は「大國者章第六十一」(「大東」は本行「者」字を脱し左旁に加筆)に「筑波・弘文」は「大國者下流章第六十一」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「東大・東洋」は「大國(國)者下流章」と、「筑波・慶Ⅰ・大東・杏Ⅱ」は「謙德(徳)章」と、と小書され、「弘文」は大字で、「一本云謙德第六十一」と題す、尚、「梅沢」は章題「謙」字右旁に「二十四」と、「無窮」は本章首行眉上に「廿四」と下巻内章次数を記す
- 2 「梅沢」「圈」字に作る
- 3 「國」字下、「敦Ⅱ」者」字有り
- 4 「道蔵」「當」字無し

大國ノ過(カラ)不(ル)コトハ・人ヲ兼(ネ)畜ハシコトヲ欲(ス)レハナリ古相及古版

大國ノ失ス可(カラ)不(ル)ハ(則)人ノ國ヲ兼(ネ)并(セ)テ・而(而)牧畜スレハナリ(之)

小國ノ過(去)カ(ラ)不(ル)コトハ・入テ人ニ事(ヘシ)ト欲(ス)レハナリ

臣僕為(ラ)使(ム)ルソ(也)

各其ノ欲スル所(ヲ)得(大(ナル)者)ハ・宜ク下ルコトヲ為(宜)シ

大國小國・各其ノ所ヲ得マク欲(ス)大國ハ又宜ク謙下ヲ為(宜)シ(也)

- 5 「武内」「知」字に誤る、「如」字下、「足利」は「君」一字有り、衍か、見消ちを付す、「敦Ⅱ・道蔵」は「江海」二字有り
- 6 「道蔵」「者」字に作る
- 7 「逆」字下、「敦Ⅱ」「於」字有り
- 8 「東大・足利」「徵」字に作る
- 9 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・武内・東大・足利・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ・梅沢・東急「也」字有り
- 10 「國」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・足利・敦Ⅱ「者」字有り
- 11 「下」字下、「道蔵」「之」字有り
- 12 「書陵」「土」字に作る
- 13 「筑波」「支」字に作る
- 14 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」武内・東大・東洋・杏Ⅱ・大東・筑

波・梅沢「也」字有り、慶Ⅰ・弘文・足利・斯Ⅱは「之也」二字有り
 15 「牝」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢「者」字無し
 16 「東大」陽Ⅱに誤る
 17 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵「謙」字無し、尚「東洋」は「謙」字左旁に青筆で見消ちを付す
 18 活Ⅰ・活Ⅱ・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・道藏は「倡」字に、「宋版・世徳」は「昌」字に作る
 19 武内・弘文・東洋・敦Ⅱ「也」字無し、但「東洋」は「唱」字下に青筆で「也」字を加筆する
 20 「以」字下、杏Ⅱ・斯Ⅱ「其」字有り
 21 斯Ⅱ「牝」字に誤る
 22 宋版・世徳「勝」字に作る
 23 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・敦Ⅱ「於」字無し
 24 「陰勝陽」は「勝陽陰」に作る
 25 「以」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・東急・敦Ⅱ「其」字有り
 26 宋版は「盡」字に誤る
 27 東急・敦Ⅱ「也」字無し、「道藏」は「之」字に、「宋版・世徳」は「之也」二字に作る
 28 「為」字上、大東・筑波は「故」字有り
 29 「靜爲謙下」は此の四字無し
 30 東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢は「也」字、「東洋」は「者」也二字有り、但「東洋」は「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 31 東洋・書Ⅰ・東浩「取」字左旁に「就乍聚」の書入れ有り
 32 「小」字上、書陵・六地「於」字有り、尚「東洋」は「取小」字間に青筆で小圈を施し右旁に「於」字を加筆
 33 「能謙下之則常有之」東急此の八字無し、僞脱か
 34 東洋・書Ⅰ・東浩は「之」字傍に「中无」の書入れ有り
 35 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・梅沢は「也」字、「東洋」は「者也」二字有り、但「東洋」は「者」字左旁に青筆の見消ちを付す

37 36 「道藏」聚「字」に作る
 「此言國无大小能執謙畜人則无過失也」、東急此の注文十六字無し、僞脱か
 38 活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・世徳・道藏「無」字に作る
 39 「大小」道藏「小大」に作る
 40 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・世徳・道藏「無」字に作る
 41 「道藏」生「字」に作る
 42 「敦Ⅱ・道藏」也「字」無し
 43 「而取」道藏「以聚」に作る
 44 「小國」梅沢「此の二字無し、僞脱か」
 45 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・道藏は「也」一字、「東洋」は「之也」二字有り、但「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを施す
 46 「國」字下、武内・東大・東洋・杏Ⅱは「之」字有り、但「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
 47 「可失」道藏「失下」に作る
 48 「人」筑波は本行に脱し「并」字下余白に加筆して補入、「道藏」は「小」字に作る
 49 書陵「牡」字に誤る
 50 東急は「之」字無し、「書陵・武内・東大・梅沢」は「也」字に、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱは「之也」に、「東洋」は「之者也」に作る、但「東洋」は「之者」左旁に青筆で見消ちを付す
 51 「使爲臣僕也」、「東急」は此の注文五字無し、此の前後の經文「入事人各得其所欲」八字を本行に脱し行間に補筆「使」字、「敦Ⅱ」は「入」字に、「道藏」は「欲」字に作る
 52 宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏「也」字無し、「書陵」は「人」字に、「東洋」は「之也」二字に作る、但「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
 53 「各」字上、陽Ⅰ・宋版・世徳・道藏「夫兩者」三字有り
 54 「欲」字下、「無窮」は「也」字、「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・大東・道藏」は「故」字、「筑波」は「散」字有り
 55 「陽Ⅰ」得「字」無し、尚「東洋」は「得」字左旁に青筆で見消ちを付す

61 60 59 58 57 56

〔杏Ⅱ〕「処」字に作る
〔大〕字上・慶Ⅰ・弘文・足利・斯Ⅱ・道蔵
〔斯Ⅱ〕は空格
〔道蔵〕「尤」字に作る
〔道蔵〕「為」字無し
〔東急・宋版・世徳・敦Ⅱ〕「也」字無し

訓読文補注

1 「逆(へ)不カ、今、大東・筑波」の「細微ニ逆(へ)不カ如クナル」
「當シ」の訓点に倣う、尚、「東活・梅沢」は「逆(へ)不カ(カ)」、
「書陵・陽工」は「逆(へ)不カ(ル)カ」、〔杏Ⅱ〕は「逆(へ)不カ(カ)」、
「東大」は「逆(へ)不カ」、一武内・無窮は「逆(へ)不カ(カ)」、一慶Ⅰ・斯Ⅱは「逆(へ)不カ」と加點している

下33ウ3 為道第六十二

道者萬物之奧²

奧蔵也道為万物之蔵无所不容也⁷

善人之寶^{8 9}

善人以道為身寶不敢違失也¹⁵

不善人之所保

道者不善人之所保倚也遭患逢急猶自知悔卑下也²³

善言可以市²⁴

為道第六十二

道ハ〔者〕・萬物ノ〔之〕奧ナリ^{於六反又烏報反}

奧(ハ)・蔵也。道(ハ)・万物ノ〔之〕蔵^ヲ為^シテ容レ不ト云

所无(シ)(也)

善人ノ〔之〕寶ナリ

善人ハ・道ヲ以テ身(ノ)寶ト為^シテ敢テ違(イ)失(セ)不

(也)

不^レ善人ノ〔之〕保スル所ナリ

道ハ〔者〕・不善人ノ〔之〕保倚スル所ナリ也。患ヘニ遭

(ヒ)急ニ逢(ヒ)猶自(ラ)悔(ヒ)テ卑下(ヘ)去(ク)ナルコトヲ知

(ルカ)猶(シ)(也)

善美一言ハ以テ市ニス可(シ)

美言者獨可於市耳。市交易而退不以相宜善言美語求者欲疾得賣者欲疾售也。

尊行可以加人

加別也。人有尊貴之行可以自別異於凡人。未足以尊道也。

人之不善何棄之有

人雖不善當以道化之。蓋三皇之前无有棄民德化淳也。

故立天子置三公

欲使教化不善人

雖有拱璧以先駟馬不如坐進此道

雖有美璧先駟馬而至不如坐進此道

古之所以貴此道者何不求以得

美言ハ〔者〕・獨〔リ〕市ニ於テ〔ス〕可〔キ〕耳・夫〔平〕市ハ交易〔入〕シテ〔而〕退ク・以テ相宜シク善言美語ス〔宜〕〔カ〕ラ〔不〕求〔ムル〕者ハ・疾ク得ンコトヲ欲ス。賣〔ル〕者ハ・疾〔ク〕售ランコトヲ欲〔ス〕〔也〕

尊行〔去〕ハ・以テ人ニ加ウ可〔シ〕

加ハ・別〔也〕。人尊貴ノ〔之〕行〔去〕有レハ・以テ自〔ラ〕〔於〕

凡人ニ別〔入〕ニ異ナル可〔シ〕。以テ道ヲ尊フルニ足〔ラ〕未

人ノ〔之〕不〔善〕ヲ・何ソ棄ツルコト〔之〕有〔ラ〕ン

人不〔善〕ナリト雖・當ニ道ヲ以テ化ス〔當〕シ〔之〕。蓋シ三

皇ノ〔之〕前・民ヲ棄〔ツ〕ルコト有〔ル〕コト无〔シ〕・德化淳

シ〔也〕

故ニ天子ヲ立〔テ〕・三公ヲ置〔ク〕

不〔善〕人ヲ教化セ使メマク欲〔シ〕テナリ

拱璧有テ・以テ駟馬ニ先ニスト雖〔如カ不〕坐ナカラ此

ノ道ヲ進メンニハ

美璧ノ駟馬ニ先ニシテ〔而〕至ル有〔リ〕ト雖・坐ナ〔カ〕ラ此

ノ道ヲ進メ〔ン〕ニハ如〔カ〕不

古ノ〔之〕此ノ道ヲ貴フ所以ハ〔者〕・何ソ・日ニ求メ不ソ以テ

得レハナリ

古⁶⁰之所以貴此道者不日⁶²遠行求索近得⁶³之於身⁶⁴ 65

有罪以免邪⁶⁶

有罪⁶⁷謂遭乱世⁶⁸闇君妄行刑誅也⁶⁹修道則可以解死免⁷⁰於衆邪也⁷¹

故為天下貴

道德洞達⁷⁵无不覆濟⁷⁶全身治國恬然⁷⁷無為故可為天下⁷⁸貴也⁸³

校異

- 1 一無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・梅沢・東急・敦Ⅱ一は章題無し、但、「梅沢」は前章との間を空行とする。武内、東大・東洋一は「為道章第六十二」に、「杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東」は、「道者章第六十二」に、「筑波・弘文」は「道者万物之奥章第六十二」に作る、「杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東」は題下に「為道章」と三字句章名を小書、「東洋・東大」の題下には「道者万(萬)物之奥章」と、「武内」は「道者章」と小書され、「弘文」題下には大字で「一本云為道第六十二」との書入れがある、尚、「梅沢」は冒頭字「道」右旁に「二十五」と、「無窮」は本章首行眉上に「廿五」と下巻内章次數を記す。
- 2 「筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地」一也」字有り、尚、「東活」は「奥」字下に「也」と校異の書入れ有り
- 3 「道蔵」一以」字を作る
- 4 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・書波・筑波・弘文・慶Ⅰ・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵」一無」字に作る

古ノ(之)此ノ道ヲ貴フ所¹以ハ(者)・日々ニ遠ク行(イ)テ求メ^キ索メ不^レ近ク(之)於身ニ得(レ)ハナリ
罪有(リ)トスルニモ・以テ邪ニ免(ル)レハナリ

罪有ト云ハ・乱世闇君ノ妄行²刑誅ヲ行フニ遭フヲ謂(フ)〔也〕。道ヲ修(ム)ルトキハ・〔則〕以テ死ヲ解^トイテ・〔於〕衆ノ二免ル可(シ)〔也〕

故二天下ノ貴為(リ)

道德洞³達ニシテ覆^{オホ}ヒ濟ハ不ト云コト无(シ)・身ヲ全シ國ヲ治メテ恬然^テト^ク無^レ為ナリ。故二天下ノ貴為(ル)可(シ)〔也〕

- 5 「聖語」〔所〕字無し
- 6 「筑波」〔害〕字に誤る
- 7 「敦Ⅱ・治要」〔也〕字無し
- 8 「實」・「書陵」は左旁に「才乍所宝」と、「東洋(青)・東活」同じく左旁に「所寶」と校異の書入れ有り
- 9 「無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地・聖語・治要」一也」字有り
- 10 「聖語」〔道〕字無し
- 11 「身」字下、「治要」〔之〕字有り
- 12 「不」字上、「梅沢」聖語「故」字有り
- 13 「聖語」〔建〕字に作る
- 14 「陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・治要・道蔵」一失」字無し、尚「杏Ⅱ」は「失」字右旁に「无イ」の書入れ有り
- 15 「東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・治要」一也」字無し、「東洋

- は「之也」二字に作る、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを施す
 16 「東大」・「者」字無し
 17 「宋版」・「所」字無し
 18 「活」・活Ⅱ・陽Ⅰ・聖語・敦Ⅱ「也」字無し、尚、「東洋」は
 「本行」に脱し末格「倚」字の下匡郭下辺外に加筆する、また、「筑波」は
 19 「遣」字上、「敦Ⅱ」・「謂」字有り、「無窮」は右旁に朱で「逢イ」
 との校異記あり
 20 「猶」字下、「道蔵」・「能」字有り
 21 「自知」・「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・
 敦Ⅱ・道蔵・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・
 22 「道蔵」・「柔」字に作る
 23 「宋版」・世徳・敦Ⅱ・治要「也」字無し、「東洋」は「者也」、
 「梅沢」は「之也」二字に作る、但、「東洋」は「者」字左旁に青筆
 24 で見消ちを施す
 諸本「美」字に作る、此の本伝写の譌か
 25 「梅沢」・聖語・道蔵「者」字無し
 26 「敦Ⅱ」・道蔵「獨」字無し
 27 「可」・「武内」・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足
 利・斯Ⅱ「は」以可、「陽Ⅰ」・書陵・梅沢・敦Ⅱ・道蔵「は」可以
 28 二字に作る、尚、「東活」は「可」字下字間に「以」字を加筆
 「道蔵」・「於」字無し
 29 「敦Ⅱ」は「耳」字無し、「道蔵」は「者」字に作る
 30 「弘文」・敦Ⅱ「夫」字無し、「梅沢」は「耳市」両字の字間に書
 31 写、後の加筆
 「弘文」・東急・敦Ⅱ「市」字無し
 32 「梅沢」・東急・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「以」字無し、「足利」
 33 は「以」字右旁に「イ本」の書入れ有り
 「亘」字下、「道蔵」・「舊」字有り
 34 「杏Ⅱ」・慶Ⅰ「美」字に作る、「無窮」は左旁に「美イ」の校異
 35 記有り
 「無窮」・「善」字に作る
 36 「欲疾」・敦Ⅱ「疾欲」に作る
 37 「敦Ⅱ」・道蔵「也」字無し
 38 「人」字上、「筑波」・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ「於」字有
 り
- 39 「筑波」・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ「之」字無し
 「道蔵」・世徳「自」字無し、「宋版」は「凡」字に誤る
 40 「宋版」・「別」字脱
 41 「世徳」・「几」字に作る
 42 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘
 43 文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語「は」也「一」字、
 44 「東洋」は「之也」二字有り、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で
 見消ちを付す
 45 「不」字上、「聖語」・「有」字有り
 「活Ⅰ」・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世
 46 徳・道蔵「無」字に作る
 47 「有」字下、「無窮」・「立天子」三字有り
 48 「東大」・「徳」字無し
 49 「敦Ⅱ」・「也」字無し
 50 「善」字下、「宋版」・世徳・道蔵「之」字有り
 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑
 51 波・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語「也」字
 有り
 52 「書陵」・東大・足利・大東・梅沢「壁」字に作る
 「敦Ⅱ」・「此」字無し
 53 「書陵」・東大・足利・梅沢「は」壁」字に、「道蔵」は「玉」字に
 54 作る
 「先」字上、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・筑波・弘文・
 55 足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・道蔵「以」字有り、尚、「東洋」
 は青筆で「壁先」字間に小圈を施し右旁に「以」字を加筆する
 「不」字上、「東急」・聖語・宋版・世徳「故」字有り
 56 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋
 57 波・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・聖語・道蔵「也」字
 有り
 「道蔵」・「以」字無し
 58 「何」字下、「武内」・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・足利・慶Ⅰ・
 59 大東・斯Ⅱ「也」字有り
 「求以」・「梅沢」・聖語・宋版・世徳「以求」に作る
 60 「東急」・「之」字無し
 61 「不」字上、「聖語」・「以其」二字有り
 62 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・筑波・弘
 文・足利・慶Ⅰ・大東・梅沢・東急・聖語・「以」字無し

63 〔杏Ⅱ・斯Ⅱ〕「素」字に作る

64 〔東急〕「得」字無し、「東洋」「在」字に作る

65 〔活Ⅰ〕「陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語」「也」字有り

66 〔足利・斯Ⅱ〕「聖語」宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「耶」字に作る、但、足利「は左旁に」「邪」字を加筆する

67 〔罪〕字下、「道蔵」者」字有り

68 〔世〕字下、「東急」時」字有り

69 筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・道蔵「暗」字に作る

70 〔陽Ⅰ〕書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「也」字無し

71 〔死〕字下、「東急」は「也」字、「道蔵」は「厄」字有り

72 〔書陵〕「於」字無し

73 〔無窮・足利・斯Ⅱ〕聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「耶」字に作る

74 〔世徳・敦Ⅱ〕道蔵「也」字無し

75 〔道德洞達〕「治要」此の四字無し

下35才4 恩始第六十三

2 為無為

3 因成循故无所造作

9 事無事

10 豫設備除煩省事也

15 味無味

76 〔無窮・東洋・東急・聖語〕宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「遠」字に作る

77 〔活Ⅰ〕活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・世徳・道蔵「無」字に作る

78 〔全身治國〕「治要」此の四字無し

79 〔弘文〕「國」字脱

80 〔活Ⅰ〕活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・世徳・道蔵「無」字に作る

81 〔可〕字下、「道蔵」「以」字有り

82 〔下〕字下、「東洋」「之」字有り、但、左旁に青筆で見消ちを付す

83 〔筑波・大東・東急・敦Ⅱ〕道蔵・治要「也」字無し

訓読文補注

1 「違(イ)失(セ)不」、今、〔筑波・大東・慶Ⅰ別訓〕の「違イ失セ不」の訓に従う、尚、〔無窮・杏Ⅱ・慶Ⅰ〕は「違イ失セ不」と音読する

恩始第六十三

無^{シツサ}為^ヲ為^{トシ}

成^ニ因^リ故^ニ循^フテ^ニ造^{スル}作^{スル}所^無

無^シ事^ヲ事^{トシ}

豫^メ設^ケ備^ヘ除^キ煩^ク省^ク事^ヲ也^シ

無^シ味^ヲ味^ヒ

深思遠慮味道意也¹⁶

大小¹⁷多¹⁸少¹⁹

陳其戒令也¹⁸欲大反¹⁹少欲多反²⁰少自然之道也²¹

報怨以德

修道行善絕禍於未生也²⁴

圖難於其易

欲圖難事當於易時未及成也³¹

為大於其細

欲為大事必作於小禍亂從小來也³⁷

天下難事必作於易天下大事必作於細是以聖人終不為大⁴²

處謙虛也⁴³

故能成其大

天下共歸之也⁴⁵

夫輕諾必寡信⁴⁶

不重言也⁴⁷

深ク思ヒ遠ク慮リテ・道ノ意ヲ味フ〔也〕

大スルトキニハ少ク・多スルトキニハ少シ

其ノ戒令ヲ陳フ〔也〕。大ヲ欲スルトキハ反テ少ク・多ヲ欲スルトキハ反テ少キハ・自然ノ〔之〕道ナリ〔也〕

怨ヲ報スルニ徳ヲ以テス

道ヲ修メ善ヲ行テ・禍ヲ〔於〕未生ニ絶ツ〔也〕

難カランコトヲ〔於〕其ノ易ヘ去キニ圖リ

難事ヲ圖〔ラ〕ント欲〔スル〕トキハ・當ニ易ヘ去キ時・未タ

成〔ル〕ニ及ハ〔未〕ルニ於テス〔當〕シ〔也〕

大ヲ〔於〕其ノ細ニ為

大事ヲ為ント欲〔スル〕トキハ・必ス〔於〕小ニ作〔ス〕・禍亂

ハ・小從〔リ〕來ル〔也〕

天下ノ難事ハ・必ス〔於〕易ヘ去キヨリ作ル・天下ノ大事ハ・必ス〔於〕細ヨリ作〔ル〕・是〔ヲ〕以テ・聖人ハ・終ニ大ヲ為不

謙虚ニ處〔ル〕〔也〕

故ニ能ク其ノ大ヲ成ス

天下・共ニ歸ス〔之〕也

夫〔平〕輕シク諾スルハ・必ス信寡シ

言ヲ重セ不〔ル〕ソ〔也〕

多易必多難

不愼患也⁴⁸

是以聖人猶難之

聖人動作舉事猶進退重難之欲塞其源⁴⁹

故終無難⁵²

聖人終身无患難之事由避害深也⁵⁵

易(去)多(キ)トキハ必ス難(去)多(シ)

患(ヘ)ヲ愼(マ)不(ル)ソ(也)

是(ヲ)以テ・聖人ハ・猶難(去)ル(之)

聖人・動作事ヲ舉スルコト・猶進退ノ「猶」シ(。重シ、難

故ニ終ニ難キコト無(シ)

聖人ノ・身ヲ終ルマテニ患難去(ノ)「之」事无(キ)コトハ・

害ヲ避(ル)コトノ深キニ由テナリ(也)

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯II・六地・梅沢・東急・聖語・敦II」は
 章題無し、但、「梅沢・聖語」は前章との間を空行とする。「武内・
 東洋」は「恩始」章第六十三に、「東大」は「思始」章第六十三に、
 「杏II・慶I」は「爲無(无)」章第六十三に、「筑波・弘文・大東」
 は「爲無爲章第六十三」に作る、また、本題下に別題名を小書或
 は大書する本がある、即ち「武内」は「爲無爲章」、「東洋・東大」は
 「爲無(无)」爲章」と、「杏II・大東」は「思始」章(「大東」は「思」
 字左旁に「或乍恩」の書入れ有り)、「慶I・筑波」は「恩始」章と、
 「弘文」には題下に大字で「一本云恩德第六十三」との書入れが有
 る、尚、「梅沢」は冒頭字「爲」右旁に「二十六」と、「無窮」は
 本章首行眉上に「廿六」と下巻内章次数を記す
- 2 「六地・敦II・治要」[无]字に作る
- 3 「因成循故」、「治要」此の四字無し
- 4 「無窮・書陵・梅沢・聖語・宋版・世徳・敦II」は「脩」字に、
 「弘文・東急」は「修」字に作る
- 5 「活I・活II・書陵・杏II・弘文・足利・斯II・東急・宋版・世
 徳・道蔵」[無]字に作る
- 6 「道蔵」[改]字に作る

- 7 「敦II」[為]字に作る
- 8 「活I・活II・陽I・書陵・無窮・杏II・筑波・弘文・足利・斯
 II・大東・聖語」は「也」一字、「武内・東大・東洋」は「之也」
 二字有り、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 9 「東大・大東・六地・敦II・治要」[无]字に作る
- 10 「道蔵」[預]字に作る
- 11 「東大」は「説」字に誤る、「宋版・世徳」は「有」字に作る
- 12 「豫設備」、「治要」此の三字無し
- 13 「慶I」[順]字に誤る
- 14 「敦II・道蔵・治要」[也]字無し
- 15 「東大・慶I・大東・六地・敦II・治要」[无]字に作る
- 16 「敦II」[也]字無し
- 17 「諸本」[小]字に作る
- 18 「敦II」[也]字無し
- 19 「諸本」[小]字に作る
- 20 「斯II」[及]字に誤る
- 21 「慶I・聖語」[之]無し
- 22 「敦II」[也]字無し
- 23 「弘文」[過]字に作る

25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 〔道藏〕「萌」字に作る
 〔敦Ⅱ〕「治要」也」字無し
 〔欲圖〕、道藏」此の二字無し
 〔世徳〕「先」字に作る
 〔於〕「下」字に作る
 〔世徳〕「者」字に作る
 〔斯Ⅱ〕「反」字に作る
 〔敦Ⅱ〕「也」字無し、〔慶Ⅰ〕は「之」字に、〔武内〕は「之也」二字に作る
 〔足利〕「小」字に作る、但、右旁に「事」字を加筆
 〔梅沢〕「亦」字に作る
 〔作〕「上」字に作る、但、右旁に「事」字を加筆
 〔筑波〕大東は「少」字に、〔敦Ⅱ〕は「細」字に、〔弘文〕は「少時」二字に作る
 〔大東〕「少」字に作る
 〔敦Ⅱ〕「也」字無し
 〔亦〕「字」に作る
 〔無窮〕「左旁」に作る
 〔書陵〕六地「必」字無し
 〔道藏〕「大」字に作る
 〔處謙虚也〕、「世徳」此の四字無し
 〔敦Ⅱ〕「也」字無し
 〔無窮〕大東・杏Ⅱ・筑波・大東・東洋「版」字に作る
 〔東急〕敦Ⅱ「也」字無し
 〔聖語〕「真」字に作る、〔斯Ⅱ〕は「之」字に、〔書陵〕弘文・足利は「之也」二字に作る、尚、〔東洋〕は青筆で「言也」字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆する
 〔梅沢〕「於」字に作る、〔敦Ⅱ〕は「猶猶」に作り、一字衍
 〔其〕「下」字に作る、〔道藏〕「故」字有り
 〔活Ⅰ〕活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・聖語・道藏・治

要「也」字有り
 〔故〕「下」字に作る、〔弘文〕「聖」字有り
 〔東大〕大東・六地・敦Ⅱ・治要「无」字に作る
 〔武内〕筑波・慶Ⅰ・大東・六地は「矣」字有り、尚、〔東洋〕は青筆で「矣才无」と、〔東活〕は「矣才ナ」と校異記有り
 〔活Ⅰ〕活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・世徳・道藏「無」字に作る
 〔宋版〕世徳「猶」字に作る
 〔害〕「下」字に作る、〔慶Ⅰ〕「之」字有り
 〔敦Ⅱ〕「也」字無し

訓読文補注

1 「成ニ因リ」故ニ循フテ、「陽Ⅰ」は「成に因り故に循フテ」、
 「書陵」は「成に因り・故に循フテ」、〔梅沢〕は「成に因り・故に循フテ」、〔東大〕は「成ニ因リ故ニ循テ」、〔東洋〕は「成ニ因リ故ニ循テ」、〔武内〕は「成ニ因テ故ニ循フ」と加點、今、以上の訓読を参照する、尚、〔杏Ⅱ〕は「故」を「イニシヘ」と訓む、また、「因成」を「因り成ルニ」〔慶Ⅰ〕、「因り成テ」〔無窮・斯Ⅱ〕と、「循」を「循フ故ニ」〔慶Ⅰ別訓・斯Ⅱ〕と、「循故に」〔無窮等の訓法も伝わる
 2 「必ス於」小ニ作「ス」、〔陽Ⅰ〕は「必於」小に作ス、「治要」は「必於」小シキナルに作ス、「武内」は「必於」小キナルに作ス」と加點、今、此れ等に倣う、尚、「作於小」は「於」小ヲ作ス「斯Ⅱ」、「小シキナルヲ作ス」〔梅沢〕、「於」小シキヲ作ス「杏Ⅱ」、「於」小キヨリ作ス「大東・東大」、「小シキナルに作ル」〔東活別訓〕、「於」小ヨリ作ル「弘文・筑波」等の訓読が行われた

其安易持²³

治身治國安靜者易守持也⁴⁵

其未兆易謀

情欲禍患未有形兆時易謀正也⁶⁷⁸

其脆易破

禍乱未動於朝情欲未見於色如脆弱易破除也⁹¹⁰¹¹¹²

其微易散

其未彰著微小易散去也¹³¹⁴¹⁵¹⁶¹⁷

為之於未有¹⁸

欲有所為當於未有萌芽之時塞其端也¹⁹²⁰²¹²²²³

治之於未亂²⁴

治身治國於未乱之時當豫閉其門也²⁵²⁶²⁷²⁸

其(一)安(キ)トキハ持シ易(去)シ^(補注1)^(補注2)

身ヲ治メ國ヲ治ムルニ・安(キ)静ナル者ハ・守持シ易(去)シ

(也)

其(一)未タ兆(キ)未(ル)トキハ謀リ易(去)シ

情欲禍患・未タ形兆有(ラ)「未(ル)時ニハ・謀リ正シ易

(去)シ(也)

其(一)脆(キ)トキハ破レ易シ^(補注3)

禍乱未タ(於)朝ニ動(カ)「未」・情欲(於)色ニ見(去)レ未

(ル)トキ・脆(キ)弱ニ破レ「除キ易(去)キカ如シ(也)

其(一)微ナルトキハ散シ易(去)シ

其ノ未タ彰著(去)ナラ「未(ル)トキハ・微小ニ散(去)シ

易(去)シ(也)

之ヲ(於)未タ有(ラ)「未(ル)ニ為メ^(オ中)

為(ムル)所有(ラ)ント欲スルトキハ・當ニ未タ萌芽有(ラ)

「未(ル)ニ」時ニ於(テ)・其(ノ)端(ヲ)塞ク「當(シ)(也)

之ヲ(於)未タ亂レ「未(ル)ニ治ム

身ヲ治メ國ヲ治(ム)ルコト・未タ乱レ「未(ル)之」時ニ於テ

當(三)豫(四)其ノ門ヲ閉ク「ツ」當(シ)(也)

合抱之木生於毫末²⁹

從小成大³⁰

九層之臺起於累土³¹

從卑至高³²

千里之行始於足下³³

從近至遠³⁴

為者則敗之³⁵

有為於事廢於自然有為於義廢於仁有為於色廢於精神也⁴²

執者失之⁴³

執利遇患執道全身妄堅持不得推讓反還⁴⁴

聖人無為故無敗⁴⁹

聖人不為華文不為色利无壞敗⁵²

聖人無執故無失⁵⁹

聖人有德以教愚有財以与貧无所執藏故无所失於人也⁶⁰

合抱ノ之木ハ・〔於〕毫末ヨリ生（維生）（リ）

小從（リ）大ヲ成ス

九層ノ之臺ハ・〔於〕累土ヨリ起ル

卑キ從（リ）高キニ至ル

千里ノ之を行ハ・〔於〕足ノ下ニ始マル

近キ從（リ）遠（キ）ニ至ル

為（ル）者ハ〔則〕敗ル（之）

〔於〕事ヲ為（ル）コト有（ル）トキハ・〔於〕自然ヲ廢ツ・〔於〕義ヲ為（ル）コト有（ル）トキハ・〔於〕仁ヲ廢（ツ）・〔於〕色ヲ為（ル）コト有（ル）トキハ（・）〔於〕精神ヲ廢（ツ）〔也〕

執（ル）者ハ失フ（之）

利ヲ執（ル）トキハ患ヘニ遇フ・道ヲ執（ル）トキハ身ヲ全ス・妄リニ堅（ク）持ルトキハ得不・推讓スルトキハ反リ還ル

聖人ハ為（ル）コト無（シ）・故ニ敗ル、コト無（シ）

聖人ハ・華文ヲ為不・色利ヲ為不・壞レ、敗ル、コト无（シ）

聖人ハ執（ル）コト無（シ）・故ニ失（フ）コト無（シ）

聖人ハ・徳有テ以テ愚ヲ教ヘ・財有テ以テ貧キニ与フ（○）執（リ）藏（平）（ル）所无（シ）・故ニ〔於〕人ヲ失フ所无（シ）〔也〕

民之從事常於幾成而敗之⁶⁷

從為也⁶⁹民之為事常於功德幾成而貪位好名奢泰盈⁷⁰
滿而自敗也⁷⁶⁷⁷⁷⁸

慎終如始則無敗事⁷⁹⁸⁰⁸¹

終當如始不當懈怠⁸²⁸³⁸⁴⁸⁵

是以聖人欲不欲

聖人欲人所不欲⁸⁶人欲彰顯聖人欲伏光人欲文飾聖⁸⁷
人欲質朴人欲於色⁹¹聖人欲於德也⁹²⁹³

不貴難得之貨⁹⁴

聖人不眩⁹⁵冕為服⁹⁶不賤⁹⁷石而貴玉⁹⁸⁹⁹¹⁰⁰¹⁰¹¹⁰²

學不學

聖人學人所不能學也¹⁰³人學智許聖人學自然¹⁰⁴人學治¹⁰⁵
世聖人學治身守道¹⁰⁶真也¹⁰⁷¹⁰⁸¹⁰⁹¹¹⁰¹¹¹

復衆人之所過¹¹²

衆人學問反過本為未過實為華復之者使反本實也¹¹³¹¹⁴¹¹⁵¹¹⁶¹¹⁷¹¹⁸

民ノ之^ス事ヲ從ルコト・常ニ幾一成ニ於テ〔而〕敗ル〔之〕

從ハ・為〔也〕。民ノ〔之〕事ヲ為〔ルコト〕・常ニ功徳ノ幾^{ホト}成
〔ル〕ニ於テ・〔而〕位ヲ貪リ名ヲ好^{ホト}〔去〕〔ミ〕・奢泰盈滿ニッ・
〔而〕自〔ラ〕敗ル〔也〕

終リヲ慎ムコト始メノ如〔ク〕ナルトキハ・〔則〕敗ノ事無〔シ〕

終^リ〔リ〕ニ當ニ始メノ如〔ク〕ス〔當〕シ・當ニ懈リ怠ル〔當〕〔カ
ラ〕不

是〔ヲ〕以テ・聖人ハ・欲〔セ〕不〔ル〕ヲ欲ス

聖人ハ人ノ欲セ不〔ル〕所ヲ欲ス・人ハ彰レ顯レンコトヲ欲
ス・聖人ハ光ヲ伏サント欲ス・人ハ文飾ヲ欲ス・聖人ハ
質朴ヲ欲ス・人ハ〔於〕色ヲ欲ス・聖人ハ〔於〕徳ヲ欲ス〔也〕

得難キ〔之〕貨ヲ貴ヒ不

聖人ハ・眩冕ノ服ヲ為不。石ヲ賤メ〔而〕玉ヲ貴ヒ不

學ヒ不〔ル〕ヲ學フ

聖人ハ・人ノ學フコト能〔ハ〕不〔ル〕所ヲ學フ〔也〕。人ハ智
許ヲ學フ〔フ〕・聖人ハ自然ヲ學フ〔フ〕・人ハ世ヲ治メンコトヲ
學フ・聖人ハ身ヲ治メンコトヲ學フ〔ヒ〕・道ノ真ヲ守ル〔也〕^{ホト}

衆人ノ〔之〕過ス所ヲ復ス

衆人ノ學ヒ問〔フ〕コトハ・反テ本ニ過〔シ〕テ末ヲ為〔ス〕・

以輔萬物之自然

教人反本實者欲以輔助万物自然之性也¹¹⁹¹²⁰¹²¹¹²²¹²³

而不敢為¹²⁴

聖人動作因循不敢有所造為恐遠本也¹²⁵¹²⁶¹²⁷¹²⁸

實ヲ過(シ)テ華ヲ為(ス)・復ルト云ハ(之)者¹²⁹・本實ニ反サ
使(ムル)ソ(也)

以テ萬物ノ(之)自然ヲ輔ケテ¹³⁰

人ニ本實ニ反ルコトヲ教(フル)コトハ(者)・以テ万物ノ・
自然ノ(之)性ヲ輔(ケ)助(ケン)ト欲(ス)レハナリ(也)

(而)敢テ為不

聖人ハ・動作因循ニソ・敢テ造為スル所有(ラ)不・本ヲ
遠(カラ)ンコトヲ恐(レ)テナリ(也)¹³¹

校異

- 1 〔無窮・書陵・足利・斯II・六地・梅沢・東急・聖語・敦II〕は
章題無し、但、〔梅沢・聖語〕は前章との間を空行とする。〔武内・
東大・東洋〕は「守微章第六十四」に、〔杏II・慶I・大東〕は
「其安章第六十四」に「筑波・弘文」は「其安易持章第六十四」に
作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち
〔武内〕は「其安章」、〔東洋・東大〕は「其安易持章」と、〔杏II・
大東・慶I・筑波〕は「守微章」と、〔弘文〕には題下に大字で
「一本云守微第六十四」との書入れがある、尚、〔梅沢〕は冒頭字
「其」右旁に「二十七」と、〔無窮〕は本章首行眉上に「廿七」と
下巻内章次数を標記する
- 2 〔武内〕「守」字に作る、但、左下に見消ち「」を付し左旁に
「安」字を加筆する
- 3 〔書陵〕「特」字に作る、〔無窮〕左旁に「治」、〔東洋・東活〕左
旁には「治述」との校異書入れ有り、〔東洋〕は青筆
- 4 〔書陵〕「特」字に作る
- 5 〔東急・敦II・道藏〕「也」字無し、〔東洋〕は「之也」二字に作
る、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 6 〔東洋〕「乱」字に作る
- 7 〔活I・活II・陽I・無窮・書陵・武内・東大・杏II・筑波・弘
文・慶I・大東・足利・斯II・東洋・梅沢・聖語・東急・敦II・道
藏〕治要「止」字に作る
- 8 〔東急・敦II・治要〕「也」字無し、〔東洋〕は「之也」二字に作
る、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 9 〔動於朝〕、「道藏」至萌に作る
- 10 〔大東〕「施」字に作る
- 11 〔破除〕、「世徳」除破に作る
- 12 〔東急・宋版・世徳・敦II〕「也」字無し、〔東洋〕は「者也」二
字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 13 〔武内・東洋・杏II・慶I・弘文・聖語・治要〕「着」字に作る
- 14 〔武内・慶I・大東〕「少」字に作る
- 15 〔易〕字上、活I・活II・陽I・無窮・弘文・足利・斯II・梅沢・
東急「時」字有り
- 16 〔東急〕「亡」字に作る
- 17 〔慶I・東急・敦II〕「也」字無し
- 18 〔無窮〕「分」字に作る、但、右旁に「於イ」の校異記有り
- 19 〔活I・活II・陽I・無窮・書陵・筑波・弘文・慶I・大東・足
利・斯II・梅沢・東急・治要〕「以」字に作る、〔武内・東大・東洋・

杏Ⅱは「以於」二字に作る、但、「東洋」は「於」字左旁に青筆で見消ちを施す
 20 「武内・東洋・杏Ⅱ・東急・世徳・道蔵」「芽」字に作る
 21 「時」字下、敦Ⅱ「豫」字有り
 22 「弘文」「寒」字に誤る
 23 「敦Ⅱ・道蔵」「也」字無し、「武内」は「也」之、「東洋」は「之也」二字に作る、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを施す
 24 「無窮」「乎」字に作る、但、右旁に「於イ」の校異記有り
 25 「於」字上、敦Ⅱ「當」字有り
 26 「道蔵」「預」字に作る
 27 「世徳」「閑」字に誤る
 28 「敦Ⅱ・道蔵」「也」字無し
 29 「無窮」書陵・足利・梅沢・六地・聖語・敦Ⅱ・治要「豪」字に作る
 30 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・聖語・治要・梅沢「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
 31 「東急」「曾」字に作る
 32 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・武内・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・聖語・治要「立」字に作る、「東大」は「為」字に作る
 33 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
 34 「東大」「為」字に作る
 35 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
 36 「陽Ⅰ・書陵・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地」「者」字無し
 37 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮」武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵・治要「則」字無し
 38 「無窮」「於」字無し
 39 「治要」有為於義廢於仁有為於色廢於精神也」の注文十六字無し

40 「宋版・世徳」「反」字に作る
 41 「杏Ⅱ」「化」字に作る、「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮」筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢「仁恩」「東洋」は「仁思」二字に作る、但、「無窮」は「恩」字左旁に「イ无」との校異記が有り、「東洋」は「思」字左旁に青筆で見消ちを施す、尚「杏Ⅱ」の「化」字字旁に「異ニハ有仁恩ニ字无化字」との校異の書入れが有る
 42 「無窮」梅沢「情」字に作る
 43 「弘文・敦Ⅱ」「也」字無し
 44 「杏Ⅱ・筑波・大東」「害」字に作る、尚、「杏Ⅱ・慶Ⅰ」の眉上に「害或作患也」と（但、「慶Ⅰ」本文は「患」に作る）、「大東」該字左旁に「或患乍」との校異の書入れが有る
 45 「治要」「執道全身」の注文四字無し
 46 「妄堅」「聖語」「堅妄」に作る、「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・梅沢・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」は「妄」字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮」書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・治要「堅」字無し、尚「杏Ⅱ・慶Ⅰ」の眉上に「堅或作妄也」と、「慶Ⅰ」の「堅」字左旁に「妄イ」と、「東洋」は青筆で「堅」字左旁に「一本、右旁に「妄」と「足利」は「妄」字に見消ちを施し眉上に「堅イ」と、「東活」は「妄」字左旁に「堅一本」との書入れが有る
 47 「反還」「道蔵」は「還反」に、「大東」は「反返」に、「弘文」は「返還」に作り、「筑波」は「反」一字に作る
 48 「陽Ⅰ・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語」は「也」字、「活Ⅰ・活Ⅱ・東洋・無窮」は「之也」字、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを施す
 49 「聖」字上、「陽Ⅰ・書陵・慶Ⅰ・足利・六地」「是以」二字有り、尚、「慶Ⅰ」は眉上に「是以二字異本无也」と、「杏Ⅱ」眉上には「是以二字无異本也」と、「東活」は「聖」字上辺に小圈を施し左旁に「是以イ」との校異、また、「杏Ⅱ」は「聖人」句左旁に「聖人之上ニ有是以二字非也」との校勘書入れが有る
 50 「陽Ⅰ・武内・東大・大東・六地・聖語・敦Ⅱ・治要」「无」字に作る
 51 「陽Ⅰ・東大・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ・治要」「无」字に作る
 52 「華文」「道蔵」「文華」に作る
 53 「文」字下、「梅沢」は「无為故无為故无敗」八字、「東急」は

「故不敗」二字、「無窮」は「故」一字有り、尚、「無窮」は「文故」の間に小圈を施し右旁「無為故不敗イ」の書き入れ有り
 54 「色」・「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・治要
 「利色」下、「道蔵」は「己利」は「弘文」は「利」一字に作る
 55 「利」字下、「聖語」は「書故」二字、「梅沢・東急」は「故不殘故」四字、「活Ⅰ」陽Ⅰは「不為殘賤故」活Ⅱ筑波・足利・書陵・宋版・世徳・道蔵・大東?は「不為殘賤故」・「東Ⅱ」は「不為殘害故」・「活要」は「不為殘故」の五字、「無窮・東大」は「不為殘害故」六字、「武内・杏Ⅱ」弘文・慶Ⅰ・斯Ⅱは「故不為殘害故」一字有り、但「東洋」は上「故」字左旁に青筆で見消しを施す
 56 「活Ⅰ」・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・世徳・道蔵「無」字に作る
 57 「壞敗」・「活要」「敗壞」に作る、「陽Ⅰ」は「壞敗」に作る
 58 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急「也」字有り
 59 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・六地・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「聖人」二字無し、「聖」字上、「筑波・大東」は「是以」二字有り、尚「無執」左旁に「書陵」は「聖人」一本と、「東活」は「聖人」一本と、「東洋」は青筆で「無」字の上に小圈を施し、左旁に「聖人」一本と、また「大東」は「聖人」の右旁に「二才イ无」と校異の書入れがある
 60 「武内」・東大・大東・聖語・六地・宋版・敦Ⅱ「无」字に作る
 61 「斯Ⅱ」「故」字無し
 62 「武内」・東大・大東・六地・敦Ⅱ「无」字に作る
 63 「武内」・「食」字に誤る
 64 「活Ⅰ」・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・聖語・世徳・道蔵「無」字に作る
 65 「活Ⅰ」・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・東急・聖語・世徳・道蔵「無」字に作る
 66 「武内」・東急・敦Ⅱ・道蔵「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消しを施す
 67 「民」字上、「杏Ⅱ」筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ「故」字有り
 68 「敗之」・「東大」「之敗」に作る
 69 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑

波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・治要「民人」二字に作る
 70 「陽Ⅰ」・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・書陵・梅沢・東急・宋版・世徳・敦Ⅱ・治要「之」字無し
 71 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵「常」字無し、尚、「東洋」は「常」字左旁に青筆で見消しを施す
 72 「於」字下、「無窮・梅沢・聖語・敦Ⅱ」治要「其」字有り
 73 「梅沢」は「而」字無し、「東急」は「於」字に作る、「聖語」は「而於」二字に作る、但、見消しを施し、眉上に「食」字を加筆する
 74 「足利」「貧」字に作る、但、見消しを施し、眉上に「食」字を加筆する
 75 「審」字上、「道蔵」「而」字有り
 76 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要「目」字無し
 77 「敗」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要「之」字有り
 78 「梅沢・敦Ⅱ」「也」字無し
 79 「武内」・東大・慶Ⅰ・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ・治要「无」字に作る
 80 「武内」・東大・慶Ⅰ・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ・治要「无」字に作る
 81 「事」字下、「筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ」「矣」字有り、尚、「東洋」は青筆で「事」字下に小圈を施し、右旁に「矣才无」と、また「東活」は「事」字下に「矣/才ナ」との書入れがある
 82 「終」字上、「東洋」「慎」字有り
 83 「斯Ⅱ」「如」字無し
 84 「慶Ⅰ」「不」字無し
 85 「意」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「也」字有り
 86 「欲」字下、「道蔵」「也」字有り、尚、「東急」は此の「欲」字は本人欲彰顯聖人欲伏光、「活要」此の九字無し、「人」字下、「東急」は重ねて「人」字有り、但、見消しを施す

89 「敦Ⅱ」〔欲〕字無し
 90 「道藏」〔韜〕字に作る、「聖語」は「伏藏」二字に作る
 91 「治要」〔樸〕字に作る
 92 宋版・世徳〔於〕字無し
 93 東大・東洋・東急・敦Ⅱ・道藏・治要は「也」字無し、「書陵・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ」は「之也」字無し、「聖語」は「也」二字に作る、尚、「東洋」は青筆で「徳」字下に小圈を施し左旁に「之也」二字を加筆する
 94 「不」字上、「弘文」是以聖人欲「五字有り」
 95 「不眩晃為服」、「治要」此の句五字無し、「不」字、「聖語」は「玄」字に作る
 96 「玄」字上、「活Ⅱ」無窮・梅沢は「欲」字有り、「武内・東大・東洋・杏Ⅱ」は「以」字有り、尚、「杏Ⅱ」は「以」字右旁に「无イ」の校異書入れ有り
 97 「宋版・世徳」〔晃〕字無し
 98 「為」字上、「聖語」は「不」字、「敦Ⅱ」は「以」字有り
 99 「服」字下、「道藏」〔玩〕字有り
 100 「石」字下、「斯Ⅱ」暈字「々」有り
 101 「道藏」〔而〕字無し
 102 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・道藏・治要は「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 103 「能」字無し
 104 「學能」に作る、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ」〔能〕字無し、慶Ⅰは「學」字無し、尚、「東造」は「不學」字間に小圈を施し右旁に「能イ」との書入れ有り
 105 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・道藏・敦Ⅱ・治要は「也」字無し
 106 東大・杏Ⅱ・東急〔知〕字に作る
 107 「世」字下、「治要」〔事〕字有り
 108 「身」字下、「武内」〔也〕字有り
 109 「守道眞也」、「治要」此の四字無し、尚、「訓読文補注」8参照
 110 「道眞」・東急 此の二字無し
 111 「無窮」〔眞〕字無し
 112 「敦Ⅱ」〔也〕字無し、「武内」〔矣〕字に作る、「足利」は「之也」二字に作る

112 「復」字上、「東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地」〔以〕字有り、尚、「六地」は「以」字左旁に「才ナ」と、「東洋」は青筆で左旁に見消ちを施し、右旁に「才ナ」と校異の書入れがある
 113 「問」字下、「道藏」〔皆〕字有り
 114 「反」字下、「道藏」〔也〕字有り
 115 「道藏」〔實〕字に作る
 116 活Ⅰ・活Ⅱ・杏Ⅱ〔之〕字無し
 117 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・敦Ⅱ・治要〔實〕字無し、「無窮」右旁に「イ无」と校異書入れ有り
 118 東急・敦Ⅱ・治要〔也〕字無し
 119 「反本」下、「足利」又「反本」二字有り
 120 筑波・大東〔真〕字に作る
 121 「道藏」〔性〕字無し
 122 「敦Ⅱ・道藏」〔也〕字無し、「東洋」〔者也〕二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
 123 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・書陵・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要は「焉」字、「無窮」は「也」字有り
 124 「無窮・足利・治要」〔脩〕字に作る、但、「足利」は見消ちを付し脚に「循」字を加筆する
 125 「有」字下、「無窮」〔自然〕二字有り
 126 「道藏」〔離〕字に作る
 127 道藏・敦Ⅱ・治要〔也〕字無し
 128 「訓読文補注」
 1 「其ノ」一、「無窮」書陵・斯Ⅱ・梅沢・東急・東造は「其レ」と訓む、今、下経文句「其微」の注「其未彰著微小」の訓「其ノ未タ彰著去ナラ」末（ル）トキハ、微小ニソに拠り「ソノ」と訓む、以下も此れに倣う
 2 「安（キ）トキハ」、「陽Ⅰ・梅沢・東急・六地・東造」及び「無窮・書陵」別訓は「シツカナルトキハ」、「慶Ⅰ」は「安キトキハ」、「慶

Ⅰ 別訓は「ヤスンスルトキハ」と訓み、「無窮・杏Ⅱ」は「安トキハ」と加點する、此処は此の本の能爲第十「載營魄」下注「魂靜志道不乱魄安修德延年也」を「魂靜ナルトキハ（道ニ志シテ乱レ不。魄安キトキハ・徳ヲ修メテ年ヲ延フ也）及び「慶Ⅰ」の點に倣い「ヤスキトキハ」と訓んだ。

3 「動(カ)「未Ⅱ」、「東大・慶Ⅰ・杏Ⅱ」は「動セズ」と音読し、「筑波・大東・梅沢」は「ウゴカズ」と訓読する、此の本加點の例に拠れば、「動」単字使用の場合、去用第四十の「反者道之動」(反ハ者・道ノ^レ動ナリ)を除いて訓読しているようである、「應期而動」期ニ應^レ去シテ(而)動ク 易性第八「動善時」下注、「動行无窮極也」(動キ行(キ)テ窮リ極ルコト无シ)也 贊安第十四「繩く不可名」下注、「大音猶雷霆待時而動」(雷^ノ霆ノ時ヲ待(チ)テ(而)動クカ猶(シ) 同異第四十一「大音希声」下注)等の加點に倣い「ウゴカズ」と訓む

4 「閉ク」、「閉ツ」の誤写であろう、「陽Ⅰ・武内・筑波・東大」は「ツ」を送り、「治要・書陵・東活・慶Ⅰ・大東」は「トツ」、「無窮」は「トツル」、「治要別訓・梅沢・東活別訓」は「マホル」、「無窮別訓」は「マモル」の訓を付す

5 「生(リ)」、「陽Ⅰ・東大」は「生ず(ス)」、「東洋」は「生シ」、「武内・弘文・筑波・大東・六地・東活」は「生ル」、「杏Ⅱ・梅沢」は「生レリ」、「無窮・東急」は「生リ」と訓む、今、此の本の「而徳化生也」(而)徳化生ル(也) 論德第三十八經文「故失道而後徳下注」、「先天地生」(天^ノ地ニ先^テテ生レリ 象元第二十五經文)等

の加點の例に照らし、また、次句末の「オコル」に応じて連用形「ナリ」と訓む

6 「為(ル)」、「武内・東大」は「為^ス」と加點、「陽Ⅰ・無窮・書陵・筑波・慶Ⅰ・大東・杏Ⅱ・東洋・梅沢・東急・六地・東活」等點本の多くは「する(スル)」と訓んでいる、今、大勢に従い、また、下經文「民之從事」(民ノ^レ之^レ事ヲ從ルコト)の附訓及び其の注「從ハ・為(也)」を勘案し「スル」と読む、以下同様

7 「好(去(ミ))」、「東大・東洋」は「好ンシ」と訓む、此の本では「好ス」と訓む例は無く、「上好道下好徳上好武下好力(上道ヲ好^レ去(ム)トキハ・下徳ヲ好^レ去(ミ)・上武ヲ好^レ去(ム)トキハ・下力ヲ好^レ去(ム) 鑿遠第四十七「不見而名」下注)等「好ム」と訓む場合が殆どであることに鑑みて、連用形「コノミ」と訓んでおく、尚、「武内」は「好テ」、「慶Ⅰ」は「好ンテ」と加點する

8 「道ノ真ヲ守ル(也)」、「杏Ⅱ」眉上に「守字以下三字菅家不讀之道真之二字忘故也」、「大東」眉上に「守道真三字不讀也避菅家諱也道真二字諱也」、左旁に「一^ノ一^ノ三字菅家江家ニハ不讀也」、「慶Ⅰ」眉上に「守道真三字不讀避菅家諱也」との書入れ有り

9 「本ヲ速(カラ)ンコトヲ」、「無窮・梅沢・治要」は「本を(ヲ)速カランコトヲ」、「陽Ⅰ・書陵・武内・筑波・慶Ⅰ・大東・東活」は「本ニ速カランコトヲ」、「梅沢」別訓は「本ヲ速ケン」、「東大」は「本ニ速サケンコトヲ」と訓む、今、「梅沢・治要」等に倣い、「サカル」の未然形とみて「モトヲサカランコトヲ」と訓んでおく

古之善為道者

説古之善以道治²國³及治國者⁴

非以明民⁶

不以道⁷鑿⁸民使明⁹智¹⁰奸¹¹巧¹²也¹³

將以愚之¹⁴

將以道徳教民使朴質不詐¹⁵偽¹⁶

民之難治以其多智¹⁸

以其智¹⁹太多²⁰故為²¹巧偽²²

以智治國²⁴之賊²⁵

使智惠²⁷之人治國²⁸必遠道德妄作威福²⁹為國之賊³⁰

不以智治國³³之福³⁴

不使智惠³⁵之人知國之政事則民守正³⁶直³⁷不為邪飾³⁸上³⁹

下相親君臣同力故為國之福也⁴¹

知此兩者亦楷式⁴²

古ノ〔之〕善ク道ヲ為^キムル者ハ

古ノ〔之〕善ク道ヲ以テ¹國ヲ治メ及²國ヲ治ム³者ヲ説

フ

以テ民ヲ明^{〔補注〕}〔ラカニセシ〕トニ〔ハ〕非ス

道ヲ以テ民ヲ鑿¹ヘテ・明¹智¹奸¹巧¹ナラ使メ不¹〔也〕

將ニ以テ愚ニセント¹將^ス〔之〕

將ニ以テ道¹徳ヲ民ニ教ヘテ・朴質ヲノ〔使〕詐リ¹偽¹〔ラ〕不

〔ラ〕〔使〕ム^{〔補注〕}

民ノ〔之〕治メ難キコトハ・其ノ〔之〕智多キヲ以テナリ

其ノ智ノ太¹〔タ〕多¹〔キ〕ヲ以テノ故ニ・巧¹偽¹ヲ為¹〔ス〕

智ヲ以テ國ヲ治ム¹ルハ・々〔國〕ノ〔之〕賊ナリ

智惠ノ〔之〕人ヲ使テ・國ヲ治メ¹〔使〕ム¹ルトキ・必ス道德

ニ遠テ^{〔補注〕}・妄リニ威¹福ヲ作¹〔シ〕・國ノ〔之〕賊ヲ為¹〔ス〕

智ヲ以テ國ヲ治メ不¹ルハ・々〔國〕ノ〔之〕福ナリ^{〔補注〕}

智惠ノ〔之〕人ヲノ〔使〕・國ノ〔之〕政事ヲ知¹〔ラ〕〔使〕メ不

〔ル〕トキハ・〔則〕民正¹直ヲ守リテ・邪飾ヲ為¹不上下相親

ッ・君¹臣力ヲ同¹〔シ〕クス・故ニ國ノ〔之〕福ト為¹〔ス〕〔也〕

此ノ兩ノ者ヲ知¹〔ルハ〕・亦楷式ナリ

兩者⁴³謂⁴⁴智⁴⁵与⁴⁶不⁴⁷智⁴⁸也⁴⁹常⁵⁰能⁵¹知⁵²智⁵³者⁵⁴為⁵⁵賊⁵⁶不⁵⁷智⁵⁸者⁵⁹為⁶⁰福⁶¹是⁶²治⁶³身⁶⁴治⁶⁵國⁶⁶之⁶⁷法⁶⁸式⁶⁹也⁷⁰

常⁷¹知⁷²楷⁷³式⁷⁴是⁷⁵謂⁷⁶玄⁷⁷德⁷⁸

玄⁷⁹天⁸⁰也⁸¹能⁸²知⁸³治⁸⁴身⁸⁵及⁸⁶治⁸⁷國⁸⁸之⁸⁹法⁹⁰式⁹¹是⁹²謂⁹³与⁹⁴天⁹⁵同⁹⁶德⁹⁷也⁹⁸

玄⁹⁹德¹⁰⁰深¹⁰¹矣¹⁰²遠¹⁰³矣¹⁰⁴

玄¹⁰⁵德¹⁰⁶之¹⁰⁷人¹⁰⁸深¹⁰⁹不¹¹⁰可¹¹¹測¹¹²遠¹¹³不¹¹⁴可¹¹⁵極¹¹⁶也¹¹⁷

与¹¹⁸物¹¹⁹反¹²⁰矣

玄¹²¹德¹²²之¹²³人¹²⁴与¹²⁵万¹²⁶物¹²⁷反¹²⁸异¹²⁹万¹³⁰物¹³¹欲¹³²益¹³³已¹³⁴玄¹³⁵德¹³⁶欲¹³⁷施¹³⁸与¹³⁹人¹⁴⁰也¹⁴¹

乃¹⁴²至¹⁴³於¹⁴⁴大¹⁴⁵順¹⁴⁶

玄¹⁴⁷德¹⁴⁸与¹⁴⁹万¹⁵⁰物¹⁵¹反¹⁵²异¹⁵³故¹⁵⁴能¹⁵⁵至¹⁵⁶大¹⁵⁷順¹⁵⁸之¹⁵⁹天¹⁶⁰理¹⁶¹也¹⁶²

兩ノ者ト云ハ・智ト不智与ヲ謂(フ)(也)。常ニ能(ク)智者ハ賊ヲ為(シ)・不智ナル者ハ福ヲ為(ス)コトヲ知(ル)・是身ヲ治メ國ヲ治(ム)ル(之)法(式)ナリ(也)

常ニ楷式ヲ知(ル)・是ヲ玄徳ト謂(フ)

玄ハ・天(也)。能(ク)身ヲ治メ及ヒ國ヲ治(ム)ル(之)法(式)ヲ知(ル)・是ヲ天与徳ヲ同(シ)ク(ス)ト謂(フ)(也)

玄徳ハ・深シ(矣)遠シ(矣)

玄徳ノ(之)人ハ・深(ク)ノ測ル可(カラ)不(遠(ク)ノ極ム可(カラ)不(也)

物與反ス(矣)

玄徳ノ(之)人ハ・万(物)与反(異)ス・万(物)ハ・己(ヲ)益セシ

コトヲ欲ス・玄徳ハ・人ニ施シ与ント欲ス(也)

玄徳ハ万(物)与反(異)ス・故ニ能(ク)大(順)ニ至(リ)テ・

天(理)ニ至(順)フ(也)

校異

1 一無窮・書陵・足利・斯II・六地・梅沢・東急・聖語・敦IIは
章題無し、但「梅沢・聖語」は前章との間を空行とする。「武内・
東大・東洋」は「淳徳章第六十五」に、「否II・筑波・慶I・大東」
は「古之善章第六十五」に、「弘文」は「古之善爲道者章第六十五」

に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「夏善章」(「夏」は「古之」の譌であろう)、「東洋・東大」は「古之善章」と、「否II・大東・慶I・筑波」は「淳徳章」と、「弘文」には題下に大字で「一本云淳徳第六十五」との書入れがある、尚、「梅沢」は冒頭字「古」右旁に「二十八」と、「無窮」

は本章首行眉上に「廿八」と下巻内章次数を記す

2 「宋版」は「治」字に誤り、「世徳」は「謂」字に作る

3 「道」字下、「無窮・敦Ⅱ」之「字」有り

4 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・東急」一者「字」無し

5 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語」也「字」有り

6 「梅沢」一人「字」に作る

7 「治要」「非」字に作る

8 「敦Ⅱ」「道教民」より次経文句下注冒頭の「將以」までの十五字脱落

9 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・杏Ⅱ・武内・東大・大東・弘文・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵・治要」使「字」無し、尚、「杏Ⅱ」は、「明民」字間に小圈を施し左旁に「使」字を加筆「東洋」は「使」字左旁に青筆で見消ちを付す

10 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・杏Ⅱ・武内・東大・東洋・足利・斯Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・梅沢・東急・聖語・世徳」

11 「知」字に作る、「足利・東急」「民」字有り、但、「足利」は右旁に見消ちを付す、「姦巧」、「宋版・世徳・道蔵」「巧詐」に作る

12 「筑波」「功」字に誤る

13 「治要」「也」字無し

14 「斯Ⅱ」之「字」無し

15 「朴質」、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・敦Ⅱ・道蔵」は「質朴」に、「治要」は「質撲」に作る

16 「東急」「為」字に作る

17 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語・治要」也「字」有り、「杏Ⅱ」は「之也」、「東洋」は「者也」二字有り、但、「東洋」は「者」字左旁に青筆で見消ちを付す

18 「多智」、「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・東大・東洋・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」は「智多」に、「杏Ⅱ・治要」は「知多」に作る、尚、「東洋」は青筆で「其智」字間に小圈を施し右旁「多」字を加筆し、「智」字下の「多」字左旁には見消ちを付す

19 「以」字上、「敦Ⅱ」は「民之所以難治者」の七字、「道蔵」は

「民之不可治理者」の七字有り

20 「聖語」「知」字に作る

21 「宋版」「世徳」「太」字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・筑波・弘文・斯Ⅱ」は「大」字に作る

22 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要」は「而」字に、「道蔵」は「必」字に作る

23 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・治要」也「字」有り

24 「聖語」「知」字に作る

25 「治」字下、「聖語」疊字「々」有り

26 「無窮」也「字」有り

27 「東洋」青筆で左旁に見消ち、右旁「慧」字を加筆

28 「道蔵」「理」字に作る

29 「國」字下、「東大・東洋」は「之」字、「梅沢」は「事」字、「武内」は「之事」二字、「筑波・慶Ⅰ・大東」は「政事」二字、「聖語・宋版・世徳・道蔵」は「之政事」三字、「敦Ⅱ」は「之正事」三字、「杏Ⅱ」は「之政事則」四字有り、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す

30 「道蔵」「禍」字に作る

31 「福」字下、「道蔵」而「字」有り

32 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・道蔵」也「字」有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す

33 「聖語」「知々」に作る

34 「無窮」也「字」有り

35 「世徳・道蔵」治「字」に作る

36 「敦Ⅱ」「人」字に作る

37 「治要」「不為邪飾」の四字無し

38 「為」字上、「弘文」「使」字に作る

39 「足利・斯Ⅱ・敦Ⅱ」「耶」字有り

40 「治要」「君臣同力」の四字無し

41 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・大東・足利・六地・東急」措「字」に作る

42 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・大東・足利・六地・東急」措「字」に作る

44 43 〔敦II〕「者」字無し
 〔筑波・東急・聖語〕「知」字に作る
 44 44 〔道藏〕「与」字無し
 〔足利・東急・聖語〕「知」字に作る
 46 46 〔敦II〕は「也」字無し、〔宋版・世徳〕は「者」字に作る
 47 47 〔世徳〕「當」字に作る
 48 48 〔世徳〕「能」字無し
 49 49 〔宋版・敦II〕「知」字無し、〔大東〕は「智」字に作る
 50 50 〔道藏〕「為」字無し
 51 51 〔筑波・大東〕「者」字無し、〔者〕字下、〔活I・活II・陽I・無窮・書陵・足利・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳〕「能」字有り
 52 52 〔道藏〕「為」字無し
 53 53 〔敦II〕は「也」字無し、〔書陵・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II〕は「之也」、〔武内・東大・東洋・杏II・聖語〕は「者也」二字に作る、但、〔東洋〕は「者」字左旁に青筆で見消しを付す
 55 55 〔活I・活II〕「搭」字に作る
 〔利・六地〕「能」字に作る
 56 56 〔大東〕「智」字に作る
 〔敦II・道藏〕「及」字無し
 58 58 〔書陵・東急・敦II〕「也」字無し
 61 61 〔弘文〕「矣」字無し
 〔玄〕字上、〔聖語〕「言」字有り
 62 62 〔德〕字上、〔東急〕「礼」字有り
 〔聖語〕「入」字無し
 63 63 〔宋版〕「則」字に誤る
 64 64 〔敦II〕「也」字無し、〔東洋〕は「之也」二字に作る、但、「之」左旁に見消しを付す
 66 66 〔宋版・世徳〕「欲」字を脱す
 67 67 〔人〕字上、〔東洋〕「於」字有り、但、左旁に青筆で見消しを施す
 68 68 〔東急・敦II〕「也」字無し、〔弘文・斯II〕は「之也」二字に作る
 69 69 〔乃〕字上、〔道藏〕「然後」二字有り
 70 70 〔活I・活II〕「陽I・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・梅沢・六地・東急・聖語・敦II・道藏」〔於〕字無し

71 71 「至」字下、〔弘文・斯II・聖語〕は「乎」字、〔無窮〕は「於乎」二字有り
 〔順〕字下、〔道藏〕は「大一」字、〔聖語〕は「之」字有り
 72 72 〔々順〕字下、〔道藏〕「者」字有り、従って「道藏」は「故」字以下「故能至大順大順者天理也」に作る
 73 73 〔聖語〕は「々（順）天」二字無し、従って「聖語」は「故」字以下「故能至乎大順之理也」に作る
 74 74 〔理〕字上、〔東急〕「之」字有り
 75 75 〔東急・敦II〕「也」字無し、〔陽I・書陵〕「之也」二字に作る、尚、〔東洋〕は青筆で「理也」字間に小圈を施し、左旁に「之」字を加筆

訓読文補注

- 1 「明（ラカニセ）▽ト三（ハ）、今、一治要」の左旁訓「アキラカニセントには」、〔梅沢〕の「アキラカニセントニハ」に従う
- 2 「詐り偽（ラ）不（ラ）、不」字傍、送り仮名擦り消された痕跡有り
- 3 「道徳ニ遠テ、一治要は「必道徳を遠テ」、〔書陵・東活・斯II・武内〕は「道徳に（ニ）遠カリ」、〔無窮〕は「道徳に遠カル」と加点する。「道徳ニトヲ（サカル）一大東、道徳をサケテ」「梅沢」との訓もあるが、今、一治要・書陵等に鑑み、「サカル」の連用形音便とみて「サカツテ」と訓む、尚、守微第六十四訓読文補注9参照
- 4 「治メ不ルハ、ル」一字墨色他と異なり、後の補筆の如し
- 5 「乃（チ）」、「東急」は「イマシ」と加点し、〔無窮・武内・大東・杏II〕も「イマシ」と訓んでいるようである、〔慶I・東大〕は「チ」字を送り「スナワチ」と訓む、此の本の「乃」字には加点が無いのが通例で、「チ」の省略であるのか「イマシ」と訓んだのか判別は困難である、「乃チ以テ於天ト下ヲ託ク可シ矣」（狀耻第十三）、「乃チ万ノ民ノ（之）父ノ母ヲランコトヲ欲ッ」（狀耻第十三）

「愛以身爲天下者乃可以託於天下矣」下注の加点の例があること

に鑑み、今は「スナワチ」と訓んでおく

下40才4 後¹已第六十六

江海所以能爲百谷王者以其善下之故⁴

江海以卑下故衆流共歸之若民歸就王者也¹³

故爲百谷王¹⁴

以卑下故能爲百谷王也¹⁸

是以聖人欲上人¹⁹

欲在民之上²³

必以言下之²⁴

法江海処謙虛²⁵

欲先民²⁶

欲在民之前也²⁸

必以身後之²⁹

先人而後已也³⁰

是以聖人處上而民不重³¹

後^キ已第六十六

江海ノ・能(ク)百谷ノ王爲(ル)所以ハ(者)・其ノ善(ク)以テ下^ク去(ル)ヲ以テノ(之)故ナリ

江海ハ・卑下(ヘ)去(ル)ヲ以テノ故ニ・衆流共ニ歸ス(之)・民ノ王(者)ニ歸リ就クカ若シ(也)

故二百谷ノ王爲(リ)

卑下(去)ナルヲ以テノ故ニ・能(ク)百谷ノ王爲(リ)(也)

是(ヲ)以テ・聖人ハ・人ニ上(タラン)コトヲ欲スルニハ

民ノ(之)上ニ在(ラン)コトヲ欲スルソ

必ス言ヲ以テ下(去)ル(之)

江海ニ法リテ・謙虚ニ処(上)(ルソ)

民ニ先タ、ント欲スルトキハ

民ノ(之)前ニ在(ラン)コトヲ欲スルソ(也)

必ス身ヲ以テ後(去)(ニ)ス(之)

人ヲ先(去)ニソ(而)己ヲ後ニス(也)

是(ヲ)以テ・聖人ハ・上ニ處(上)レトモ而モ民重(シ)トセ不

聖人在民上為主不以尊貴虐下故民戴仰以不₃₇害₃₈處前而民不害₃₉

聖人₄₀在民前不以光明蔽後民親之若父母无有欲₄₁害之者也₄₂

是以天下樂推而不厭

聖人恩深愛厚視民若赤子故天下樂共推進以為主₄₃无有厭足者也₄₄

以其不爭₅₄

天下无厭聖人時是由聖人不与民爭先後也₅₅

故天下莫能与之爭₆₄

言人皆爭有為无与吾爭无為者₆₅

校異

1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ」は
「後己章第六十六」に、「否Ⅱ・慶Ⅰ」は「江海章第六十六」に、「筑波・大東」は「江海章第六十六」に、「弘文」は

聖人ハ・民ノ上ニ在テ主為レトモ・尊貴ヲ以テ下ヲ
虐セ不・故ニ民戴キ仰イテ・以テ重シト₄₅害不
前ニ處リ₄₆テ而民害セ不

聖人ハ・民ノ前ニ在レトモ・光明ヲ以テ後ヲ蔽₄₇サ不・
民親スルコト₄₈之・父₄₉母ノ若シ。害₅₀セマク欲スル₅₁之者
有ルコト无シ₅₂也

是ヲ以テ天下樂入₅₃シヒ推ソ₅₄而厭ハ不

聖人ハ・恩深ク愛厚シ。民ヲ視ルコト赤子ノ若シ・故
二天下樂入₅₅シヒテ・共ニ推シ進マテ以テ主ト為ソ・
厭キ足ルコト有ル者无シ₅₆也

其ノ争ハ不₅₇ルヲ以テ

天下聖人ヲ厭フ時无₅₈キコトハ₅₉是レ聖人ノ民与

先後ヲ争ハ不₆₀ルニ由テナリ也

故天下能₆₁ク之与争フコト莫シ

言ハ人ハ皆有₆₂ヲ争ヒ・吾与无₆₃ヲ争フ者无シ

「江海為百谷王章第六十六」に作る、また、本題下に別題名を小書
或いは大書する本がある、即ち「武内・東大・東洋」は「江海章」
「東洋」は青筆で「海章」字間に小圈を施し右旁に「為百谷」三字
の校異がある」と、「否Ⅱ・大東・慶Ⅰ・筑波」は「後己章」と題
し、また「弘文」には題下に大字で「一本云後也第六十六」也

は「已」の譌であろう」との書入れがある、尚、「梅沢」は冒頭字「江」右旁に「二十九」と、「無窮」は本章首行眉上に「廿九」と下巻内章次数を記す

2 「治要」者字無し
 3 「世徳」其字無し
 4 「宋版・世徳・道蔵、治要」故字無し
 5 「海」字下、弘文「者」字有り
 6 「宋版・世徳」下字無し
 7 「活」字下、陽Ⅰ・書陵・足利・斯Ⅱ・東大・弘文・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・教Ⅱ・道蔵・治要「共」字無し
 8 「無窮・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・東大・東洋・杏Ⅱ」字に作る
 9 「無窮」字下、治要「歸之」二字重複、左旁に朱で見字を付す
 10 「無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東」版字に作る
 11 「就」字下、道蔵「於」字有り
 12 「宋版・世徳・道蔵」者字無し
 13 「東急・宋版・世徳・教Ⅱ・治要」也字無し、「梅沢」は「之也」二字に作る、尚、「無窮」は右旁に「イ无」の校異記有り
 14 「東大・杏Ⅱ・梅沢・教Ⅱ」は「能」字に、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東洋・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵」は「故能」二字に作る、尚、「無窮・大東」は「故」字左旁に「イ无」の校異書入れ有り
 15 「以」字上、道蔵「直」字有り
 16 「道蔵」就字に作る
 17 「故」字下、足利・更に「故」字有り、但、見消ちを付す
 18 「教Ⅱ・道蔵」也字無し
 19 「宋版・世徳・教Ⅱ・道蔵」民字に作る
 20 「梅沢」右旁に「入」字の書入れ有り
 21 「宋版・世徳」之字無し
 22 「武内」下字に誤る
 23 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・道蔵」治要「也」字有り
 24 「言」字上、梅沢・東急「其」字有り
 25 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・聖語」也字有り、「梅沢」は「之也」二字有り

26 「梅沢」は左旁に「人」と、「東洋」書・東活「は右旁に「人才」の校異書入れ有り
 27 「無窮・聖語」人字に作る
 28 「教Ⅱ」也字無し
 29 「梅沢」亦字に作る
 30 「教Ⅱ」也字無し
 31 「上而民、道蔵」民上而一に作る
 32 「宋版・世徳・治要」虚字に作る、但、「治要」は右旁に「才作、左旁に「虚」の書入れ有り、「聖語」は「虎」字に誤る
 33 「足利」上下一字に作る
 34 「陽Ⅰ・書陵・武内」載字に作る、但、「書陵」は眉上に「戴」字の書入れ有り
 35 「宋版・世徳」而字に作る
 36 「以」不、「宋版・世徳」以字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・足利・梅沢・東急・聖語・教Ⅱ・道蔵・治要」不以に作る
 37 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・治要」也字有り、「足利」は「之也」二字有り
 38 「弘文」虚字に誤る
 39 「慶Ⅰ・大東」也字有り
 40 「足利」先字に作る、但、眉上に「光」と校異書入れ有り
 41 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・世徳・道蔵」無字に作る
 42 「道蔵」傷字に作る
 43 「梅沢」者字無し、「宋版・世徳・道蔵」心字に作る
 44 「教Ⅱ・道蔵・治要」也字無し
 45 「入」字下、聖語「有」字有り
 46 「斯Ⅱ」思字に作る
 47 「武内」受字に作る
 48 「宋版・世徳・道蔵」如字に作る
 49 「宋版・世徳・教Ⅱ・道蔵」共字無し
 50 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・宋版・世徳・道蔵」無字に作る
 51 「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・足利・梅沢・宋版・世徳」足字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・聖語・教Ⅱ・道蔵」之字に作る、尚、「東洋」は「厭者」字間に青筆で小圈を

施し左旁に「之」字を加筆する

52 〔宋版・世徳・道蔵〕「者」字無し

53 〔弘文・足利・斯Ⅱ・敦Ⅱ〕「也」字無し

54 〔以〕字上、敦Ⅱ「非」字有り

55 活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る

56 〔入〕字下、道蔵「之」字有り

57 活Ⅰ・活Ⅱ「時」字無し、尚、「東活」は「人是」字間に小圈を施し、右旁に「時上」との加筆有り

58 敦Ⅱ「非」字に作る

59 〔由聖人〕、「聖語」聖人由に作る

60 足利「興」字に作る、但、見消ちを付し、右下旁に「与」字を加筆

61 〔武内・東大・東洋・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵〕「人」字に作る

62 〔争先後〕、「無窮」は「争上先」に、「敦Ⅱ」は「争之所致」に作る

63 敦Ⅱ「也」字無し

64 〔武内・東洋〕「能」字無し

65 〔宋版・世徳〕「争」字無し

66 〔有〕字上、道蔵「於」字有り

67 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・斯Ⅱ・足利・東急・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る、「無(无)」字下、「聖語」敦Ⅱ・道蔵「有」字、「宋版・世徳」は「争」字有り

68 足利「興」字に誤る

69 〔与吾〕、「道蔵」此の「二字無し」

70 〔東洋〕「争」字無し、但「吾无」字間に青筆で小圈を施し右旁

に「争」字を加筆する

71 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・杏Ⅱ・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵「無」字に作る、「道蔵」は此の「無」字上に「於」字有り

72 〔宋版・世徳・道蔵〕「者」字無し

73 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・杏Ⅱ・足利・東洋・梅沢・東急・聖語・道蔵「也」字有り

訓読文補注

1 「上タラン」コトヲ、「陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・杏Ⅱ」は「カミタランコトヲ」と訓む、「筑波・斯Ⅱ・足利」も加點から鑑みるに同訓と察せられる、今、此れに従う、尚「東急・治要・書陵別」は「カミタラマク」と訓じ、「慶Ⅰ別・東活別」も同訓であるう、「梅沢」は「カミタラムト」と、「弘文」は「フボラン」^{〔ト〕}と訓む

2 「処(上) (ルソ)」、「筑波・大東」が「ソ」を送る、今、前後の注文の訓「欲スルソ」に倣い「ヨルソ」と訓む、尚、「無窮・斯Ⅱ・東大」は「ヨル」、「書陵・武内・慶Ⅰ」は「ヨレリ」、「梅沢・治要・陽Ⅰ・杏Ⅱ・東活」は「ヨリ」と訓み、「弘文」は「処ス」と音読している

下41ウ2 三寶第六十七

天下皆謂我大似不肖⁴

老子言天下謂我德大我則詐愚似不肖⁹

三寶第六十七

天下皆我ヲ大ナリト謂(フ)。不肖ナルニ似(レリ)

老子ノ言(ハク)・天下・我カ徳大ナリト謂(フ)・我(則)

夫唯大故似不肖¹⁰

夫¹²獨¹³名¹⁴德¹⁵大¹⁶者¹⁷為¹⁸身¹⁹害²⁰故²¹詐²²愚²³似²⁴若²⁵不²⁶肖²⁷無²⁸所²⁹分³⁰別³¹無³²所³³割³⁴截³⁵不³⁶賤³⁷人³⁸而³⁹自⁴⁰貴⁴¹

若肖久矣²³

肖²⁵善²⁶也²⁷詔²⁸辨²⁹惠³⁰也³¹若³²大³³辨³⁴園³⁵之³⁶人³⁷身³⁸高³⁹自⁴⁰實⁴¹行⁴²察⁴³之⁴⁴政⁴⁵所⁴⁶從⁴⁷來⁴⁸久⁴⁹

其細也夫³⁷

言⁴⁰辨⁴¹惠⁴²者⁴³唯⁴⁴如⁴⁵小⁴⁶人⁴⁷也⁴⁸非⁴⁹長⁵⁰者⁵¹

一曰慈

愛⁵⁰百姓⁵¹若⁵²赤⁵³子⁵⁴

二曰儉

賦⁵²斂⁵³若⁵⁴取⁵⁵之⁵⁶於⁵⁷己⁵⁸也⁵⁹

三曰不敢為天下先

許^{イッハ}リ¹愚²ニシテ不³肖⁴ナルニ似⁵(レ)リ

夫⁶平⁷唯⁸大⁹ナリ・故¹⁰二不¹¹肖¹²二似¹³(レ)リ

夫⁶平⁷獨⁸(リ)德⁹ノ大¹⁰ニ名¹¹クル者¹²ハ・身¹³ノ害¹⁴ヲ為¹⁵(ス)故¹⁶ニ・

詐¹⁷リ愚¹⁸ニシテ不¹⁹肖²⁰ナルカ若²¹(キ)ニ似²²(レ)リ・分²³別²⁴ヘ入²⁵スル所²⁶無²⁷(ク)割²⁸截²⁹スル所³⁰無³¹(シ)・人³²ヲ賤³³シテ而³⁴自³⁵貴³⁶ヒ

肖³⁷キカ若³⁸キ久³⁹シ〔矣〕

肖³⁷ハ・善³⁸(也)・辨³⁹惠⁴⁰詔⁴¹謂⁴²(フ)〔也〕。大⁴³辨⁴⁴園⁴⁵ノ〔之〕人⁴⁶ノ若⁴⁷〔之〕身⁴⁸高⁴⁹(シ)トゾ自⁵⁰(ラ)貴⁵¹(シ)トシ・察⁵²々⁵³ノ〔之〕政⁵⁴ヲ行⁵⁵

(フ)・從⁵⁶テ來⁵⁷レル所⁵⁸久⁵⁹シ

其⁶⁰(レ)細⁶¹シケレハナリ〔也夫平〕

言⁶²ハ辨⁶³惠⁶⁴ノ者⁶⁵ハ・唯⁶⁶小⁶⁷人⁶⁸ノ如⁶⁹(シ)〔也〕。長⁷⁰者⁷¹ニ非⁷²ス夫⁷³平⁷⁴我⁷⁵三⁷⁶(ノ)寶⁷⁷有⁷⁸(リ)・持⁷⁹ゾ〔而⁸⁰保⁸¹ツ〕〔之〕

一曰慈

百⁸²姓⁸³ヲ愛⁸⁴スルコト赤⁸⁵子⁸⁶ノ若⁸⁷シ

二曰儉

賦⁸⁸斂⁸⁹・之⁹⁰ヲ〔於⁹¹己⁹²〕取⁹³(ル)カ若⁹⁴(シ)〔也〕

三曰不敢為天下先

執謙退不為倡始⁵⁵
57

慈故能勇

以慈仁故能勇於忠孝也⁵⁹
60 61 62 63 64

儉故能廣

天子身能節儉故民日用廣⁶⁵
66 67 68 69 70 71

不敢為天下先

不敢為天下首先⁷²
73 74 75

故能成器長⁷⁶
77

成器長謂得道人也我能為道人之長也⁷⁸
79 80 81 82

今舍慈且勇⁸³
84

今世人舍慈仁但為武勇也⁸⁵
86 87 88 89

舍其儉且廣⁹⁰

舍其儉約但為奢泰⁹¹
92

舍其後且先⁹³

舍其後但為人先⁹⁴
95

死矣⁹⁶

所行如此動入死道⁹⁷
98

謙退ヲ執テ・倡ノ始メ為(ラ)不(ル)シ

慈アリ故二能(ク)勇ム

慈仁ヲ以テノ故ニ・能(ク)〔於〕忠孝ニ勇ム(也)

儉ナリ故二能(ク)廣シ

天子・身能(ク)節儉ナルカ故ニ・民日ニ用(ル)テ廣シ

敢テ天下ノ先為(ラ)不

敢テ天下ノ首先為(ラ)不

故二能(ク)成器ノ長(上)タリ

成器ノ長ト云ハ道ヲ得(タル)人ヲ謂(フ)〔也〕。我能(ク)道

人ノ〔之〕長(上)為(リ)〔也〕

今慈ヲ舍(上)テ、且勇メリ

今ノ世ノ人ハ・慈仁ヲ舍(上)テ・但武勇ヲ為(也)

其ノ儉ヲ舍(上)テ且廣シ

其ノ儉約ヲ舍(上)テ但奢泰ヲ為

其ノ後(ニ)スルコトヲ舍(上)テ且先ス

其ノ後ニスルコトヲ舍(上)テ・但人ノ先為(リ)

死ヌ(矣)

行(フ)所此ノ如(ク)ナルトキハ・動(ク)トキ死(ル)道ニ入

(ル)

夫慈以戰則勝以守則固⁹⁹

夫慈仁者百姓親附并心一意故以戰則勝敵以守衛¹⁰⁰

則堅固¹⁰³

天將救之以慈衛之¹⁰⁴

天將救助善人必与慈仁之性使能自營助也^{107 108 109 110 111}

夫平慈^アリテ以テ戰^ヲトキハ^ハ則勝^ツ・以テ守ルトキハ^ハ則堅固^シ

夫平慈仁ノ者ハ・百姓親附シテ心ヲ并セ意ヲ一ニス・故ニ以テ戰フトキハ^ハ則敵二勝^ツ・以テ守リ衛ルトキハ^ハ則堅固^シ

天將二救ハント將ルトキハ^之・慈ヲ以テ衛ル^之

天將二善人ヲ救ヒ助^ケント將ルトキハ・必^ス慈仁ノ^之性ヲ与^テ能^ク自^ラ營^ミ助ケ使ム^也

校異

- 1 無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱは
 一題無し、但、梅沢・聖語は前章との間を空行とする。武内・
 東大・東洋は「三寶章第六十七」に、杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東は
 「天下皆謂章第六十七」(但、大東は「皆」を脱し右傍に加筆)に、
 「筑波・弘文」は「天下皆謂章第六十七」に作る、また、本題下に
 別題名を小書或いは大書する本がある、即ち武内は「天下皆章」、
 「東大・東洋」は「天下皆謂章」と、杏Ⅱ・大東・慶Ⅰ・筑波は
 「三寶(寶)章」と題し、また「弘文」には題下に大字で「一本云
 三寶第六十七」との書入れがある、尚、梅沢は冒頭字「天」右
 傍に「三十一」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅」と下巻内章次
 教を記す
- 2 「我」字下、「道藏」「道」字有り
- 3 「似」字下、「聖語」「傾」字有り
- 4 「梅沢」「晋」字に作る
- 5 「謂」字上、「無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・東急・聖語・
 敦Ⅱ・道藏」「皆」字有り、尚「大東」は「下謂」の間に小圈を施
 し右傍に「皆」字を加筆
- 6 旁の「羊」を擦り消し、加筆して「詐」字に訂正、「活Ⅰ・活Ⅱ・

- 7 「似」字下、「武内・東大・杏Ⅱ・聖語・敦Ⅱ」「若」字有り、但、
 藏は「佯」字に作る
- 8 杏Ⅱは「若」字を指示し「イ无」の校異書入れ有り
- 9 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶
 Ⅰ・大東・東急・聖語は「也」字、「東洋・弘文・足利・斯Ⅱ・
 梅沢」は「者也」二字有り、但、「東洋」は「者」字左傍に青筆で
 見消ちを付す
- 10 「夫唯」・「聖語」此の二字無し
- 11 梅沢「晋」字に作る
- 12 宋版・世徳「唯」字に作る
- 13 「道藏」「自」字に作る
- 14 「身」字下、「道藏」「之」字有り
- 15 旁の「羊」を擦り消し、加筆して「詐」字に訂正、「活Ⅰ・活Ⅱ・
 陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・杏Ⅱ・慶Ⅰ・弘文・斯Ⅱ・梅沢・東急」
 は「詐」字、「筑波・大東・宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏」は「佯」字、
 「東洋」は「洋」字に作る

- 〔敦Ⅱ〕〔若〕字無し
 17 16 〔梅沢〕〔背〕字に作る
 18 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・世徳・道蔵〔無〕字に作る
 19 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵〔無〕字に作る
 20 〔弘文〕〔祈〕字に誤る
 21 20 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕字に作る
 22 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急〔は〕〔也〕字、〔東洋〕は〔之也〕二字有り、但〔東洋〕は〔一之〕字左傍に青筆で見消ちを付す
 23 〔聖語〕は此の経文四字、前経文に直接する、従つて前経文下の注文三十字無し
 24 〔梅沢〕〔背〕字に作る
 25 24 〔梅沢〕〔背〕字に作る
 26 26 〔謂辨惠也〕、〔聖語〕此の四字無し
 27 〔武内・東大・東洋・杏Ⅱ〕は〔弁〕字、〔道蔵・敦Ⅱ〕は〔辯〕字、〔東急〕は〔辯〕字に作る
 28 〔無窮〕〔心〕に作り左傍見消ち、右傍〔惠〕字を加筆、〔東急・敦Ⅱ〕は〔慧〕字に作る
 29 〔聖語〕〔世徳〕〔夫〕字に作る
 30 31 30 〔武内・東大・東洋〕は〔弁〕字に、〔東急・敦Ⅱ〕は〔辯〕字に作る
 32 31 30 〔高自〕、〔道蔵〕〔高自〕に作る
 33 〔聖語〕〔貴〕字無し
 34 34 〔行〕字下、〔足利〕〔其〕字有り
 35 35 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・杏Ⅱ・筑波・大東・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵〔は〕〔矣〕字、〔武内・東大・慶Ⅰ・弘文・斯Ⅱ〕は〔之也〕字、〔東洋〕は〔之也〕、〔梅沢〕は〔矣也〕二字有り、但、〔東洋〕は〔之也〕両字左傍に青筆で見消ちを付し右傍に〔矣〕字を加筆する
 37 〔其〕字上、〔聖語〕〔久〕字有り
 38 37 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・東急・宋版・世徳〔字〕字無し
 39 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑

- 波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ〔夫〕字無し
 40 〔武内・東大・東洋・杏Ⅱ〕は〔弁〕字に、〔東急・聖語・敦Ⅱ・道蔵〕は〔辯〕字に作る
 41 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・梅沢・聖語〔は〕〔也〕字、〔書陵・弘文・斯Ⅱ・東急・敦Ⅱ〕は〔矣〕字、〔足利〕は〔矣也〕二字に作る、但、〔東洋〕は青筆で〔也〕左傍に見消ちを付し右傍に〔矣〕字を加筆
 42 41 〔道蔵〕〔治要〕〔夫〕字無し
 43 42 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・梅沢・聖語〔は〕〔也〕字、〔書陵・弘文・斯Ⅱ・東急・敦Ⅱ〕は〔矣〕字、〔足利〕は〔矣也〕二字に作る、但、〔東洋〕は青筆で〔也〕左傍に見消ちを付し右傍に〔矣〕字を加筆
 44 〔道蔵〕〔治要〕〔夫〕字無し
 45 44 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・足利・梅沢・六地・東急・宋版・世徳〔寶〕字に作る、尚、〔杏Ⅱ〕は〔寶〕字左傍に〔保イ〕と、また、〔無窮〕は〔保〕右傍に〔寶イ〕の校異書入れ有り
 46 45 〔老子〕、〔梅沢〕右傍に〔本〕二字无の校異書入れ有り
 47 〔抱〕字上、〔無窮〕〔可〕字有り
 48 47 〔弘文・慶Ⅰ・足利・斯Ⅱ〕は〔也〕字、〔東急・敦Ⅱ〕は〔道蔵〕〔治要〕は〔一之〕字、〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波、大東・梅沢・聖語・無窮〔は〕〔之也〕二字有り
 49 〔道蔵〕〔如〕字に作る
 50 51 50 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢〔は〕〔也〕字、〔聖語〕は〔也〕々々、〔東洋〕は〔者也〕二字有り、但、〔東洋〕は〔者〕字左傍に青筆で見消ちを付す
 51 50 〔宋版〕〔儉〕字に作る
 52 53 52 〔書陵〕〔於〕字無し、尚、〔東洋〕は〔於〕字左傍に青筆で見消ちを付す
 53 52 〔筑波〕大東・敦Ⅱ・治要〔也〕字無し
 54 〔世徳〕〔敢〕字に作る
 55 54 〔陽Ⅰ・無窮〕武内・東洋・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要〔唱〕字に作る、尚、〔梅沢〕〔唱〕字左傍に〔倡〕の校字有り
 56 55 54 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵・治要〔也〕字有り
 57 〔活Ⅰ・活Ⅱ〕陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・道蔵・治要〔也〕字有り
 58 〔慈〕字上、〔道蔵〕〔夫〕字有り

59 「以」字上、「道藏」〔先〕字有り
 〔宋版・世徳二爲〕字に作る
 〔慈仁〕、「道藏」〔仁慈〕に作る
 60 61 「道藏」〔乃〕字に作る
 〔筑波・慶一・大東〕字に作る
 62 63 「敦波・道藏・治要」字無し
 〔敦波・慶一・大東〕字無し
 64 65 「天子」〔活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏二〕字無し
 〔活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏二〕字無し
 66 陽一・書陵・武内・東大・東洋・杏二・筑波・弘文・慶一・大東・足利・斯二・躬一 字に作る、尚、〔無窮〕〔身〕字右旁に「躬イ」の校異書入れ有り
 67 「身能」〔活一〕「能躬」に作る
 68 「日用」〔活一〕「日」字に作る
 69 「日用」〔陽一・書陵・武内・東大・東洋・杏二・筑波・弘文・慶一・大東・足利・斯二・梅沢・東急・敦二〕「用日」に作る、尚、〔東洋〕は「用日」右旁に青筆で「日用或本」と校異の書入れ有り
 70 「梅沢」は「寛」字に、〔活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・杏二〕筑波・弘文・慶一・大東・足利・斯二・東急・聖語 は一寛廣一二字に作る
 71 「活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏二・筑波・慶一・大東・弘文・足利・斯二・梅沢・聖語・治要」は「也」字
 〔宋版・世徳・道藏〕は「矣」字有り
 72 「道藏・治要」此の注文七字無し
 73 74 「宋版・世徳」〔敦〕字無し
 75 「敦一」〔活一〕字無し
 76 文・慶一・大東・足利・斯二・梅沢・東急・聖語 〔也〕字有り
 〔慶一〕〔敦〕字無し
 〔敦一〕〔成〕字に作る
 77 78 「成器」〔敦二〕此の二字無し
 〔長〕字下、〔東急〕〔者〕字有り
 79 「敦二」〔也〕字無し
 80 81 「敦二」〔之〕字無し
 〔敦二〕〔也〕字無し
 82 83 「宋版・世徳」〔捨〕字に作る
 84 「慈」字上、〔筑波・弘文・大東・六地・道藏〕〔其〕字有り、尚、

〔東洋（青）東活〕は「舍慈」字間に小圈を施し左旁に「其才ナ」と校異の書入れ有り
 85 「世」字下、〔活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏二〕筑波・弘文・慶一・大東・足利・斯二・東急 〔之〕字有り
 86 「舍」字下、〔敦二〕〔其〕字有り
 〔無窮〕〔但〕字無し
 87 88 「武勇」〔武内・東大・東洋・東急・聖語・宋版・世徳・敦二・道藏・治要〕〔勇武〕に作る
 〔敦二〕〔道藏・治要〕〔也〕字無し
 89 90 〔活一・活二・陽一・無窮・武内・東大・東洋・杏二〕筑波・弘文・慶一・大東・斯二・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦二・治要 〔其〕字無し、但、〔東洋（青）東活〕は「舍儉」字間に小圈を施し右旁に「其」字を加筆する
 91 〔敦二〕〔爲〕字無し
 92 93 「活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・東大・杏二・筑波・慶一・大東・弘文・足利・斯二・梅沢・聖語」〔也〕字有り、〔東洋〕は「者也」二字有り、但「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 94 「活一・活二・陽一・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏二・慶一・梅沢・六地・東急・聖語・宋版・世徳・敦二・治要」〔其〕字無し、但、〔東洋（青）東活〕は「舍儉」字間に小圈を施し字旁に「其才ナ」と校異の書入れ有り
 95 96 「爲人先」〔道藏〕〔務先人〕に作る
 〔活一・活二・無窮・東大・杏二〕筑波・大東・梅沢・聖語 〔也〕字有り
 97 「死」字上、〔無窮〕〔則〕字有り、但、右旁に「イ无」の校異書入れ有り
 98 99 「宋版・世徳」〔地〕字に作る
 〔活一・活二・陽一・東大・杏二〕筑波・慶一・大東・弘文・足利・斯二・無窮・書陵・梅沢・聖語 〔は〕〔也〕字、〔武内・東洋〕は「者也」二字有り、但、〔東洋〕は「者」字左旁に見消ちを付す
 100 「以」字上、〔活一・活二・陽一・東洋・杏二〕筑波・慶一・大東・東急 〔は〕〔仁〕字、〔武内・東大〕二字有り
 101 〔筑波〕〔家〕字に誤る
 102 〔并心意〕〔治要〕此の四字無し
 103 「活一・活二・陽一・武内・東大・杏二〕筑波・慶一・大東・弘

文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・六地・東急・聖語・治要は「也」字、「東洋」は「者也」二字有り、但、「東洋」は「者」字左傍に青筆で見消ちを付す

104 「將救之以慈衛之」、敦Ⅱ 此の經文七字脱

105 「救」字上、無窮「以」字有り

106 「之」字下、道藏「以善」二字有り

107 「敦Ⅱ」字下、無窮「以」字有り、

108 「將」字下、無窮「以」字有り、「足利」は字下更に「將」字有り、但、見消ちを付す

109 「敦Ⅱ」能」字無し、

110 「宋版・世徳」當」字に誤る

111 「敦Ⅱ」也」字無し

訓読文補注

1 「似(レリ)」、〔書陵・武内・足利・杏Ⅱ・弘文・東大・梅沢・東急・無窮別・六地・東活〕は「フレリ」、〔陽Ⅰ・無窮・筑波・大東・斯Ⅱ・東活別〕「ニタリ」と訓んでいる、両訓併通していたようである、今、〔書陵〕等に倣い「フレリ」と訓む、以下の「似」字も同様、尚、本点本では「似」字の送り仮名の例は認められない

2 「老子ノ言(ハク)」、〔梅沢・無窮・書陵・東活〕は「老子の言」、〔陽Ⅰ〕は「老子ノ言ク」、〔東大・筑波・大東・東洋・杏Ⅱ〕は「老子ノ言ク」、〔武内〕は「老子言ク」、〔弘文〕は「老子ノ言ハク」

6 「自(ラ)」、〔杏Ⅱ・筑波・大東〕は「自」字に「ヲ」、〔武内・慶Ⅰ・東洋〕は「ミ」の振り仮名が有る、今〔武内・慶Ⅰ・東洋〕に倣い「ミツカラ」と訓んでおく

下43才6 配天第六十八

善為士者不武

言貴道徳不好武力

ク」と加點、今、これらに従う、尚、修觀第五十四訓読文補注6參照

3 「夫(平)唯」〔書陵・東洋(青)・東活〕「唯」字左傍に「独(獨)也」の訓義書入れ有り、尚、知病第七十一訓読文補注1參照

4 「來レル」、「レ」は元「ス」の如し、「レ」字を重書さし、かつ更に左傍に「レ」を加筆する

5 「日ニ用(井)テ」、「用」の訓例として、本点本には「用フ可(キ)无(キ)」、〔安用第六十九〕「執無兵」下注、「用フ可(シ)」(天道第七十七「高者抑之下者一」下注、「用ヒ不ト云ハ」(獨立第八十「人之器而不用」下注)、或いは「籌策ヲ用井不(巧用第二十七)の事例を認める、しかし、殆どの場合「用ル」「用タル」「用テ」等と省記されるのが通例である、今、「籌策ヲ用井不」及び、「而貴食母(異俗第二十)の「食」、〔百姓皆注其耳目(任徳第四十九)の「注」に「モチ井ル」と加點されている例に鑑み、便宜「井」を補う

6 「自(ラ)」、〔杏Ⅱ・筑波・大東〕は「自」字に「ヲ」、〔武内・慶Ⅰ・東洋〕は「ミ」の振り仮名が有る、今〔武内・慶Ⅰ・東洋〕に倣い「ミツカラ」と訓んでおく

配天第六十八

善(ク)士為(ル)者ハ・武ナラ不

言ハ道徳ヲ貴(ヒ)・武力ヲ(好)マ(不)

善戰者不怒

善以道戰者禁邪於胸心絕禍於未萌无所誅怒也¹⁰

善勝敵者不與¹²

善以道勝敵者附近以仁來遠以德不與敵戰而敵自服也¹⁷

善用人者為之下¹⁸

善用人自輔佐者常為人執謙下也²¹

是謂不爭之德²²

謂上為之下也是乃不與人爭鬪之道德也²⁷

是謂用人之力

能身為人下是謂用人臣之力³⁰

是謂配天³¹

能行此者德配天地³²
³³

古之極³⁴

善(ク)戰フ者ハ・怒ラ不

善(ク)道ヲ以テ戰フ者ハ・邪ヲ(於)胸心ニ禁シ禍ヲ(於)未萌ニ絶(ツ)・誅怒スル所无(シ)(也)

善(ク)敵ニ勝ツ者ハ・與ニセ不

善(ク)道ヲ以テ敵ニ勝(ツ)者ハ・近キニ附ルニ仁ヲ以テシ・遠キヲ來スニ德ヲ以(テ)シ・敵与戰ハ不ツ・(而)敵自(ツカ)ラ(服)ス(也)

善(ク)人ヲ用(井)ル者ハ・之カ下為(リ)「之カ為ニ下ル」^(補注2)

善(ク)人ヲ用(井)テ自(ラ)輔(佐)スル者ハ・常ニ人ノ為ニ謙下ヲ執(ル)(也)

是ヲ不(争)ノ(之)德ト謂(フ)

上之カ為ニ下(去)ルヲ謂(フ)(也)○是乃(チ)人(与)争ヒ鬪(カ)ハ不ルハ(之)道ト德ナリ(也)

是ヲ人ノ(之)カヲ用(井)ルト謂(フ)

能(ク)身(ヲ)人ノ下為(リ)・是ヲ人臣ノ(之)カヲ用(井)ルト謂(フ)

是ヲ天ニ配スト謂(フ)

能(ク)此ヲ行フ者ハ・德天地ニ配ス
古ノ(之)極ナリ

是乃古³⁵之約³⁶要道³⁷也³⁸

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ」は章題無し、但、「梅沢・聖語」は前章との間を空白とする。「武内・東大・東洋」は「配天章第六十八」に、「杏Ⅱ・慶Ⅰ」は「善為章第六十八」に、「筑波・弘文・大東」は「善為主章第六十八」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「善為章」、「東大・東洋」は「善為主章」と、「杏Ⅱ・筑波・大東・慶Ⅰ」は「配天章」と題し、また「弘文」には題下に大字で「一本云配天第六十八」との書入れがある、尚、「梅沢」は冒頭字「善」右旁に「三十一」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅一」と下巻内章次数を記す
- 2 「善」字上、敦Ⅱ・道蔵「古之」二字有り
- 3 「大東」「母」字に作る
- 4 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語」「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 5 「斯Ⅱ・敦Ⅱ」「耶」字に作る
- 6 「胸心」「道蔵」「心胸」に作る
- 7 「筑波・慶Ⅰ」「福」字に作る
- 8 「活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵」無字に作る
- 9 「杏Ⅱ・東洋」字無し、但、「東洋」は青筆で「无誅」字間に小圈を施し右旁に「所」字を加筆
- 10 「敦Ⅱ」「也」字無し、「筑波・大東・東洋」は「之也」二字に作る、但、「東洋」は青筆で「之」字左旁に見消ちを付す
- 11 「宋版・世徳」「戰」字に作る
- 12 「道蔵」「争」字有り
- 13 「足利」「迹」字に作る、但、左旁に見消ちを付し右下旁に「遠」字を加筆する
- 14 「宋版・世徳・道蔵」「争」字に作る
- 15 「弘文」「敵」字無し
- 16 「服」「書陵」、左旁に「或乍伏」の書入れ有り
- 17 「東洋」「之也」二字に作る、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを

是乃(チ)古ノ「之」約(去)要ノ道ナリ(也)

付す

- 18 「弘文」「善」字無し
- 19 宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「之」字無し、「武内」「人」字に作る
- 20 道蔵「佐」字無し、「東急」は「作」字に作る
- 21 敦Ⅱ・道蔵「也」字無し
- 22 「謂」字下、弘文「配天」二字有り
- 23 「上」字下、「道蔵」「文」字有り
- 24 「武内」「人」字に作る
- 25 宋版・世徳「開」字無し
- 26 道蔵「乃是」二字に作る
- 28 東急・敦Ⅱ・道蔵「也」字無し
- 29 「下」字下、「敦Ⅱ」「者」字有り
- 30 道蔵「臣」字無し
- 31 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「也」字有り、尚、「東洋」は「力」字下に青筆で「也」字を加筆
- 32 「弘文」「是」字無し
- 33 「斯Ⅱ・聖語」「地」字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・梅沢・東急・世徳・敦Ⅱ・道蔵」は「也」字に作る
- 34 聖語「能行此德是為与天相配也」の注文十一字有り、尚、「無窮」は「也」字下に小圈を施し左旁「能行此德是為与天相配也イ」の校異記有り
- 35 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・六地・東急・聖語「道蔵」「也」字有り
- 36 「之」字下、諸本「極」字有り
- 37 宋版・世徳・道蔵「は」「約」一字、「聖語」は「約要」二字無し
- 38 「筑波」「導」字に作る
- 39 「慶Ⅰ・聖語・敦Ⅱ」「也」字無し

訓読文補注

1 「武ナラ不」、〔陽Ⅰ・六地・慶Ⅰ・武内・杏Ⅱ・東活〕の訓に同じ、別訓「タケカラス」は「梅沢・書陵・無窮・東洋・東急・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ」の主訓、「慶Ⅰ・武内・東活・杏Ⅱ」の別訓と一致する

2 「カ下為(ヘリ)」「カカ為(ケル)」、〔陽Ⅰ・書陵・大東・慶Ⅰ・筑波・弘文・東活〕及び「六地」別訓が「コレカシモタリ」、「東急・杏Ⅱ・東洋・東大・六地」及び「書陵・大東・慶Ⅰ・筑波・東活」の別訓が「コレカタメニクタル」と訓読する、また、「梅沢」は「之」下(シモ)の為(ケル)ナリ、「武内」は「人ノ為(メ)ニ下ル」と加点する、尚、「東活」別訓下に「中」の符(ナ)有り、「コレカタメニクタル」は中原家点と考えられる

下44オ4 玄用第六十九

用兵有言

陳用兵之道老子疾時用兵故託已設其義也

吾不敢為主

主先也不敢先舉兵

而為客

客者和而不唱用兵當承天而後動

3 「輔佐スル」、左旁の「ル」点は「タスクル」の訓を示すのであろう、「梅沢」に「輔ケ佐クル」、「書陵」に「輔ケ佐る」、「無窮」に「輔佐」の加点を認める

4 「乃(チ)」、「梅沢・慶Ⅰ」は「チ」を、「武内」は「シ」を送り、杏Ⅱは右旁に「イ」を点する、今、「梅沢・慶Ⅰ」に倣い「スナハチ」と訓む、下句「古之燕」注冒頭の「是乃」も同様に訓む
5 「能ク身(シ)人ノ下為(ヘリ)」、「大東」は「能ク身カラ人ノ下為(ヘリ)」と加点、「梅沢・筑波」も同訓で、今、此の訓読に従う、尚、「陽Ⅰ」は「能ク身・人の為(メ)ニ下ル」と加点し、「書陵・無窮・杏Ⅱ・武内・慶Ⅰ・筑波別訓」も同様に訓まれている

玄用第六十九

兵ヲ用(井)ルニ言有(リ)

兵ヲ用(井)ル(之)道ヲ陳(フ)・老子・時ノ兵ヲ用(井)ルコトヲ疾ム・故ニ己ニ託ケテ其ノ義ヲ設ク(也)

吾敢テ主ト為不

主ハ先(也)敢テ先(タテ)兵ヲ舉セ不

(而)客(ト)為

客ハ(者)・和(ソ)而(而)唱セ不・兵ヲ用(井)ルコトハ・當(二)天

不敢進寸而退尺

侵人境界利人財寶為進閉門守城為退

是謂行無行

彼遂不止為天下賊雖行誅之不行執也

攘無臂

雖欲攘臂大怒若無臂可攘

仍無敵

雖欲仍引之心若无敵可仍也

執無兵

雖欲執持之若无兵刃可持用也何者傷彼之民懼罪於天遭不道之君愍不忍喪之痛也

禍莫大於輕敵

二承(ケ)テ而ノ「後ニ動ク」當「シ

敢テ寸ヲ進マ不ソ・「而」尺ニ退ク

人ノ境「界」ヲ侵シ・人ノ財寶ヲ利スルヲ・進ト為・門ヲ閉

(「子」)城ヲ守ルヲ・退ト為

是ヲ行イテ行(ク)コト無(ク)

彼遂ニ止マ不ソ・天「下」ノ賊ト為(ル)・誅ヲ行フト雖(之)・

行(イ)テ執(ラ)ヘ不(也)

攘クルニ臂無(ク)

臂(ヲ)攘(ケ)テ大ニ怒(ラ)マク欲スト雖・臂攘(ク)可キ无

(キカ)若(シ)

仍クニ敵無(ク)

仍(キ)引(カ)マク欲スル(之)心アリト雖・敵ノ仍(ク)可(キ)

无(キ)カ若(シ)(也)

執(ル)ニ兵無(シ)ト謂(フ)

執(リ)持(ラ)マク欲(ス)ト雖(之)・兵刃ノ持(リ)用フ可

(キ)无(キ)カ若(シ)(也)。何(ト)困レハ「著」・彼ノ「之」民

ノ・罪ニ「於」天ニ罹リテ・不道ノ「之」君ニ遭テ・愍メ喪(去)

ヒントスルニ忍(ヒ)不ソ「之」痛ムヲ傷ム(也)

禍ハ・「於」敵ヲ輕(シ)スルヨリ大ナルハ莫(シ)

夫禍乱之害莫大於欺輕敵家侵取不休輕戰貪財^{59 60 61 62 63}

輕敵⁶⁴幾喪⁶⁵吾寶⁶⁶

幾近也寶身也欺輕敵家近喪身也^{67 68 69 70 71}

故抗兵相加⁷²

兩敵戰也^{73 74 75}

哀者勝矣^{76 77 78}

哀者慈仁士卒不遠於死^{79 80 81 82 83}

校異

- 1 一無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・梅沢・東急・聖語・教Ⅱは
 章題無し、但、一聖語とは前章との間を空行とする。尚、一梅沢は
 改行せず前章末尾に直接し分章しない、一武内・東大・東洋は
 「玄用章第六十九」に、一杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東は「用兵章第六十九」
 に、一筑波・弘文は「用兵有言章第六十九」に作る、また、本題
 下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち一武内は「用兵
 章」、一東大・東洋は「用兵有言章」と、一杏Ⅱ・筑波・大東・慶
 Ⅰは「玄用章」と題し、また一弘文には題下に大字で「一本云
 玄用第六十九」との書入れがある。尚、一無窮は本章首行眉上に
 「卅二」と下巻内章次数を記す
- 2 一梅沢「故」字無し
- 3 一東大・斯Ⅱ「一説」字に作る
- 4 一教Ⅱ・道藏「也」字無し、一書陵・梅沢は「之也」二字に作
 る、尚、一東洋は青筆で「義也」字間に小圈を施し右旁に「之」

夫(乎)禍乱ノ(之)害(ハ)・(於)敵家ヲ欺キ、輕(シ)シ・侵
 シ、取テ休(マ)不・輕(去)シク、戰テ財ヲ貪ルヨリ大ナルハ莫
 (シ)

敵ヲ輕(シ)スルハ・吾カ寶ヲ喪(去)ホスニ幾(シ)

幾ハ・近(也)也。寶ハ・身(也)也。敵ノ、家ヲ欺キ、輕(シ)スルトキ

ハ身ヲ喪(去)ホスニ近(シ)(也)

故ニ兵ヲ抗(ケ)テ相(加)ル

兩敵戰フ(也)

哀(シ)フ者ハ勝(ツ)(矣)

哀(シ)フ者ハ慈仁アリ・士卒・(於)死ニ遠(去)ラ不

- 5 字を加筆する、また、一聖語は「義也」二字重複
- 6 一書陵は「容」字に作る
- 7 一杏Ⅱ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘
 文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・聖語・治要「也」字あり、
 東洋は「者也」二字有り、但「者」字左旁に青筆で見消ちを付
 す
- 8 一書陵「容」字に作る
- 9 一書陵は「能」字に作る
- 10 一活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・東大・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯
 Ⅱ・未版・世徳・道藏・聖語?・一倡」字に作る、尚、一梅沢は
 「唱」字左旁に「倡」と校異書入れ有り
- 11 一道藏「用」字無し
- 12 一天一字下、一聖語「命」字有り
- 13 一筑波「而」字重複、但「上」字に見消ちを付す
- 14 一杏Ⅱ「后」字に作る
- 15 一活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・東大・杏Ⅱ・梅沢・東急・聖語・治

訓読文補注

- 〔武内〕は「慢」一字に、「治要」は「欺軟輕」三字に作る、但、「治要」は「軟」字左旁に見消ちの朱小圈を付す
- 〔陽Ⅰ・筑波〕「体」字に作る
- 〔輕戰〕、陽Ⅰ 此の二字無し
- 60 61 60 59
〔貪〕字上、道藏「而」字有り
〔弘文〕「賤」字に作る、道藏は「財寶」一字に作る
- 63 62 61 60 59
〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・治要〕「也」字有り、東洋は「者也」一字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 64
〔治要〕「故」字に作り、見消ちを付して右旁に「輕」字を加筆する
- 65 65
〔敵〕字下、敦Ⅱ「則」字有り
- 66 65
〔無窮〕は左旁に「亡」の校異書入れ有り
- 67
〔治要〕「也」字無し
- 68 67
〔欺軟〕、「敦Ⅱ・道藏」に作る
- 70 69 68 67
〔身〕字上、陽Ⅰ・書陵・敦Ⅱは「於」字、「聖語」は「吾」字有り、尚、東洋は青筆で「喪身」字間に小圈を施し左旁に「於」字を加筆
- 71 72 71
〔敦Ⅱ〕は「也」字無し、「聖語」は「也」字重複
- 72 71
〔慶Ⅰ〕「如」字に作る
- 73 72 71
〔兩敵戰也〕、「治要」此の注文四字無し
- 74 73 72 71
〔聖語〕「對」字に作る
- 75 74 73 72 71
〔也〕字上、斯Ⅱ「則」字有り
- 76 75 74 73 72 71
〔哀〕字上、道藏「則」字有り
- 77 76 75 74 73 72 71
〔道藏〕「者」字無し
- 78 77 76 75 74 73 72 71
〔道藏〕「也」字に作る
- 79 78 77 76 75 74 73 72 71
〔哀〕字上、道藏「已」字有り
- 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71
〔敦Ⅱ〕「入」字に作る、但、見消ちを付し右旁に「遠」字を加筆
- 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71
〔足利〕「迹」字に作る、但、見消ちを付し右旁に「遠」字を加筆
- 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71
〔道藏〕「已」字に作る
- 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71
〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・足利・梅沢・治要〕「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、兩字左旁に青筆で見消ちを付す

- 1 「言有(リ)」、東急・弘文・慶Ⅰ別訓は「言フヘキコト有り」と加し、「治要・東活・陽Ⅰ・梅沢・無窮・武内・杏Ⅱ」が同様に訓んでいる、他に「筑波・大東」は「イフヘキ」、東洋・慶Ⅰは「イヘルコト」、武内・無窮の別訓は「イフコト」、東大は「コト」と訓まれているが、此の本には附訓が無く、斯Ⅱも同じである
- 2 「先(タテ)」、治要・東活・陽Ⅰ・慶Ⅰ・大東・筑波・杏Ⅱ・武内・斯Ⅱが「サイタ(ツ)テ」と訓む、これに従う、無窮・梅沢・東大は「マツ」と訓む
- 3 「輕(シ)スル」、無窮・東洋は「カロンスル」、梅沢・陽Ⅰ・書陵・斯Ⅱ・慶Ⅰ別訓・東活は「カロクシクスル」、治要・陽Ⅰ別訓・武内別訓・筑波・大東・慶Ⅰ・東活別訓は「アナトル」と訓む、送り仮名「スル」には「カロンスル」或いは「カロクシクスル」の訓が相応するが、今「無窮・東洋」に倣い「カロンスル」と訓む、尚、本点本も「輕シク言(ハ)不(安民第三「使夫知者不敢為也」下注、「重キハ輕(去)シキカ根為(リ)」(重徳第二十六經文、「輕シク諾スルハ」(恩始第六十三經文)等「カロクシク」の訓例があるが、いずれも「シク(キ)」を送っている、本經文句下の「輕(去)シク戰テ」と同例である)
- 4 「加(ル)」、治要・陽Ⅰ・書陵・東活・武内・筑波・慶Ⅰ・大東・杏Ⅱ・斯Ⅱ・東洋・足利・六地は「アタル」、梅沢・弘文・東大・筑波別訓・杏Ⅱ別訓・武内別訓・慶Ⅰ別訓は「ノソム」と訓む、また、武内別訓には「ミタル」ともある、今、「治要・陽Ⅰ」等に倣い「アタル」と訓む
- 5 「哀(シ)フ」、治要・無窮及び「東活」の左旁別訓が「カナシ

フ」と訓む、「東适」の左旁訓には「中」符が添えられ中原家点であることを示している、同本訓は「ヘル」を送り、「陽Ⅰ・書陵・無窮別訓・梅沢別訓」が同じ、「武内・杏Ⅱ・慶Ⅰ・弘文」は「カナシメル」、「東急・筑波・大東」は「カナシム」、「東洋」は「カナシウスル」、「六地」は「ウレヘル」、「梅沢」は「ヤシナフ」と訓んでいる

6 「於」死ニ遠去ラ不、「陽Ⅰ」は「死に遠ラ不」と加點、無窮・東大・筑波・杏Ⅱ・大東・東大」が同訓のようで、今、此の訓に従う、尚、「治要・梅沢」は「死に遠去ヘ不」で「書陵・東适」が同訓、「東活別」は「死ヲ遠ヘ不」、「武内」は「死ヲ遠ケ不」と訓む、守微第六十四訓読文補注9、淳徳第六十五同注3参照

下45ウ1 知難第七十

知難第七十

吾言甚易知甚易行

吾カ言甚タ知(リ)易(去)シ・甚(タ)行ヒ易シ

老子言吾所言省而易知約而易行

老子ノ言(ハク)・吾カ言(フ)所・省イテ(而)知(リ)易(去)シ。約(マ)ヤカニシテ(而)行ヒ易(去)シ

天下莫能知莫能行

天下・能(ク)知(ル)コト莫(ク)能(ク)行フコト莫(シ)

人柔弱好刚強也

人柔弱ヲ悪(去)シテ・剛強ヲ好(去)シ(也)

言有宗事有君

言ニ宗有(リ)・事ニ君有(リ)

我所言有宗祖根本事有君臣上下世人不知者非我之无徳心与我反

我カ言(フ)所・宗祖根本有(リ)・事ニ君臣上下有(リ)・世人ノ知(ラ)不(ル)コトハ(者)・我カ(之)徳无(キ)ニ非ス。心我(ト)与(反)ス

夫唯無知是以不我知

夫唯知(ル)コト無(シ)・是(ヲ)以テ我ヲ知(ラ)不

夫唯世人也是我徳之暗不見於外窮微極妙故无知

夫唯ハ・世人ナリ(也)。是我カ徳ノ〔之〕暗(ク)ノ・〔於〕

之也³⁵₃₆

知我者希³⁷則我貴³⁸矣³⁹

希⁴⁰少也⁴¹唯達道者乃能知我故為貴也⁴²₄₃⁴⁴

是以聖人被褐懷玉

被褐者薄外懷玉者厚内匿寶藏德不以示人也⁴⁵₄₆⁴⁷₄₈⁴⁹₅₀⁵¹₅₂

外二見ハレ不(ル)コトハ・微ヲ窮メ妙ヲ極(ム)レハナリ・故
二知(ル)コト无(シ)「之也」

我ヲ知(ル)者希ナルコトハ・「則」我カ「貴ケレハナリ」(矣)

希ハ・少(也)。^{スタナキコトヲ指シテ}唯道ニ達スル者ハ・乃(チ)能(ク)我ヲ知(ル)・

故二貴トシト為(也)

是(ヲ)以テ・聖人ハ・褐ヲ被テ玉ヲ懷ク^{カフ}_{イテ}

褐ヲ被ト云ハ(者)・外ヲ薄スルソ・玉ヲ懷ケリト云ハ(者)・

内ヲ厚スルソ・寶ヲ匿シ德ヲ藏ソ・以テ人ニ示サ不(也)

校異

- 1 一無窮・書陵・足利・斯II・六地・東急・聖語・敦IIは章題無し、但、「聖語」は前章との間を空行とする。「武内・東大・東洋」は「知難章第七十」に、「否II・慶I・大東」は「吾言甚易知章七十」に、「筑波」は「吾言甚易知章第七十」に、「弘文」は「吾言甚易知章七十」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「吾言章」、「東大・東洋」は「吾言甚易知章」と、「否II・筑波・大東・慶I」は「知難章」と題し、また、「弘文」には題下に大字で「一本云知難第七十」との書入れがある、尚、「梅沢」は「知」字右旁に「三十二」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅三」と下巻内章次数を記す
- 2 一「無窮」其「字」に作る
- 3 一「無窮」其「字」に作る
- 4 一「武内・東大・東洋・否II・聖語」「我」字に作る
- 5 一「所」字上、「無窮」之「字」有り
- 6 一「道藏」「言」字無し、譌脱か
- 7 一「活I」・「活II」字に誤る
- 8 一「活I」・「活II」・陽I・無窮・書陵・武内・東大・否II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・道藏「は」一也」一字、「東洋・梅沢

- は「之也」二字有り、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 9 一「無窮」「如」字に作る、但、右旁に「莫イ」と校異の書入れ有り
 - 10 一「人」字上、「敦II」「天下」二字有り、「人悪」陽I・書陵・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・治要「は」悪人」に作る
 - 11 一「聖語」「慈」字に作る、「道藏」は「不好」二字に作る
 - 12 一「好」字上、「道藏」「而」字有り
 - 13 一「斯II」「弱」字に作る
 - 14 一「敦II」「道藏」「也」字無し、「書陵・斯II」は「之也」二字に作る、尚、「東洋」は青筆で「強也」字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆
 - 15 一「本」字下、「弘文」量字二字有り
 - 16 一「聖語」「事」字無し
 - 17 一「宋版」「天」字に作る
 - 18 一「活I」・「活II」・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・聖語・宋版・世徳・道藏「無」字に作る
 - 19 一「宋版」「不」字に作る
 - 20 一「無窮」「反」字左旁に「イ」字に作る
 - 21 一「活I」・「活II」・陽I・無窮・武内・東大・否II・梅沢・聖語・道

- 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
- 蔵は「也」一字、「書陵・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱは「之也」、「東洋」は「者也」二字有り、但、「東洋」は青筆で「者」字左旁に見消ちを付し、「之」字を加筆する。
 22 東大・大東・六地・敦Ⅱ・治要「无」字に作る。
 23 書陵・六地は「吾」字に作る。尚、「東适」は「我」字右旁に「吾」の校異書入れ有り。
 24 書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・六地は「也」字有り、尚、「東洋」は青筆で「知」字下に小圈を施し左旁に「也」字を加筆、また「東活」も「知」字下に「也」字を加筆。
 25 宋版「惟」字に作る。
 26 宋版「世徳」字に誤る。
 27 「道蔵」之無知者四字に作る。
 28 「徳」字上、「道蔵」道字有り。
 29 武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・聖語・敦Ⅱ・治要「闇」字に作る。「道蔵」は「暗昧」二字に作る。
 30 弘文・足利・斯Ⅱ「於」字無し。
 31 「聖語」世字に作る。
 32 「窮極微妙」字に作る。
 33 「足利」徴字に作る。
 34 活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・筑波・弘文・足利・東急・聖語・世徳・道蔵「無」字に作る。
 35 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・弘文・杏Ⅱ・斯Ⅱ・足利・東急・梅沢・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵・治要「之」字無し。
 36 敦Ⅱ「也」字無し。
 37 梅沢・治要「稀」字に作る。
 38 「我」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・東洋・斯Ⅱ・聖語・六地・敦Ⅱ・宋版・世徳・道蔵」者字有り、但、「東洋」は「者」字左旁に青筆で見消ちを施す。
 39 東洋・宋版・世徳・道蔵「矣」字無し、但、「東洋」は青筆で「貴」字下に小圈を施し右旁に「矣」字を加筆。
 40 梅沢・治要「稀」字に作る。
 41 宋版・世徳「惟」字に作る。
 42 梅沢・東急・治要「者」字無し。
 43 活Ⅰ・活Ⅱ「則知我者」四字に作る。

訓読文補注

- 44 「杏Ⅱ・道蔵」也字無し、「東洋」は「之也」二字に、「敦Ⅱ」は「矣」字に作る、但、「東洋」は青筆で「之」字左旁に見消ちを付す。
 45 無窮「人」字に作る、但、左旁に「以イ」の校異書入れ有り。
 46 「外」字下、「道蔵」也字有り。
 47 無窮「淳」字に作る、但、右旁に「厚」字を加筆、校異記か。
 48 「内」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・書陵・東急・聖語・治要は「也」字有り、但、「無窮」には左旁「イ无」の校異書入れ有り。
 49 宋版・世徳「懷」字に作る。
 50 「不以示人」云治要「為貴」に作る。
 51 「示」字下、「道蔵」於字有り。
 52 敦Ⅱ「也」字無し。
- 1 「老子ノ言ハク」、「治要・杏Ⅱ」は「老子の(ノ)言ハク」、「陽Ⅰ」は「老子の言ク」、「梅沢・書陵」は「老子の言」と加点する、修観第五十四訓読文補注6参照。
 2 「夫唯」、「陽Ⅰ・梅沢・東活・無窮・東急・慶Ⅰ・杏Ⅱ・弘文・大東」及び「治要」別訓が「ヨノヒト」と加点、「治要・書陵・東活」別訓は「ヨヒト」、「筑波」は「カノヒト」、「慶Ⅰ」別訓は「ヨヒトリ」、「東大・斯Ⅱ・東洋」は「ソレヒトリ」、「武内」は「ソレタ」と訓んでいる、尚、「梅沢」同句左旁に「ヨヒト江説」の訓読書入れが有り、「ヨヒト」は大江家の訓法であることが判明する、尚、知病第七十一訓読文補注1参照。
 3 「唯道二」、「三」は、もとは「ヲ」の如し、末画が擦り消されてゐる。

知病第七十一

知不知上

知道言不知是乃德之上⁵

不知知病⁶

不知道言知是乃德之病¹¹

夫唯病く是以不病

夫唯能病苦衆人有強知之病是以不自病也¹⁶

聖人不病以其病く¹⁷

聖人無此強知之病者以其常苦衆人有此病²²

是以不病

以此非人也故不自病夫聖人懷遍達之智託於不智³¹
者欲使天下質朴忠正各守純性小人不知道意而妄³⁷
行強知之事以自顯著内傷精神滅壽消年也³⁷

知病第七十一

知テ知(ラ)不ルハ・上ナリ^{カミ}

道ヲ知テ・知(ラ)不ト言(フ)ハ・是乃(チ)德ノ(之)上ナリ^{ト云}

知(ラ)不ソ知ルハ・病メルナリ^ヤ

道ヲ知(ラ)不ソ・知レリト言(フ)ハ・是乃(チ)德ノ(之)病^{ト云}

(メル)ナリ

夫唯々(病)ヲ病ム・是(ヲ)以テ病(マ)不^{病注}

夫唯・能(ク)衆人ノ強知ノ(之)病有(ル)コトヲ病ミ苦フ・

是(ヲ)以テ自(ラ)病マ不(也)

聖人ノ病(マ)不(ル)コトハ・其ノ々(病)ヲ病(ム)ヲ以テナリ

聖人・此ノ強知ノ(之)病无(キ)コトハ(者)・其ノ常ニ衆人ノ此ノ病有(ル)コトヲ苦(フ)ヲ以テナリ

是(ヲ)以テ・病(マ)不

此ヲ以テ人ニ非(ス)(也)。故ニ自(ラ)病(マ)不(・)夫(平)聖人ハ・通達ノ(之)智ヲ懷(テ)・(於)智(アラ)不(ル)者ニ^{病注}
託(ケ)ル(ト)ハ・天下ヲノ(使)・質朴忠正ニソ・各純性ヲ守ラ(使)メマク欲ス。小人ハ・道ノ意ヲ知(ラ)不ソ・

(而)妄リニ強知ノ(之)事ヲ行テ・以テ自(ラ)顯ハレ著レントソ・内ニ精ヲ傷(リ)・壽ヲ滅シ年ヲ消ス(也)

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ」は章題無し、但、「聖語」は前章との間を空行とする。「武内・東大・東洋」は「知病章第七十一」に、「否Ⅱ・慶Ⅰ・大東・弘文」は「知不知章第七十二」に「筑波」は「知不知上章第七十二」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「知不知章」・「東洋」は「知不知上章」(但、「上」左傍に青筆で見消ちを付す)と「否Ⅱ」は「知病章」と題し、また「弘文」には題下に大字で「一本云知病第七十二」との書入れがある。尚、「梅沢」は章題「知」字右傍に三三十一(三三)の謄「一」と「道」無窮は本章首行眉上に「卅四」と下巻内章次數を記す。
- 2 「道」字下、道蔵「而」字有り
- 3 「言不知」・「東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢」「不言知」に作る、尚、「否Ⅱ」の該所眉上に「不言知或作言不知」との校語書入れがある
- 4 「是乃」・道蔵此の二字無し
- 5 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語」也字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左傍に青筆で見消ちを付す
- 6 「武内・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地」「矣」字有り、尚、「東洋」は青筆で「病」字下に小圈を施し左傍に「矣」の校異書入れがある
- 7 「道」字下、道蔵「而」字有り
- 8 「是乃」・道蔵此の二字無し
- 9 「世徳」・「乃」字無し
- 10 「聖語」上字に誤る
- 11 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急」也字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左傍に青筆で見消ちを付す
- 12 「夫唯能病苦衆人有強知之病是以不自病也」・道蔵此注文十八字無し、後頁18参照
- 13 「大東」若「字」に誤る
- 14 「有」字下、聖語「此」字有り
- 15 「是以」・「陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・梅沢・聖語」は「是乃」に、「無窮」は「是則」に、「足利・斯Ⅱ」は「以是乃」三字に作る、尚「無窮」には「則」字右傍に「乃イ」の校異書入れ有り
- 16 「敦Ⅱ」也字無し

訓読文補注

- 17 「活Ⅰ・活Ⅱ・弘文」「病」一字無し、「筑波」は「之」字に作る、尚、「東活」は「其病」の「病」字下に小圈を施し右傍に「病」との書入れ有り
- 18 「道蔵」此の注文は、前経文句下に配す、前頁12参照
- 19 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵」無「字」に作る
- 20 「無窮」右傍に「イ无」の校異書入れ有り
- 21 「道蔵」常「字」無し
- 22 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語」也字有り、「東洋」は「之也」二字有り、但、青筆で「之」字左傍に見消ちを付す
- 23 「以」字上、聖語「是」字有り
- 24 「宋版」「比」字に誤る、「無窮」は右傍に「是イ」の校異書入れ有り
- 25 「道蔵」「悲」字に作る
- 26 「筑波・慶Ⅰ・大東・道蔵」也字無し、「無窮」は右傍に「之イ」の校異書入れ有り
- 27 「病」字下、「無窮」は「也」字、「道蔵」は「云」字有り、但、「無窮」には左傍に「イ无」の校異記有り
- 28 「道蔵」「夫」字無し、「弘文・斯Ⅱ」は「夫唯」二字に作る
- 29 「大東・宋版・世徳・道蔵」「知」字に作る
- 30 「梅沢」於「字」無し
- 31 「宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」「知」字に作る
- 32 「道蔵」中「字」に作る
- 33 「梅沢」少「字」に作る
- 34 「東大」疆「字」に作る
- 35 「東大・宋版・世徳」「争」字に作る
- 36 「足利・梅沢」「滅」字に作る
- 37 「敦Ⅱ・道蔵」也字無し、尚、「無窮」には左傍に「イ无」の校異記有り、「聖語」は「也」字重複

1 「夫唯」「唯」を「陽Ⅰ・書陵・武内・筑波・慶Ⅰ・大東・足利・東活・斯Ⅱ・杏Ⅱ」は「ヒトリ」・「東洋・梅沢別・慶Ⅰ別・大東別」

は「タダ」と訓む、また、「東急・梅沢・東活別」は「夫唯」を「ヨノヒト」、〔無窮別〕は「タ、ヒトリ」と訓じている（東活別訓には「中」符が付され「ヨノヒト」を中原家点とする）、本点本では守道第五十九「夫唯嗇是謂早服」、三寶第六十七「夫唯大故似不肖」の経句の「唯」に「ヒトリ」、知難第七十「夫唯無知是以不知我知」の「夫唯」に「ヨノヒト」と振り仮名を付しているが、本句に於いては「ヒトリ」か「タダ」或いは「ヨノヒト」と訓まれたのか明らかに出来ない、尚、「夫唯」は老子の常套句で、上例の他にも「夫唯弗居」（養身第二）、「夫唯不爭」（易性第八）、「夫唯不可識故強為之容」（顯德第十五）、「夫唯不盈故能弊不新成」（顯德第十五）、「夫唯不爭故天下莫能与之爭」（益謙第二十二）、「夫唯道善貸且成」（同異第四十一）、夫唯不厭是以不厭（愛己第七十二）、「夫唯無以

下47オ3 愛己第七十二

民不畏威大威至矣

威害也人不畏小害則大害至謂死亡也畏之者當愛²
精養神承天順地也³⁴⁵⁶

無狹其所居¹⁰

謂心居神當寬柔不當急狹也¹¹¹²¹³¹⁴¹⁵

生為者」（貪損第七十五）、等用例は多いが、此の本では訓合符が施されることはあっても、上記三例の他には振り仮名は無い

2 「此ヲ以テ人ニ非（ス）也」、「非人」に「書陵・無窮・梅沢・東活別」は「人を非ル」と加点し、「筑波・武内・東大・大東・弘文」も此れと同訓である、「陽工」は「人を非とす」とし、「東活・杏Ⅱ・慶工」が「非」に「トス」或いは「ス」を送り同訓であろう、そのほか「東洋」は「此レ人ヲ非ルヲ以（テ）」と加点する、本点の如く「人ニ」と訓むのは異例であろう、何れにしても、前後文義通じがたく、難解であるが、当面は「人ニアラス」と訓じて後致を待ちたい

3 「智（アラ）不（ル）者ニ」、「ニ」はもと「ヲ」、末画を擦り消し、「ニ」に改める

愛己第七十二

民威ヲ畏リ不（ル）トキハ・大威至ル〔矣〕

威（ハ）・害（也）。人小害ヲ畏（リ）不（ル）トキハ・（則）大害至ル・死亡スルヲ謂（フ）（也）。畏ル、コトハ（之者）・當ニ精ヲ愛シ神（ヲ）養ヒ・天ニ承（ケ）地ニ順フ〔當シ〕（也）

其ノ居（ク）所ヲ狹（狭）ニスルコト無レ

心ノ神ヲ居（ク）コト・當ニ寬柔ナラシム〔當シ〕・當ニ急狹ニス〔當（カラ）不（ル）ヲ謂（フ）（也）〕

無厭其所生¹⁶ 17

人所以生者以有精神¹⁸精神¹⁹精神²⁰精神²¹託空²²虛喜²³清淨²⁴飲食²⁵不節²⁶忽道²⁷念色²⁸邪僻²⁹蒲腸³⁰為伐木厭神

夫唯不厭是以不厭

夫唯³¹獨不厭³²精神之人洗心³³垢濁³⁴恬怕³⁵无欲³⁶則精神居

之不厭也

是以聖人自知

自知³⁷已之得失³⁸ 39

不自見

不自顯見⁴⁰德美於外⁴¹藏之於内⁴²

自愛

自愛其身以保精氣也⁴³

不自貴

不自貴⁴⁴高榮名於世⁴⁵

故去彼取此

去彼⁴⁶自見⁴⁷自貴⁴⁸取此⁴⁹自和⁵⁰自愛也⁵¹

其ノ生スル所ヲ厭フコト無レ

人ノ生スル所以ハ〔者〕・精神有〔ル〕ヲ以テナリ・精神ハ・空^ニ虚^ニ託^ケ・清^ヲ淨^ヲ喜^フ・飲^ヲ食^ヲ節^ナラ不^シテ道^ヲ忽^ル

ニシ色ヲ念^フトキハ・邪^僻腸^ニ滿^チテ木ヲ伐^リ神ヲ厭^フフコトヲ為

夫唯厭ハ不・是^ヲ以テ・厭ハ不

夫〔平〕唯獨^リ精神ヲ厭^ハ不〔ル〕〔之〕人ハ・心ノ垢濁ヲ洗

テ・恬^テ怕^ハ无^ク欲^{ナル}トキハ・〔則〕精神居^ノ〔之〕・厭ハ不〔也〕

是^ヲ以テ・聖人ハ自^ラ知^リ

自^ラ己カ〔之〕得^テ失^ヲ知^ル

自^ラ見^ヘ去^ハサ不

自^ラ德^美ヲ〔於〕外^ニ顯^ハシ見^ハサ不[・]之^ヲ〔於〕内^ニ

藏^ス

自^ラ愛^ソ

自^ラ其ノ身ヲ愛^ソ・以テ精氣ヲ保^ツ〔也〕

自^ラ貴^ヒ不

自^ラ貴^テ・榮^名ヲ〔於〕世^ニ高^セ不

故^ニ彼^ヲ去^ヘ上^テ・此^ヲ取^ヘ去^ル

彼ノ自^ラ見^ヘ去^ハレ自^ラ貴^トスルコトヲ去^テ・此ノ

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ」は章題無し、但、「聖語」は前章との間を空行とする。「武内・東大・東洋」は「愛己章第七十二」に「否Ⅱ・慶Ⅰ」は「民不畏章第七十二」に、「筑波・大東・弘文」は「民不畏威章第七十二」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「民不畏章」・「東洋」は「民不畏威章」と、「否Ⅱ・筑波・大東・慶Ⅰ」は「愛己章」と題し、また「弘文」には題下に大字で「一本云愛己第七十二」との書入れがある、尚、「梅沢」は章題「愛」字右旁に「三十四」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅五」と下巻内章次数を記す
- 2 「無窮」・「太」字に作る
- 3 「至」字下、「無窮」は「矣」字、「東洋」は「是」字、「敦Ⅱ」は「大書著語」の四字有り、但、「東洋」は青筆で「是」字左旁に見消ちを付す
- 4 「道蔵」・「畏」字に作る
- 5 「敦Ⅱ」・「也」字無し
- 6 「愛精養神」・「道蔵」に作る
- 7 「宋版・世徳」字無し
- 8 「承天順地」・「敦Ⅱ」に作る
- 9 「斯Ⅱ・東急・敦Ⅱ」字無し、「慶Ⅰ」は「之也」二字に作る
- 10 「東大・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ」字に作る
- 11 「心」字上、「道蔵」字有り
- 12 「道蔵」・「藏」字に作る
- 13 「當」字上、「道蔵」常字有り
- 14 「道蔵」・「安」字に作る
- 15 「敦Ⅱ」・「道蔵」字無し、「筑波・大東」は「也矣」、「慶Ⅰ」は「之也」二字に作る
- 16 「東大・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ」字に作る
- 17 「弘文・足利・斯Ⅱ」字有り
- 18 「人」字下、「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・「陽Ⅰ」・「無窮」・「書陵」・「東洋」・「東急」・「之」字有り

自(ヲ)和自(ヲ)愛スルヲ取(ル)〔也〕

- 19 「弘文」・「以」字無し、「宋版」・「世徳」は「爲」字に作る
- 20 「神」字下、「無窮」・「也」字有り
- 21 「聖語」・「宋版」・「世徳」・「道蔵」に作る
- 22 「武内」・「精」字に作る
- 23 「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・「陽Ⅰ」・「無窮」・「書陵」・「武内」・「東大」・「東洋」・「否Ⅱ」・「足利」・「梅沢」・「東急」・「聖語」・「敦Ⅱ」・「道蔵」は「静」字に、「宋版」・「世徳」は「淨」字に作る、尚、「無窮」は「静飲」字間に小圈を施し右旁「而イ」の校異記有り
- 24 「斯Ⅱ」・「聖語」・「敦Ⅱ」に作る
- 25 「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・「陽Ⅰ」・「無窮」・「書陵」・「武内」・「東大」・「否Ⅱ」・「筑波」・「慶Ⅰ」・「大東」・「東急」・「聖語」・「宋版」・「世徳」・「敦Ⅱ」・「道蔵」は「腹」字に、「足利」は「腸腹」二字に作る、但、「腸」字に見消ちが施さる
- 26 「為」字上、「無窮」は「此」字有り、「道蔵」は「為」字下に「此」字有り、但、「無窮」は左旁に「イ无」と校異記有り
- 27 此の本、左旁に「本イ」と校異の書入れ有り、「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・「陽Ⅰ」・「無窮」・「書陵」・「武内」・「東大」・「否Ⅱ」・「筑波」・「弘文」・「慶Ⅰ」・「足利」・「斯Ⅱ」・「東洋」・「梅沢」・「東急」・「聖語」・「宋版」・「世徳」・「敦Ⅱ」・「一本」字に作る、「道蔵」は「命」字に作る、尚、「書陵」は「本」字右旁に「木一本」、「無窮」は左旁に「イ无」と校異書入れ有り
- 28 「道蔵」・「散」字に作る
- 29 「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・「陽Ⅰ」・「無窮」・「書陵」・「武内」・「東大」・「否Ⅱ」・「筑波」・「弘文」・「慶Ⅰ」・「大東」・「足利」・「斯Ⅱ」・「梅沢」・「東急」・「聖語」・「道蔵」・「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「青筆で「者」字左旁に見消ちを付す
- 30 「東急」・「藏」字に作る
- 31 「垢濁」・「宋版」・「世徳」・「垢濁」に作る
- 32 「活Ⅰ」・「武内」は「恬泊」に作る、但、「武内」は左旁に「恬泊」と書入れ
- 33 「道蔵」は「恬泊」に作る、但、「武内」は左旁に「恬泊」と書入れ
- 34 「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・「無窮」・「書陵」・「筑波」・「弘文」・「足利」・「斯Ⅱ」・「東急」・「宋版」・「世徳」・「道蔵」・「无」字に作る
- 35 「弘文」・「精」字無し
- 36 「不」字上、「道蔵」・「而」字有り

36 「敦II・道蔵」〔也〕字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 37 「無窮」〔自〕字上に小圈を施し、右旁「聖人イ」と校異の書入れ有り
 38 「筑波・大東」〔之〕字無し
 39 「活I・活II・陽I・無窮・書陵・武内・東大・杏II・弘文・慶I・足利・斯II・梅沢・聖語・筑波・大東」〔也〕字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
 40 「筑波・大東」〔著〕字に作る
 41 「活I・活II・陽I・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・梅沢・東急・聖語」〔也〕字有り
 42 「慶I」〔神〕字に作る
 43 「東大・東洋・梅沢・東急・聖語・敦II・道蔵」〔也〕字無し、但、「東洋」は「氣」字下に青筆で「也」字を加筆する
 44 「慶I」〔尚〕字に作る
 45 「活I・活II・陽I・無窮・書陵・武内・東大・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・梅沢・聖語」〔也〕字有り、「東洋」は「之也」二字有り、但、青筆で「之」字左旁に見消ちを付す
 46 「自貴」、弘文「貴自」に作る、但、兩字右旁に転倒符を付す
 47 諸本、「知」字に作る
 48 「宋版・世徳・敦II・道蔵」〔也〕字無し、「東洋」は「之也」、
 「無窮」は「者也」二字有り、但「東洋」は青筆で「之」字左旁に見消ちを付す

下48才3 任為第七十三

勇於敢則殺²
 勇敢有為即殺身也^{3,4,5,6,7}
 勇於不敢則活

訓読文補注

1 「其ノ居(ク)所ヲ」、「居」を「梅沢・書陵・陽I・東活・慶I・東大・斯II・足利」は「ヲク」、
 「無窮・東洋・筑波・大東・慶I別・杏II」は「ヲル」と訓む、今、「梅沢・書陵」等に從い「ヲク」と訓む
 2 「空虚ニ託(ケ)」、「梅沢・陽I」が「ツケ」と加点、「武内・東大・東洋・筑波・慶I・大東・斯II・杏II」は「タクシテ」と音読している、此の点本の「託」の訓例として、「以テ(於)天下ヲ託ク可シ(矣)」(獸趾第十三)、「於(万ノ)民ノ(之)上ニ託(ケ)テ」(獸趾第十三)「可以託於天下矣」下注、「神明ハ虚ニ託ク」(益謙第二十二)「少則得」下注、「陰ニ託(イテ)モ腐(チ)不(象元第二十五)周行而不殆」下注、「故ニ己ニ託ケテ」(玄用第六十九)「用兵有言」下注、「(於)智(アラ)不(ル)者ヲ託(ケ)ルコトハ」(知病第七十一)「是以不病」下注 があり、全て訓読で音読の例が無い、今、「梅沢・陽I」の加点に倣い「ツケ」と訓む

任為第七十三

〔於〕敢¹ニ勇(メル)トキハ・〔則〕殺サル
 勇敢ニ有¹為ナルトキハ・〔即〕身ヲ殺ス(也)
 〔於〕不敢ニ勇(メル)トキハ・〔則〕活ク

勇於不敢有為則活其身⁸

此兩者¹⁰

謂敢与不敢也¹¹

或利或害

活身為利也¹³ 斂身為害也¹⁴

天之所惡¹⁶

惡有為也

孰知其故

誰能知天意之故而不犯¹⁷

是以聖人猶難之²¹

言聖人之明德猶難於勇敢況无聖人之德而欲行之²²

乎²⁸

天之道不爭而善勝²⁹

天不与人爭貴賤而人自畏之³⁰

不言而善應³⁵

天不言万物自動以應時³⁶

不召而自来³⁸

天不呼召万物皆負陰而向陽³⁹

〔於〕不敢有為ニ勇〔メル〕トキハ〔則〕其ノ「身ヲ活〔カス〕」

此ノ兩ノ「者」ハ

敢ト不「敢与」ヲ謂〔フ〕〔也〕

或ハ利或ハ害

身ヲ活〔カス〕ヲ「利ト為〔也〕」。身ヲ斂スヲ「害ト為〔也〕」

天ノ〔之〕惡〔去〕ム所ナリ

有「為」ヲ惡〔去〕ムソ〔也〕

孰カ其ノ「故ヲ知〔ラ〕ン

誰カ能〔ク〕天「意」ノ〔之〕故ヲ知テ「〔而〕犯サ不〔ラ〕ン

是〔ヲ〕「以テ」聖人ハ「猶難〔去〕ル」〔之〕

言ハ聖人ノ〔之〕明德アル「猶於」勇「敢ヲ難ル」況ヤ聖人

ノ〔之〕徳无〔ク〕シテ「〔而〕之ヲ行〔ハ〕ン」ト欲スルヲ乎

天ノ〔之〕道ハ争ハ不ツ「〔而〕善〔ク〕勝ツ」

天人与貴賤ヲ争ハ不ツ「〔而〕人自〔ツカラ〕畏ル」〔之〕

言〔ハ〕不ツ〔而〕善〔ク〕應〔去〕ス

天言〔ハ〕不シテ「万物自〔ツカラ〕動〔イテ〕」以テ時〔三〕應

〔去〕ス

召〔ハ〕不ツ〔而〕自〔ツカラ〕来ル

天万物ヲ呼〔ヒ〕「召〔ハ〕不トモ」皆陰ヲ負イテ〔而〕陽ニ向フ

繹然レ而善謀ル

繹レ寬也天道雖寬博善謀慮人事修善行惡各蒙其報也49

天網恢ク疎而不失51

天所羅網恢恢甚大雖疎遠伺察人善惡无有所失52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64

繹然トノ而善ク謀ル

繹ハ・寬也也。天レ道寬博ナリト雖・善ク人事ヲ謀リ慮ル・善ヲ修メ惡ヲ行フモノ・各其ノ報ヲ蒙ル也

天網恢クトト疎クカナレトモ而失ハ不

天ノ羅網スル所・恢恢トト甚ク大ニノ疎遠ナリト雖・人ノ善惡ヲ伺察シ失スル所有ルコト无シ

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ」は章題無し、但、「聖語」は前章との間を空行とする。「武内・東大・東洋」は「一」字有り、但、「東洋」は「者」字左傍に青筆で見消しを付す
- 2 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・梅沢・六地」[敦Ⅱ]字に作る
- 3 「敢」字上、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・道蔵」は「於」字有り、尚、「東洋」は青筆で「勇敢」字間に小圈を施し右傍「於」字を加筆、また「無窮」は左傍に「イ无」の校異書入れ有り
- 4 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・東急・聖語・梅沢・道蔵・敦Ⅱ」[則]字に作る
- 5 「武内・東大・東洋・書陵・梅沢」[敦]字に作る
- 6 「身」字上、「道蔵・敦Ⅱ」[其]字有り
- 7 「敦Ⅱ」[也]字無し

- 8 「大東」[治]字に作る
- 9 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語」は「也」字、「東洋」は「者也」二字有り、但、「東洋」は「者」字左傍に青筆で見消しを付す
- 10 「此」字上、「斯Ⅱ」は「常知」二字、「聖語」は「知」一字有り
- 11 「謂」字上、「無窮」[兩]字有り
- 12 「大東・敦Ⅱ」[也]字無し
- 13 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ」[也]字無し、尚「無窮」[也]字左傍に「イ无」の校異書入れ有り
- 14 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ」[殺]字に作る
- 15 「宋版・世徳・敦Ⅱ」[道蔵]「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左傍に青筆で見消しを付す、尚「無窮」[也]字左傍に「イ无」の校異書入れ有り
- 16 「天」字上、「聖語」[之]字有り
- 17 「無窮」[下]字に作る
- 18 「天」字上、「聖語」[之]字無し
- 19 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・梅沢・道蔵・斯Ⅱ・東急・聖語」[而]字無し

20 「陽Ⅰ・斯Ⅱ」は「也」字、「武内・東急・敦Ⅱ」は「之」字、
 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・
 大東・足利・梅沢・道蔵」は「之也」二字、「聖語」は「之由」二
 字有り
 21 「猶」字下、「聖語」「以」字有り
 22 「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・道蔵」「之」字無し、但、「東
 洋」は「人明」字間に青筆で「之」字を加筆
 23 「弘文・斯Ⅱ」「以」字に作る
 24 「書陵・道蔵」「況」字に作る
 25 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・聖
 語・世徳・道蔵」無「字」に作る
 26 「敦Ⅱ」「而」字無し
 27 「道蔵」「能」字に作る
 28 「東大・東洋・筑波・弘文・大東・足利・梅沢」「也」字有り、但、
 「東洋」は「也」字左旁に青筆で見消ちを付す
 29 「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・東急・聖語」「之」字無し、但、
 「東洋」は青筆で「天道」字間に小圈を施し右旁に「之」字を加筆、
 また、「無窮」は「之」字左旁に「一イ无」の校異書入れ有り
 30 「東急」「下」字に作る
 31 「人自」「足利」「自人」に作る
 32 「治要」「自」字無し、「敦Ⅱ」は「皆」字に作る
 33 「梅沢」「之」字無し
 34 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・梅沢・聖
 語・治要」は「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」
 字左旁に青筆で見消ちを付す、尚、「聖語」は「也」字下疊字三字
 35 「善應」の間、「弘文」注文「無聖人之徳而欲行之乎也」の十一字、
 経文「天之道不」の四字有り、衍、前出同文を誤写
 36 「以應」「宋版・世徳」「應以」に作る
 37 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑
 波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・聖語」「也」字有り、「梅沢」
 「時」字下字間に「也」字を加筆
 38 「弘文」「下」字無し
 39 「無窮」「下」字に作る
 40 「物皆」の間、「敦Ⅱ」は重ねて「万物」二字有り
 41 「梅沢・治要」「眞」字に作る
 42 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶

43 「聖語」「而」字無し
 44 「斯Ⅱ」「禪」字に作る
 45 「善」字上、「無窮」「而」字有り
 46 「謀」字下、「無窮」「修」字有り、但、左旁に「一イ无」の校異
 書入れ有り
 47 「書Ⅱ」「盧」字に誤る
 48 「修」字上、「無窮・東急」「故」字有り
 49 「敦Ⅱ・道蔵・治要」「也」字無し、「無窮」は「者也」二字に作
 50 「足利・斯Ⅱ」「悵」字に作る、但、「足利」は左旁に見消ちを付
 51 欄脚に「悵」字を加筆する
 52 「陽Ⅰ・書陵・六地・東急・聖語・敦Ⅱ・治要」「疏」字に作る
 53 「道蔵」「之」字に作る
 54 「羅網」「宋版・世徳」「網羅」に作る
 55 「足利・斯Ⅱ」「悵」字に作る
 56 「書陵」「其」字に作る
 57 「世徳」「太」字に作る
 58 「離」字下、「道蔵」「則」字有り
 59 「無窮・東急・聖語・敦Ⅱ」「疏」字に作る、但、「無窮」は左旁
 に「一イ无」の校異書入れ有り
 60 「速」字下、「無窮」は「而」字、「道蔵」は「若」字有り、但、
 「無窮」は「而」字左旁に「一イ无」の校異書入れ有り
 61 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・慶Ⅰ・大東・梅沢・東急・聖語・宋版・世
 徳・敦Ⅱ・道蔵・治要」「司」字に作る、尚、「足利」は「伺」字右
 旁に「司」字を加筆し、「大東」は「司」字左旁に「一乍伺」の校
 語書入れ有り
 62 「人」字下、「無窮」「之」字有り
 63 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・東急・宋版・世
 徳・道蔵」無「字」に作る
 64 「道蔵」「有」字無し
 65 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・陽Ⅰ・筑波・弘文・足利・武内・東
 大・杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・聖語・道蔵」「也」字有り、
 「東洋」は「之也」二字有り、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを付
 す

訓読文補注

1 「勇(メル)」、「書陵・梅沢・陽Ⅰ・杏Ⅱ・大東・筑波・東急・東活」が「勇メル」と訓む、今、これらに従う、尚、「武内・慶Ⅰ・弘文」及び「無窮」右旁別訓は「勇ナル」、「無窮」左旁別訓は「勇タル」、「大東別」は「勇スル」と音読している

2 「其ノ身ヲ活(カス)」、「活」は「慶Ⅰ」が「イカス」と加點、「陽Ⅰ・書陵・武内・杏Ⅱ・東大・斯Ⅱ・筑波」は「ス」のみを送り、訓読されたのか音読されたのか不明、別訓として「梅沢・東活・足利」の如き「イコフ」が有る、補注3参照

3 「身ヲ活(カス)ヲ」、「活」は「イコウルを」「梅沢」、「イコフルを」

下49才5 制惑第七十四

民不畏死

治國者刑罰酷深民不聊生故不畏死也治身者譬欲傷神貪財殺身民不知畏也

柰何以死懼之

人君不寬刑罰教民去情欲柰何設刑罰之法以死懼之

若使民常畏死

「書陵・東活」、「活フルヲ」「大東」、「活ルヲ」「東大・弘文」、「活スヲ」「武内」、「イカスヲ」「慶Ⅰ」、「活スルヲを」「陽Ⅰ・筑波・慶Ⅰ別」等の加點が認められるが、今は、前出の「其ノ身ヲ活(カス)」、また直下の「身ヲ煞スヲ」に符應させ「武内・慶Ⅰ」に做い「イカスヲ」と訓む

4 「召(ハ)不(ツ)自(ツ)カ(ラ)来(ル)」、「不召」は「ヨハ不」「治要・武内・杏Ⅱ・東大、「ヨ(ハ)不」「無窮、「メサ不」「東大別、「マ(ニ)カ不」「陽Ⅰ・書陵・東活・筑波・弘文・大東・慶Ⅰ・東急・無窮別・武内別・杏Ⅱ別」の附訓が認められるが、今、「治要・無窮」等に做い「ヨハス」と訓む

制惑第七十四

民死ヲ畏チ不

國ヲ治(ム)ル者・刑罰酷深(チ)ルトキハ・民生ヲ聊(チ)ンセ不・故ニ死ヲ畏(チ)不(也)・身ヲ治(ム)ル者・嗜(チ)欲神ヲ傷(ル)・財ヲ貪(ル)トキハ身ヲ殺ス・民畏ル、コトヲ知(ラ)不(也)

柰何ソ・死ヲ以テ懼サン〔之〕

人君・刑罰ヲ寬(ニ)ソ・民ニ情欲ヲ去ルコトヲ教ヘ不・柰何ソ・刑罰ノ〔之〕法ヲ設ケテ・死ヲ以テ懼サン〔之〕

若(シ)民ヲノ(使)常ニ死ヲ畏(チ)〔使〕メンニ

當除已之所殘剋教民去利欲也^{30 31 32 33 34}

而為奇者吾得執而殺之孰敢^{35 36 37 38}

以道教化而民不從反為奇巧乃應王法執而殺之誰敢有犯者老子傷時王不先道德化之而先刑罰^{39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50}

常有司殺者⁵¹

司殺者天居高臨下司察人過天網恢々疎而不失者是也^{52 53 54 55 56 57 58 59 60}

夫代司殺者是謂代大匠斲

天道至明司殺者有常猶春生夏長秋成冬藏斗杓運移以節度行之人君欲代殺之是猶拙夫代大匠斲木勞而无功也^{61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79}

當ニ己カ〔之〕殘、剋スル所ヲ除テ・民ニ利欲ヲ去ヘ〔上〕ルコトヲ教フ〔當〕シ〔也〕

〔而〕奇リヲ為ン者ヲ・吾執ヘテ〔而〕殺スコトヲ得テ〔之〕・孰カ敢テセンヤ

道ヲ以テ教ヘ化スルトキニ・而モ民從ハ不ソ・反リテ奇巧ヲ為テ・〔乃〕王法ニ應ヘ去セントキニ・執ヘテ〔而〕殺〔サ〕ハ〔之〕・誰カ敢テ犯ス者有〔ラ〕ン・老子・時ノ王道徳ヲ先ヘ去ニシテ化セ不メ〔之〕・〔而〕刑罰ヲ先ヘ去〔ニ〕スルコトヲ傷ム

常ニ司殺ノ者有〔リ〕

司殺ノ者ハ・天ナリ〔・〕高〔キ〕ニ居ノ下ニ臨テ・人ノ過ヲ司察ス・天網恢々トソ疎ナレトモ〔而〕失〔ハ〕不ト云ル者・是ナリ〔也〕

夫〔平〕司殺ニ代ル者・是ヲ大匠ニ代テ斲ルト謂〔フ〕

天道至テ明ナリ・司殺ノ者常有〔リ〕。猶春生夏長〔上〕シ秋成〔リ〕冬藏〔平〕メ・斗杓運ヒ移リテ・節度ヲ以テ行ルカ猶〔之〕・人君代テ殺サント欲スルコト〔之〕・是猶拙夫ノ大匠ニ代リテ木ヲ斲ルカ猶〔シ〕・勞ソ〔而〕功无〔シ〕〔也〕

夫代大匠斲者希有不傷其手矣^{80 81 82 83 84 85 86}

人君行刑罰猶拙人代大匠斲則方圓不得其理還自傷代天殺者失紀網不得其紀網還受其殃也^{96 97 98 99 100 101 102 103 104 105}

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ」は章題無し、但、「聖語」は前章との間を空白とする。「東大・東洋」は「制惑章第七十四」に、「武内」は「制惑章第七十四」に、「杏Ⅱ・慶Ⅰ」は「民不畏章第七十四」に、「筑波・大東」は「民不畏死章第七十四」に、「弘文」は「民常不畏章第七十四」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「東洋」は「民不畏死章」(青筆で「不畏死」左傍に見消ちを付し、右傍に「之飢」二字を加筆し合点を付す)と、「杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ」は「制惑章」と、「大東」は「制或章」と題し、また「弘文」には題下に大字で「一本云制或七十四」との書入れがある、尚、「梅沢」は章題「制」字右旁に「三十六」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅七」と下巻内章次数を記す。
- 2 「杏Ⅱ・斯Ⅱ・書陵・宋版・世徳・道蔵」(「罰」字に作る)
- 3 「酷深、道蔵」は「深酷」に作る
- 4 「道蔵、敦Ⅱ」は「无」字に作る
- 5 「足利」は「耶」字に、「道蔵」は「即」字に作る、但、「足利」は「ヤソンセ」の振り仮名を施し、地脚に「ヤソ」の校異書入れ有り
- 6 「死」字下、「治要」(「畏死」二字重複、左傍に見消ちを付す)
- 7 「敦Ⅱ」(「也」字無し)
- 8 「陽Ⅰ」(「活」字に誤る)
- 9 「者」字下、「道蔵」(「若」字有り)
- 10 「斯Ⅱ」は「著」字に作る

夫乎大匠二代斲者ハ・其ノ「手ヲ傷ラ不(ル)コト有(ル)コト希シ〔矣〕

人君ノ「刑」罰ヲ行フ・猶拙人ノ大匠二代テ斲ルカ〔猶〕シ・〔則〕方圓・其ノ「理」ヲ得不・還テ自(ラ)「傷」ル・天殺二代ル者・紀「網」ヲ失フテ・其ノ紀「網」ヲ得不(ル)トキハ・還テ其(ノ)「殃」ヲ受(ク)〔也〕

- 11 「治要」(「貧」字に作る)
- 12 「大東」(「敗」字に誤り、右傍に見消ちを施し左傍に「財」字を加筆)、「無窮」は右傍に「利イ」の校異書入れ有り
- 13 「書陵・武内・東大・杏Ⅱ・梅沢」は「恣」字に、「道蔵」は「畏」字に作る
- 14 「身」字下、「無窮」(「也」字有り)
- 15 「治要」(「民」字無し)
- 16 「活Ⅰ・活Ⅱ」(「知」字無し)
- 17 「畏」字上、「道蔵」(「所」字有り)
- 18 「東洋・東急・敦Ⅱ」(「治要」は「之」字に、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ」は「無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語・宋版・世徳」は「之也」二字に作る、但、「東洋」は青筆で「之」字下に「也」字を加筆する)
- 19 「道蔵」(「當」字に作る)
- 20 「刑」字上、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・杏Ⅱ・武内・東大・東洋・筑波・慶Ⅰ・大東・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ」(「治要」は「其」字有り)
- 21 「陽Ⅰ」(「杏Ⅱ・宋版・世徳・道蔵」(「罰」字に作る)
- 22 「道蔵」(「教」字無し)
- 23 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・道蔵」(「治要」(「人」字に作る)
- 24 「情」字上、「道蔵」(「其」字有り)

25 「聖語」未版・世徳・敦Ⅱ・道蔵「詔」字無し、「陽Ⅰ・杏Ⅱ」は「詔」字に作る
 26 「活Ⅰ」活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・杏Ⅱ・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵・治要「之」字無し
 27 「無窮」左旁に「イイ无」の校異書入れ有り
 28 「活Ⅰ」活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「也」字有り
 29 「聖語」人字に作る
 30 「道蔵」所字無し
 31 「活Ⅰ」活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・敦Ⅱは「尅」字に「聖語」道蔵・治要は「刻」字に作る
 32 「民」字下「道蔵」之字有り
 33 「書陵」怨字に作る
 34 「敦Ⅱ」道蔵・治要「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 35 「得執」敦Ⅱ「執得」に作る
 36 「書陵」武内・東大・梅沢・六地「煞」字に作る
 37 「孰敢」弘文「敢孰」に作る、但、「敢」字右に「下」、「孰」字右に「上」と転倒符を施す
 38 「活Ⅰ」活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・東急・聖語・敦Ⅱ・治要「矣」字有り
 39 「道蔵」化字無し
 40 「慶Ⅰ」梅沢「後」字に作る
 41 「陽Ⅰ」平字に作る
 42 「敦Ⅱ」執字上に「吾」字、字下に「得」字有り
 43 「書陵」武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢「煞」字に作る
 44 「道」字上、道蔵「以」字有り
 45 「無窮」左旁に「イイ无」の校異書入れ有り
 46 「無窮」左旁に「イイ无」の校異書入れ有り、「道蔵」人字に作る
 47 「杏Ⅱ」而字無し
 48 「刑」字上、道蔵「以」字有り
 49 「活Ⅰ」活Ⅱ・無窮・武内・東大・東洋・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・書陵・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要「詔」字

50 に作る
 51 「活Ⅰ」活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・杏Ⅱ・梅沢・東急・聖語・治要は「也」一字、「無窮」道蔵は「者也」二字有り
 52 「書陵」武内・東大・東洋・梅沢・六地「煞」字に作る
 53 「天」字上、道蔵「謂」字有り
 54 「聖語」高字無し
 55 筑波・弘文・大東「殺」字に作る、「聖語」は「察」字に作る、猶、杏Ⅱは「察」字右旁に「殺イ」と校異の書入れ有り
 56 「人」字下、道蔵「之」字有り
 57 「聖語」疊字無し
 58 「東急」聖語・敦Ⅱ「疏」字に作る
 59 「者是」宋版・世徳「此」字無し
 60 「道蔵」也字無し、「聖語」は「也」字下に疊字三字有り
 61 「否Ⅱ」伐字に誤る
 62 「武内」東大・梅沢「煞」字に作る
 63 「武内」東大・梅沢・杏Ⅱ・道蔵「察」字に作る、但、「東洋」は青筆で「察」字左旁に見消ちを施し右旁に「殺」字を加筆、猶、天東は「殺」字左旁に「察イ」と校異の書入れ有り
 64 「活Ⅰ」活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・道蔵「者」字無し
 65 「宋版」世徳「有」字無し
 66 「宋版」世徳・道蔵「収」字に作る
 67 筑波・大東・弘文・東急は「柄」字、「足利・斯Ⅱ」は「柶」字に作る、但、「足利」は地脚に「杓」字を加筆
 68 「道蔵」移字無し
 69 「道蔵」度字無し
 70 「人」字上、「無窮」夫字有り、但、右旁に「イ无」と校異の書入れが有る
 71 「代」字下、「武内」「之」字有り
 72 「代」字下、「無窮」東大・東洋・聖語「之」字有り、但、「東洋」は青筆で左旁に見消ちを施す
 73 「武内」東大・杏Ⅱ・梅沢「煞」字に作る
 74 「無窮」聖語「之」字無し
 75 「勞」字上、道蔵「乃」字有り

100 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76
 「東急」「而」字無し
 「活」字下、無窮・書陵・筑波・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・未版・世徳・道蔵「無」字に作る
 「筑波」「巧」字に作る
 「敦Ⅱ」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 「敦Ⅱ」字無し
 「活」字下、無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・東急・敦Ⅱ「者」字無し
 「杏Ⅱ」眉上に「本无有字也」の校異書入れ有り
 「不」字下、聖語「復」字有り
 「宋版・世徳」其「字無し」
 「筑波」「乎」字に誤る
 「敦Ⅱ」「矣」字無し、「世徳」は「者矣」二字に作る
 「杏Ⅱ・斯Ⅱ」未版・世徳・道蔵「罰」字に作る
 「武内」字下、聖語「代」字有り
 「聖語」は「夫人」二字に作る
 「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・敦Ⅱ・道蔵」「夫」字に作る、
 「道蔵」は「木也」二字有り
 「道蔵」「必」字に作る
 「無窮」右旁に「員イ」の校異記有り
 「其」字下、聖語「得」字有り
 「道蔵」「還」字無し
 「自傷」聖語此の二字無し
 「傷」字下、筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱは「也」字、無窮は「矣」字有り、また、「道蔵」は「其手」二字有り
 「代」字上、無窮「夫」字有り
 「書陵・武内・東大・杏Ⅱ・梅沢」「終」字に作る
 「者」字下、無窮「則」字有り
 「失紀綱」道蔵此の三字無し

訓読文補注

102 101 100 104 103 105
 「紀」字上、「東急」「其」字有り
 「不」字上、「足利」「還受」二字符、「敦Ⅱ」は「不得其紀綱」の五字無し
 「道蔵」「理」一字に作る
 「道蔵」「反」字に作る
 「敦Ⅱ」「道蔵」「也」字無し、「陽Ⅰ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ」は「之也」「東洋」は「者也」の二字に作る、但、「東洋」は青筆で「者」字左旁に見消ちを施し右旁に「之」字を加筆する
 1 「嗜欲神ヲ傷ル」 「嗜欲」に「治要」は「アルトキンハ」、「梅沢・書陵・大東・筑波・東活」は「アルトキハ」と送る、「東大」は「ナルトキハ」、「杏Ⅱ」は「ニソ」と加点、「傷」は「書陵・慶Ⅰ・東活」は「ヤフル」、「治要・梅沢」も「ル」が送られ振り仮名は無いが同訓であろう、「筑波」は「イタムル」、「杏Ⅱ」は「ケシヌ」と加点さる、本点は「慶Ⅰ」の「嗜欲神ヲ傷ル」に最も近いが、「嗜欲」下「アルトキハ」の送りが略されているとも考えられる
 2 「死ヲ畏チ」「使」メンニ、「畏」を「治要・武内」は「ヲチ」と訓む、今、此の訓に従う、なお、「治要」の別訓に「ヲソリ」とあり、「慶Ⅰ」が同訓、此の訓については「東活・書陵」左旁の「ソリ中」、「ヲソリ中」との書入れが目され、中原家の訓法と認められる、また、「東急・大東・筑波・弘文・東洋・東大」は「ヲソレ」と訓んでおり、「陽Ⅰ・書陵・東活」は「使民常畏死」句を「民を使フに・常に死を畏ル」と訓み、「使」を再読しない

貪損第七十五

民之飢以其上食稅之多³

人民所以飢寒者以其君上稅食下太多¹¹

是以飢¹²

人皆化上貪叛道違德故飢¹⁹

民之難治以其上之有為²⁰

民之不可治者以其君上多欲好有為也²³

是以難治

是²⁴以其民化上有為情偽難治²⁷

民之輕死以其求生之厚²⁹

人民所以輕犯死者以其求生活之道太厚貪利以自³⁶

危³⁷

是以輕死³⁹

貪損第七十五

民ノ〔之〕飢フルコトハ・其ノ上ノ稅ヲ食ムコトノ〔之〕多キヲ以テナリ

人ノ民ノ・飢寒アル所以ハ〔者〕・其ノ君上ノ・下ニ稅食スルコト〔之〕太〔タ〕多キヲ以テナリ

是〔之〕以テ飢フ

人皆上ノ貪レルニ化ツ・道ヲ叛キ德ニ違フ・故ニ飢フ

民ノ〔之〕治メ難キコトハ・其ノ上ノ〔之〕有為ナルヲ以テナリ

民ノ〔之〕治ム可〔カラ〕不〔ル〕コトハ〔者〕・其ノ君上ノ多欲ニツ・有為ヲ好〔ム〕ヲ以テナリ〔也〕

是〔之〕以テ・治メ難シ

是〔之〕以テ其ノ民・上ノ有為ニ化ツ情偽アリテ治メ難シ
民ノ死ヲ輕〔シ〕スルコト・其ノ生ヲ求〔ム〕ルコトノ〔之〕厚キヲ以テナリ

以テナリ

人ノ民・輕シク死ヲ犯ス所以ハ〔者〕・其ノ生活ノ〔之〕道ヲ求〔ム〕ルコトノ太〔タ〕厚キヲ以テナリ・利ヲ貪リテ以テ自

〔之〕危フム

是〔之〕以テ死ヲ輕〔シ〕ス

以求生太厚之故輕入死地也^{40 41 42 43 44 45 46 47}

夫唯無以生為者是賢於貴生^{48 49 50}

夫唯獨無以生為勢者爵祿不干於意財利不入於身天子不得臣諸侯不得使則賢於貴生也^{51 52}

生ヲ求ムルコトノ太厚キヲ以テノ之故ニ輕シク死ニ入ル也

夫平唯生ヲ以テ為ルコト無キ者ハ是於生ヲ貴フルニ賢レリ

夫平唯獨リ生ヲ以テ務メト為ルコト无キ者ハ爵祿於意ニ干メ不財利於身ニ入レ不天子モ臣トスルコトヲ得不諸侯モ使フコトヲ得不レハ則於生ヲ貴フニ賢レリ也

校異

- 1 一無窮・書陵・足利・斯II・六地・東急・聖語・敦IIは章題無し、但、聖語は前章との間を空行とする。武内・東大・東洋は「貪損章第七十五」に、「否II・慶Iは「民之章第七十五」に、「筑波・大東は「民之飢章第七十五」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「民之章」と、「東洋」は「民之飢章」と、「否II・筑波・慶I・大東」は「貪損章」と題す、尚、「梅沢」は章題「貪」字右旁に「三十七」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅八」と下巻内章次數を記す
- 2 世徳「饑」字に作る
- 3 世徳「饑」字に作る
- 4 無窮「天」字に作る
- 5 「民」字下、無窮・武内・東大・東洋・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・梅沢・聖語「之」字有り
- 6 世徳「饑」字に作る
- 7 宋版、世徳「深」字に作る
- 8 「稅食」・道蔵「食稅」に作る
- 9 「下」字下、東洋「之」字有り
- 10 武内・聖語・世徳「大」字に作る

- 11 活I・活II・陽I・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏II・筑波・慶I・大東・弘文・足利・斯II・梅沢・東急・聖語・道蔵「也」字有り
- 12 世徳「饑」字に作る、「無窮」は字下に小圈を施し右旁に「也」の校異書入れ有り
- 13 人皆化上貪叛違違德放飢、「治要」は此の注文無し、聖語・敦IIは此の文頭に「是以」二字有り、「武内・東大・東洋・杏II・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦II・道蔵」は「人」を「民」字に作る、尚、「無窮」は右旁に「民」字と校異書入れ有り
- 14 弘文「皆」字無し
- 15 「上」字下、陽I・書陵は「生為」二字、「活I・活II・無窮・武内・東大・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・東急・聖語・宋版・世徳・敦II・道蔵」は「為」一字有り、尚、「東活」は「上為」字間に小圈を施し右旁に「生」(朱ヲコト点付一生して)を加筆、また、「無窮」は「為」字右旁に「イ无」と校異書入れ有り
- 16 宋版・世徳「矣」字に誤る
- 17 東急「救」字に誤る
- 18 世徳「饑」字に作る

- 19 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・東洋・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急」也」字有り
 20 「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急」也」字有り、但、「東洋」は左旁に青筆で見消ちを付す
 21 「民」字上、「治要」一人」字有り
 22 「聖語・治要」所以」二字に作る
 23 「聖語・教Ⅱ・治要」也」字無し
 24 「是以」治要」此の二字無し
 25 「是以上」有」字無し
 26 「難」字上、斯Ⅱ」有」字有り
 27 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・梅沢・東急・治要・斯Ⅱ」は「也」字、「無窮」は「者也」、「東洋」は「之也」二字有り、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
 28 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・東急・聖語・教Ⅱ・治要」一人」字に作る
 29 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ・六地・聖語」也」字有り
 30 「聖語・道蔵」之」字に作る
 31 「所以」、宋版・世徳・道蔵」此の二字無し
 32 「梅沢」化」字に作る
 33 「無窮・書陵・武内・斯Ⅱ」治」字に作る
 34 「道蔵」事」字に作る
 35 「無窮・東急」大」字に作る
 36 「筑波・大東・弘文」以」字無し
 37 「梅沢」殆」字に作る、「筑波・大東・弘文・東洋・足利・斯Ⅱ」は「危殆」二字に作る、但、「東洋」は「殆」字左旁に青筆で見消ちを付す
 38 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・東洋・足利・斯Ⅱ・聖語・道蔵・治要」也」字有り、「聖語」は字下更に疊字二字有り
 39 「是以輕死」、斯Ⅱ」此の経文句及びその注文無し

訓読文補注

- 40 「以」字上、「敦Ⅱ」「是」字有り
 41 「生」字下、「慶Ⅰ」之」字有り
 42 「東急」大」字に作る
 43 「道蔵」過」字に作る
 44 「道蔵」之」字無し、「慶Ⅰ」は「也」字に作る
 45 「道蔵」輕」字無し
 46 「地也」、治要」也地」に誤り、「也」字左旁に見消ちを付す
 47 「足利・敦Ⅱ」也」字無し、「無窮」は「大」字に誤る
 48 「武内・東大・慶Ⅰ・大東・六地・敦Ⅱ・治要」无」字に作る
 49 「是」字下、「無窮」爲」字有り
 50 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・弘文・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・聖語・道蔵・治要」也」字有り
 51 「活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵」無」字に作る
 52 「敦Ⅱ」也」字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・足利・斯Ⅱ・治要」は「者也」、「東急」は「也矣」二字に作る
- 1 「飢フ」、東活」の左旁に「イヒニウフ中／イヒウヘス中」とあり、中原家では此の両様に訓んだようである、「梅沢」に「イ、ニウフ」と、「東洋・東大・六地別」に「イ、ウヘス」の附訓が認められる
- 2 「其ノ生ヲ求ム」ルコトノ「之」厚キヲ以テナリ、「東活」には「生」の左旁に「ケルコトノ」、「厚」の左旁に「カランコトヲ中」の別訓注記がある、此れに従うならば、中原家では「其ノ生ケルコトノ厚カランコトヲ求ムルヲ以テナリ」と訓読されたことになろう

人之生也柔弱

人生含和氣抱精神故柔弱也

其死也堅強

人死和氣竭精神亡故堅強也

萬物草木之生也柔脆

和氣存也

其死也枯槁

和氣去也

故堅強者死之徒柔弱者生之徒

以其上二事觀知之知堅強者死柔弱者生也

是以兵強則不勝

強大之兵輕戰樂殺毒流怨結衆弱為一強故不勝

木強則共

木強大枝弱共生其上也

人ノ(之)生(ケル)トキハ(也)。柔弱ナリ

人生(ケル)トキハ・和氣ヲ含ミ・精神ヲ抱ケリ・故ニ柔

弱ナリ(也)

其ノ死(スル)トキハ(也)。堅強ナリ

人死(スル)トキハ和氣竭キ・精神亡フ・故ニ堅強ナリ(也)

萬物草木ノ(之)生(ケル)トキハ(也)。柔脆ナリ

和氣存ス(也)

其ノ死(スル)トキハ(也)。枯槁ナリ

和氣去ル(也)

故ニ堅強ハ(者)・死ノ(之)徒ナリ・柔弱ハ(者)・生ノ(之)徒ナリ

其ノ上ノ二事ヲ以テ・觀テ知(ル)(之)。堅強ハ(者)死シ・

柔弱ハ(者)生(ケル)ト云コトヲ知(ル)(也)

是(ヲ)以テ・兵強キトキハ(則)勝タ不

強大ノ(之)兵ハ・輕シク戰ヒ殺ヲ樂ヘ入(シ)フ・毒流レ

怨ミ(結ル)・衆弱一ト為(ル)・強キカ故ニ勝(タ)不

木強キトキハ(則)共ニス

木ノ強大ナルハ枝弱(ク)ノ共ニ其ノ上ニ生(ル)(也)

強大處下柔弱處上

興物造功大木處下故小物處上大道抑強扶弱自然之効⁵⁰ 51⁵²

強大ハ下ニ處ヘ上(リ)・柔弱ハ上ニ處ヘ下(ル)

物ヲ興シ功ヲ造(ル)・大木下ニ處ヘ上(ル)・故ニ小ナル物ハ上ニ處ヘ上(ル)・大道ハ・強キヲ抑ヘ弱(キ)ヲ扶ク・自然ノ(之)効ナリ

校異

- 1 「無窮」書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱは「無窮」は前章との間を空行とする。武内・東大・東洋・弘文は「戒強章第七十六」に、「杏Ⅱ・慶Ⅰ」は「人之章第七十六」に、「筑波・大東」は「人之生章第七十六」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内・東洋」は「人之生章」と、「杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東」は「戒強章」と題す、尚、「梅沢」は「戒」字右旁に「三十八」と、「無窮」は本章直行眉上に「卅九」と下巻内章次数を記す
- 2 「梅沢」・「情」字に作る
- 3 「梅沢」・大東・敦Ⅱ「也」字無し、「無窮」は「者也」二字に作る
- 4 「杏Ⅱ」・梅沢「也」字無し
- 5 「東大」・「疆」字に作る
- 6 「死」字下、「道蔵」則「字有り
- 7 「梅沢」・「情」字に作る
- 8 「宋版」・「欲」字に誤る
- 9 「東大」・「疆」字に作る
- 10 「敦Ⅱ」・道蔵「也」字無し、「筑波」・弘文・大東は「也矣」二字に作る
- 11 「萬物」・弘文此の二字無し、尚、「天東」は左旁に「二字イ无」の校異の書入れが有る
- 12 「筑波」は「艸」字、「慶Ⅰ」は「尸」字に作る
- 13 「筑波」・大東・弘文・道蔵は「也」字無し
- 14 「敦Ⅱ」・「散」字無し
- 15 「道蔵」・「也」字に作る
- 16 「敦Ⅱ」・「也」字に無し

- 17 「梅沢」・「暨」字に作る
- 18 「東大」・東洋「疆」字に作る
- 19 「之」字下、「足利」・「徒」字有り、但、下旁に見消ちを付す
- 20 「徒」字下、「東急」・「也」字有り
- 21 「書陵」・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地「也」字有り、尚、「東洋」は青筆で「徒」字下に小圈を施し左旁に「也才ナ」と校異の書入れ有り
- 22 「道蔵」・「其」字無し
- 23 「觀」字下、「道蔵」・「而」字有り
- 24 「世徳」・「知」字無し
- 25 「道蔵」・「知」字無し、尚、「無窮」は左旁に「一イ无」と校異書入れ有り
- 26 「筑波」・「賢」字に誤る
- 27 「東大」・「疆」字に作る
- 28 「敦Ⅱ」・「也」字無し
- 29 「東大」・「疆」字に作る
- 30 「東大」・「疆」字に作る
- 31 「書陵」・武内・東大・杏Ⅱ「然」字に作る
- 32 「東大」・「疆」字に作る
- 33 「活Ⅰ」・活Ⅱ・無窮・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語・道蔵「也」字有り
- 34 「東大」・「疆」字に作る
- 35 「東大」・「疆」字に作る
- 36 「大」字下、「無窮」・梅沢・敦Ⅱは「者」字、「道蔵」は「則」字有り、但、「無窮」は「者」字左旁に「一イ无」と校異書入れ有り
- 37 「枝」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・

訓読文補注

- 杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語
〔葉〕字有り
- 38 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・道蔵〕〔弱〕字無し、尚「東洋」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 40 39 〔東大〕〔生〕字無し
- 〔敦Ⅱ・道蔵〕〔也〕字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 41 〔東大〕〔疆〕字に作る、「敦Ⅱ」は「故疆」に作る
- 42 〔東洋・東急〕〔与〕字に作る
- 43 諸本「故」字無し
- 44 〔敦Ⅱ〕〔木〕字に作る
- 45 〔敦Ⅱ〕〔在〕字に作る
- 46 〔上〕字に作る
- 47 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・道蔵〕〔天〕字に作る
- 48 〔東大〕〔疆〕字に作る
- 49 〔無窮〕〔忒〕字に作る、但、下旁に「沢イ」の校異書入れ有り
- 50 〔道蔵〕〔之〕字無し
- 51 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・宋版・世徳・道蔵〕は「效」字、「東大」は「郊」字に作る
- 52 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・東急・聖語・道蔵〕〔也〕字有り

- 1 「人ノ(之)生(ケル)トキハ(也)」、(「生(ケル)」は「慶Ⅰ」は「生マレル」、杏Ⅱ・慶Ⅰ別)は「生(マ)レタル」、杏Ⅱ別)は「生

- (マ)ル)、と訓じ、「東大」は「生ハ」と音読する、今、「陽Ⅰ・武内・東洋・筑波・大東・足利・無窮・書陵・梅沢・東急・東活・六地」の点に従い、また、此の本の立戒第四十四「多蔵必厚亡」下注「生ケルトキハ多ク(於)府庫ニ蔵メ」、「生(ケル)トキハ攻ノ規ノ(之)憂ヘ有(リ)」、貴生第五十「生之徒十有三死之徒十有三」下注「其ノ生(ケル)トキハ(也)」の訓例に按じて「イケル」と訓む
- 2 「死(スル)トキハ」、道化第四十二訓読文補注1参照、尚、筑波・大東・慶Ⅰが「死スルトキハ」、「梅沢」は「死ヌル」とききは、「無窮」は「死ヌル」とは、「東急」は「死ルハ」と加点している
- 3 「死(スル)トキハ」、「東大」が「死スルトキハ」、「東洋」が「死スルトハ」と訓む、今、此れに拠つて「スル」を補う、左旁別訓の「カル、」は「陽Ⅰ・梅沢・東活・東洋別訓」と同訓、また、筑波・弘文・大東・足利・杏Ⅱ・書陵別訓・武内別訓・東活別訓は「カレヌル」と附訓し、「東活」は此の訓注に「中」符を付しており、中原家点と認められる
- 4 「生(ケル)ト云コトヲ」、「慶Ⅰ」は「生ケルコトヲ」、「書陵」は「生すと云ことを」と加点する、点本の多くは本点と同じく「ト云コトヲ」、或いは「トイフを」「コトヲ」と送り仮名が省かれ、どう訓まれたのか判断できない、今、「慶Ⅰ」及び本点本の前例に鑑み「イケル」と訓んで後放を俟つ

天之道其猶張弓乎

天道暗昧舉物類以為喻也

高者抑之下者舉之有餘者損之不足者與之

言張弓和調之如是乃可用夫抑高舉下損強益弱天地之道也

天之道損有餘而補不足

天道損有餘而益謙常以中和為上

人之道則不然

人道則與天道反也

損不足以奉有餘

世俗之人損貧以奉富棄弱以益強也

孰能有餘以奉天下唯有道者

言誰能居有餘之位自省爵祿以奉天下不足者乎唯有道之君能行之耳

天ノ〔之〕道ハ・其〔レ〕猶弓ヲ張レルカ〔猶〕キ乎

天道ハ暗昧ナリ・物類ヲ舉フ・以テ喻ト為〔也〕

高キ者ヲハ抑フ〔之〕。下〔去〕ル者ヲハ舉ク〔之〕。餘〔リ〕有

〔ル〕者ヲハ損シ〔之〕。足〔ラ〕不〔ル〕者ニハ與フ〔之〕

言ハ弓ヲ張ル・和調〔之〕是ノ如クニ〔ノ〕用フ可〔シ〕・

夫〔平〕高〔キ〕ヲ抑〔へ〕下〔去〕レルヲ舉〔げ〕強キヲ損シ弱

ヲ益スルハ・天地ノ〔之〕道〔アリ〕〔也〕

天ノ〔之〕道ハ・餘リ有〔ル〕ヲ損シテ〔而〕足ラ不〔ル〕ヲ補ヌフ

天道・餘リ有〔ル〕ヲ損フ〔而〕謙ヲ益ス・常ニ中和ヲ以テ上

ト為

人ノ〔之〕道ハ・〔則〕然ハアラ不

人道ハ・〔則〕天道与反ス〔也〕

足〔ラ〕不〔ル〕ヲ損シテ・以テ餘リ有〔ル〕ニ奉ス

世俗ノ〔之〕人ハ・貧〔シ〕キヲ損フ・以テ富メルニ奉シ・弱

キヲ奪フテ・以テ強キニ益ス〔也〕

孰カ能〔ク〕餘リ有テ・以テ天下ニ奉セントナラハ・唯有道ノ

者〔アリ〕

言ハ誰カ能〔ク〕餘リ有〔ル〕〔之〕位ニ居テ・自〔ラ〕爵祿ヲ省

イテ・以テ天下ノ足〔ラ〕不〔ル〕者ニ奉セン乎・唯有道ノ

是以聖人為而不恃⁴²

聖人為德施⁴³不恃⁴⁴望⁴⁵其報也⁴⁶

功成而不處⁴⁷

功成事就不處⁴⁸其位

其不欲見賢

不欲使人知⁴⁹己之賢⁵⁰匿⁵¹功不居⁵²榮名畏⁵³天損有餘也⁵⁴

〔之〕君ノミ・能〔ク〕行フ〔之〕耳⁴²

是〔ヲ〕以テ・聖人ハ・為ソ〔而〕恃マ不⁴²

聖人ハ・德施ヲ為ス・其ノ報ヲ恃ミ・望マ不〔也〕⁴³

功成テ〔而〕處ヘ〔テ〕不⁴⁷

功成〔リ〕事就テ・其ノ位ニ處ヘ〔テ〕不⁴⁸

其〔レ〕賢ヲ見ク去クハサンコトヲ欲セ不⁴⁹

人ヲソ〔使〕己カ〔之〕賢ヲ知ラ〔使〕メンコトヲ欲セ不・功ヲ匿⁵⁰

ソ・榮名ニ居〔ラ〕不〔ル〕コトハ・天ノ餘リ有〔ル〕ヲ損スル

コトヲ畏〔リ〕テナリ〔也〕⁵¹

校異

- 1 〔無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ〕は章題無し、但、〔聖語〕は前章との間を空行とする。〔武内・東大・東洋〕は「天道章第七十七」に（〔武内〕は「七十九」に誤る、〔杏Ⅱ〕は「天道章第七十七」に、〔筑波・慶Ⅰ・大東〕は「天道章第七十七」に作る。また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち〔武内・東洋〕は「天道章」と、〔杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東〕は「天道章」と題す、尚、〔梅沢〕は章題「天」字右傍に「三十九」と、〔無窮〕は本章首行眉上に「冊」と下巻内章次數を記す
- 2 〔梅沢〕〔其〕字無し
- 3 〔無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・東急・聖語・敦Ⅱ〕〔闇〕字に作る
- 4 〔東急・敦Ⅱ・道蔵〕〔也〕字無し、〔東洋〕は「者也」、〔無窮〕は「之也」二字に作る、但、〔東洋〕は「者」字左傍に青筆で見消ちを付す
- 5 〔東急〕〔之〕字無し

- 6 〔和〕字下、〔東急〕〔氣〕字有り
- 7 〔用〕字下、〔道蔵〕は「也」、〔敦Ⅱ〕は「耳」字有り
- 8 〔道蔵〕〔與〕字に作る
- 9 〔東洋〕は「疆」、〔東大〕は「疆」字に作る
- 10 〔益〕字上、〔東洋〕〔而〕字有り、但、左傍に青筆で見消ちを付す
- 11 〔杏Ⅱ〕〔天〕字無し
- 12 〔宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵〕〔地〕字無し
- 13 〔敦Ⅱ・道蔵〕〔也〕字無し、〔無窮〕は「者也」、〔斯Ⅱ〕は「也」矣二字に作る、〔聖語〕は「也」字下に疊字有り
- 14 〔大東〕左傍に「〔本作與也〕の校異書入れ有り
- 15 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・聖語・六地〕〔也〕字有り
- 16 〔有餘〕、〔道蔵〕〔盈〕一字に作る
- 17 〔道蔵〕〔而〕字無し
- 18 〔常〕字上、〔東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・東急・聖語〕〔天道〕二字有り、〔道蔵〕は「常」字無く「天道」二字に作る、尚、〔東洋〕

は「天道」兩字左旁に青筆で見消ちを付す

19 〔活〕・活Ⅰ・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・敦Ⅱ「也」字有り、「東洋」は「者也」二字に、「聖語」は「也々」に作る

20 〔梅沢・敦Ⅱ「之」字無し
21 「人」字下、無窮・道藏「之」字有り、但、「無窮」は「之」字左旁に「イ」无の校異書入れ有り

22 〔道藏〕「則」字無し
23 〔敦Ⅱ・道藏〕「也」字無し

24 〔書陵・武内・筑波・大東〕「貪」字に作る

25 〔道藏〕「以」字無し
26 〔道藏〕「益」字に作る

27 〔道藏〕「以」字無し、尚、「大東」は本行には脱し右旁に加筆して補入する

28 〔道藏〕「與」字に作る
29 〔東大〕「疆」字に作る

30 〔東急・敦Ⅱ・道藏〕「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す

31 〔道藏〕「孰」字無し
32 〔能〕字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・大地・聖語・道藏「以」字有り

33 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・大地・聖語・道藏〕「以」字無し

34 〔東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・聖語〕「乎」字有り
35 〔道藏〕「能」字無し

下49ウ6 任信第七十八

天下柔弱莫過於水

水貞中則圓方中則方壅之則止沢之則行⁴

〔東急〕「之」字無し

37 36 〔道藏〕「乎」字無し、「武内」は「呼」字に作る
38 〔道〕字下、「道藏」「德」字有り
39 〔君〕字下、「道藏」「而」字有り

40 〔宋版・世德〕「之」字無し
41 〔聖語・宋版・世德・道藏〕「也」字に作る、「東洋・梅沢」は「耳也」二字に作る、但、「東洋」は「也」字左旁に青筆で見消ちを付す

42 〔武内・足利〕「特」字に作る、但、「足利」は見消ちを付し肩上に「特」字を加筆

43 〔施〕字下、「道藏」「惠」字有り
44 〔武内〕「下」、「道藏」「持」字に作る

45 〔宋版・世德〕「望」字無し、「梅沢・東急」は「者也」、「東洋」は「之也」二字に作る、但、「東洋」は「之」字左旁に青筆で見消ちを付す

46 〔敦Ⅱ・道藏〕「也」字無し
47 〔敦Ⅱ〕「而」字無し

48 47 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語〕「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に見消ち有り

49 〔道藏〕「使」字無し
50 〔入〕字上、弘文「心」字有り

51 50 〔筑波〕「堅」字に誤る
52 〔宋版〕「名」字無し

53 52 〔天〕字下、無窮「之」字有り
54 〔敦Ⅱ・道藏〕「也」字無し

任信第七十八

天下ノ柔弱ハ・（於）水ニ過（キ）タルハ莫（シ）

水・員カナル中ニハ（則）圓（カ）ナリ・方ナル中ニハ（則）方

而攻堅強者莫之能勝^{5 6 7}

水能懷山襄陵^{8 9}摩鐵消銅^{10 11 12}莫能勝水而成功也^{13 14 15 16}

其無以能易之^{17 18 19 20 21}

夫攻堅強者無以易於水^{22 23 24}

弱之勝強^{25 26}

水能滅火隕能消陽^{27 28}

柔之勝剛^{29 30}

舌柔齒剛齒先舌亡^{31 32 33 34}

天下莫不知

知柔弱者久長剛強者折傷也^{35 36 37 38}

莫能行^{39 40}

耻謙卑好強梁^{41 42 43}

故聖人云⁴⁴

謂下事也⁴⁵

ナリ・壅クトキハ〔之則〕止〔マ〕リ・決クルトキハ〔之則〕行
(ク)^{補注1}

〔而〕堅強ヲ攻ムル者・〔之〕能ク勝ルコト莫シ

水・能ク山ヲ懷ネ陵ニ襄ル・鐵ヲ摩シ銅ヲ消ス・能ク

水ニ勝テ〔而〕功ヲ成〔ス〕コト莫シ〔也〕

其〔レ〕以テ能ク易クキコト無シ〔之〕

夫〔平〕堅強ヲ攻〔ム〕ル者ハ・以テ〔於〕水ヨリモ易ク去キハ

無シ

弱ノ〔之〕強ニ勝リ

水〔・〕能ク火ヲ滅シ・隕〔・〕能ク陽ヲ消ス

柔ノ〔之〕剛ニ勝ル

舌ハ柔ニシテ齒ハ剛シ・齒ハ舌ニ先クテ亡ス

天下・知〔ラ〕不ト云コト莫シ

柔弱ナル者ハ久長ニ剛強ナル者ハ折傷ル、コ

トヲ知ル〔也〕

能ク行フコト莫シ

謙卑ヲ耻〔子〕・強梁ヲ好〔去〕ム

故ニ聖人ノ云ク

下ノ事ヲ謂フ〔也〕

受國之垢是謂社稷主

人君能受國垢濁者若江海不逆小流則能長保其社稷為一國君主也

受國之不祥是謂天下王

君能引過自与代民受不祥之殃則可以王有天下

正言若反

此乃正直之言世人不知以為反言也

國ノ〔之〕垢ヲ受〔ク〕ル・是ヲ社稷ノ主ト謂フ

人君・能〔ク〕國ノ垢濁ヲ受〔ク〕ル者ハ・江海ノ小流ニ逆ハ不〔ル〕カ若〔ク〕ナルトキハ・〔則〕能〔ク〕長ク其ノ社稷ヲ保テ・一國ノ君主為〔リ〕〔也〕

國ノ〔之〕不祥ヲ受〔ク〕ル・是ヲ天下ノ王ト謂フ

君能〔ク〕過ヲ引テ・自〔ラ〕与ニ民ニ代テ・不祥ノ〔之〕殃ヲ受〔クル〕トキハ・〔則〕以テ王〔去〕トソ天下ト有〔ツ〕可〔シ〕

正言ハ反スルカ若シ

此乃〔チ〕正直ノ〔之〕言ナリ・世人ハ知〔ラ〕不ソ・以テ反言ト為〔也〕

校異

1

〔無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ〕は章題無し、但、〔聖語〕は前章との間を空行とする。東大・東洋は〔任信章第七十八〕に、〔武内〕は〔任信章七十八〕に、〔杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東〕は〔天下章第七十八〕に、〔筑波〕は〔天下柔弱章第七十八〕に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち〔武内〕は〔天下章〕と、〔東洋〕は〔天下柔弱章〕と、〔杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東〕は〔任信章〕と題す、尚、〔梅沢〕は章題〔任信章〕字右旁に〔四十一〕と、〔無窮〕は本章首行眉上に〔冊一〕と下巻内章次数を記す

2

〔水〕字上、〔道蔵〕〔言〕字有り、〔東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ〕字無し、〔水〕字下、〔道蔵〕〔柔弱〕二字有り

3

〔宋版・世徳・道蔵〕〔擁〕字に作る

4

〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・聖語〕〔也〕字有り、〔東洋〕は〔矣〕字有り

り、但、〔東洋〕は〔矣〕字左旁に青筆で見消ちを付す

〔書陵・梅沢・弘文〕〔政〕字に作る、尚、〔梅沢〕は〔政〕字左旁に〔政イ〕の校異書入れ有り

6

〔東大〕〔疆〕字に作る

7

〔宋版・世徳〕〔知〕字に誤る

8

〔慶Ⅰ〕〔壞〕字に作る

9

〔懷山襄陵〕〔敦Ⅱ〕〔壞陵壞山〕に作る

10

〔慶Ⅰ・宋版・世徳・道蔵〕〔磨〕字に作る

11

〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・東洋・梅沢・東急・敦Ⅱ〕は〔鐵〕〔武内・東大・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東〕は〔鉄〕〔弘文・斯Ⅱ〕は〔鍊〕〔聖語〕は〔銅〕〔道蔵〕は〔水〕字に作る

12

〔道蔵〕〔銷〕字に作る

13

〔莫〕字上、〔武内〕字有り

14

〔而〕字下、〔道蔵〕〔以〕字有り

15

〔功〕字上、〔道蔵〕〔其〕字有り

16 「敦Ⅱ」也「字無し」、梅沢 は「之也」二字に作る、「聖語」は「也」字下に疊字有り
 17 「其」字上、「筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・慶Ⅰ・大東・杏Ⅱ・東急・道藏」は「以」字有り、但、「足利」は見消ちを付す、尚、「慶Ⅰ・大東・杏Ⅱ」は肩上に「王弼本其字上有以字」との校異書入れ有り
 18 「武内・大東・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ」は「无」字に作る
 19 「東大・杏Ⅱ・東洋・東急・道藏」は「以」字無し
 20 「宋版・世徳・敦Ⅱ」は「能」字無し、尚、「無窮」は左旁に「一」イ无と校異記有り
 21 「筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ」也「字有り」
 22 「東大」・「疆」字に作る
 23 「活Ⅰ」・「活Ⅱ」・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・世徳・道藏「無」字に作る
 24 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・慶Ⅰ・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「也」字有り（聖語は字下疊字有り）、筑波・弘文・大東は「也矣」、無窮・東洋は「者也」二字有り、但、「東洋」は「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 25 「道藏」此の経文及び注は、次の経文注の下に配す
 26 「道藏」之「字無し」
 27 「足利」・「肖」字に作る
 28 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・足利・梅沢・聖語「也」字有り
 29 「柔」字上、「道藏」故「字有り」
 30 「道藏」之「字無し」
 31 「梅沢」活「字に誤る」
 32 「敦Ⅱ」字無し
 33 「齒先舌亡」、東急「舌存齒亡」に作る、尚、「慶Ⅰ・杏Ⅱ」の該所肩上に「本乍齒亡舌存又舌存齒亡也」との校異書入れを認める
 34 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・武内・東大・足利・梅沢・聖語は「也」字有り（聖語は字下疊字有り）、慶Ⅰ・斯Ⅱ・書陵は「之」字有り、筑波・大東・弘文は「之也」、東洋は「者也」二字有り、但、「東洋」は青筆で両字左旁に見消ちを付し、右旁に「之」字を加筆する
 35 「久長」、宋版・世徳「長久」に作る
 37 「剛強者折傷也」、筑波 此の注文小字六字分空格のまま未写
 「東大」・「疆」字に作る

38 「道藏」也「字無し」
 39 「莫」字上、「東大・筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ」而「字有り」
 40 「能」字上、「足利・斯Ⅱ」之「字有り」
 41 「梅沢」宋版・道藏「恥」字に作る
 42 「東大」・「疆」字に作る
 43 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・梅沢・聖語・世徳「也」字有り（聖語は字下疊字有り）、東洋は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 44 「梅沢」は「言」字に、「敦Ⅱ」は「言言」二字に作る、尚、「無窮」は右旁に「言イ」と校異書入れ有り
 45 「謂下事也」、道藏「此の四字無し」
 46 「櫻」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・東急・聖語「之」字有り
 47 「宋版」・世徳「人」字無し
 48 「國」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・道藏・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・「細」字に作る、尚、「無窮」は右旁に「細イ」の校異書入れ有り
 49 「武内」・東大・東洋・杏Ⅱ・聖語「細」字に作る、尚、「無窮」は右旁に「細イ」の校異書入れ有り
 50 「無窮」者「字無し」
 51 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・道藏「其」字無し
 52 「一國」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・聖語・道藏「之」字有り
 53 「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
 54 「敦Ⅱ」・道藏「也」字無し、「東洋」者也「二字に作る、但、」
 55 「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・東大・東洋・筑波・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・東急・聖語・敦Ⅱ・道藏「之」字無し
 56 「下」字下、「活Ⅰ」・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・無窮・武内・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・六地「之」字有り
 57 「自与」、道藏「歸已」に作る

58 「道蔵」〔受〕字無し、「活工」は「愛」字に誤る

59 「之殃」、「道蔵」此の二字無し

60 「梅沢・東急」〔則〕字無し

61 「足利」〔下〕字に作る、但、見消ちを施し右旁に「可」字を加筆

62 「道蔵」〔有〕字無し

63 「活工・陽Ⅱ・書陵・無窮・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語」〔也〕字有り

〔聖語〕は字下疊字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す

64 「武内・東大」〔之〕字無し

65 「言」字下、「杏Ⅱ・東大」〔也〕字有り

66 「以」字下、「無窮・東急」〔所〕字有り、但、「無窮」には右旁に「イ充」の校異記有り

67 「宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」〔也〕字無し

訓読文補注

1 「行(ク)」、一梅沢・書陵・杏Ⅱ・武内・東大・大東別訓・東适

は「ナカル」と加点、「無窮・東洋」は「行ク」と「ク」を送り、

〔慶Ⅰ別訓〕は「ユクナリ」。今は、「無窮・東洋」の訓に倣い「ク」を補う

2 「勝ルコト」、一東适は「勝」字左旁に「カツ中」と訓注が有り、

中原家では「カツ」と訓んだようである、「梅沢・東急・武内・杏Ⅱ・東洋別訓・慶Ⅰ別訓」が「カツコト」の訓を付す

3 「折(レ)」、一梅沢・陽Ⅰ・書陵別訓・武内別訓は「ヲレ」と、

杏Ⅱは「クシケ」と、天東は「クチケ」、〔弘文〕は「クチキ」と加点さる、今は、「梅沢・陽Ⅰ・書陵別訓・武内別訓」に倣い

「レ」を補う

下51オ2 任契第七十九

和大怨²

殺人者死傷人者刑以相和報³

必有餘怨

任刑者失人情必有餘怨及於良人也⁶

安可以為善

任契第七十九

大怨ヲ和ユルニハ

人ヲ殺ス者ヲハ死セシメ・人ヲ傷ル者ヲハ刑ノ・以テ相和^ヒ

報ス

必ス餘ノ怨有(リ)

刑ニ任スル者ハ・人ノ情ヲ失(フ)・必ス餘ノ怨有テ・〔於〕

良人ニ及(フ)〔也〕

安^クンソ以テ善ヲ為可ンヤ

言一人呼嗟則失天心安可以怨為善也¹³

是以聖人執¹⁴契¹⁵

古者聖人執¹⁵契¹⁶合符信也¹⁷无文書法律刻契合符以¹⁸

為信也²³

而不責於人²⁴

但刻契之信不責人以他事也²⁵²⁶²⁷²⁸²⁹³⁰³¹³²³³

有德司契³⁴

有德之君司察契信而已³⁵³⁶³⁷³⁸

無德司徹³⁹

无德之君背其契信司人所失⁴⁰⁴¹⁴²⁴³⁴⁴⁴⁵

天道無親常與善人⁴⁶⁴⁷

天道无有親跡唯与善人則与司契者也⁴⁸⁴⁹⁵⁰⁵¹⁵²⁵³⁵⁴

校異

1 一無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・教Ⅱ一は章題無し、但、「聖語」は前章との間を空行とする。「武内・東大・東洋・

言ハ一人呼嗟スルトキハ・〔則〕天心ヲ失フ・安〔ン〕怨ヲ和〔ユ〕ルヲ以テ善ト為可シヤ〔也〕

是〔ヨ〕以テ・聖人ハ・左契ヲ執ト

古ノ〔者〕聖人ハ・左契ヲ執テ・符信ヲ合ス〔也〕。文書法律・契ヲ刻ミ符ヲ合セテ・以テ信ト為〔ス〕コト无〔シ〕〔也〕

而〔シテ〕〔於〕人ヲ責メ不

但契ヲ刻ム〔之〕信アリテ・人ニ責〔ム〕ルニ他事ヲ以テセ不

〔ル〕ソ〔也〕

有¹德ハ契ヲ司²ル

有德ノ〔之〕君ハ・契信ヲ司察スル而³已ナリ

無¹德ハ徹ヲ司²ル

无德ノ〔之〕君ハ・其ノ契⁴信ヲ背⁵去⁶〔イ〕テ・人ノ失〔フ〕

所ヲ司ル

天道ハ親無〔シ〕・常ニ善人ニ與⁷ス

天道ハ・親⁸疏有〔ル〕コト无〔シ〕・唯善人ニ与⁹スト云ハ・

〔則〕司契ノ者¹⁰ニ与¹¹スルソ〔也〕

弘文は「任契章第七十九」に、「吞Ⅱ・慶Ⅰ・大東」は「和文章第七十九」に、「筑波」は「和大怨章第七十九」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「和

大章」と、「東洋」は「和太怨章」と、「否Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東」は「無窮」と題す。尚、「梅沢」は章題「任」字右旁に「四十一」と、「無窮」は本章首行頂上に「冊二」と下巻内章次數を記す。
 2 「足利・斯Ⅱ」者、字有り
 3 「書陵・武内・東大・杏Ⅱ・足利・斯Ⅱ・梅沢」「欽」字に作る
 4 「杏Ⅱ」之「字」に作る
 5 「無窮・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢」聖語・道藏は「也」字有り、「東洋」は「之也」二字有り、但、両字左旁に青筆で見消ちを付す
 6 「宋版・世徳」餘「字無し」、弘文は「余」字に作る
 7 「良」字上「足利」畏「字有り」、但、見消ちを付す
 8 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・慶Ⅰ・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語・東急・教Ⅱ」之「民」字に作る
 9 「東急・教Ⅱ・道藏」也「字無し」
 10 「大東・弘文」矣「字有り」
 11 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・宋版・世徳・道藏」吁「字に作る」
 12 「天」字下、「無窮」之「字有り」
 13 「弘文・斯Ⅱ・教Ⅱ」也「字無し」
 14 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字に作る」
 15 「執左契合符信也」、治要此の七字句無し、「執」字、「武内」は「報」字に誤る、「東急」本行に脱し右旁に加筆
 16 「慶Ⅰ」右「字」に誤る
 17 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字に作る」
 18 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・足利・斯Ⅱ・聖語・教Ⅱ」也「字無し」
 19 「活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道藏」無「字」に作る
 20 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵」字「字」に作る、尚、「東洋」は青筆で「書」字左旁に見消ちを付し右旁に「字」字を加筆
 21 「律」字下、「武内・東大・東洋・杏Ⅱ」字「字」有り、但、「東洋」は青筆で左旁に見消ちを付す、「道藏」は「刑」字有り
 22 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字」に作る
 23 「信」字下、「無窮・梅沢」之「字」有り
 24 「斯Ⅱ・教Ⅱ」也「字無し」
 25 「但」字下、「活Ⅱ・無窮」執「字」有り

26 「東急」は「尅」字、「教Ⅱ」は「剋」字に作る
 27 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字」に作る
 28 「聖語・道藏」爲「字」に作る
 29 「人」字上、「陽Ⅰ・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ・東洋」於「字」有り
 30 「道藏」於「字」に作る
 31 「梅沢」化「字」に誤る
 32 「教Ⅱ・治要」也「字無し」
 33 「東洋」矣「字有り」、但、左旁に青筆で見消ちを付す
 34 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字」に作る
 35 「聖語」容「字」に作る
 36 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字」に作る
 37 「弘文」は「也」字、「武内」は「耳」字に作る
 38 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・梅沢」也「字有り」
 39 「武内・大東・梅沢・六地・教Ⅱ・治要」无「字」に作る
 40 「活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道藏」無「字」に作る
 41 「足利」皆「字」に誤る
 42 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字」に作る
 43 「宋版」言「字」に誤る
 44 「人」字下、「東洋」之「字」有り、但、左旁に青筆で見消ちを付す
 45 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・聖語・治要」也「字」有り
 46 「陽Ⅰ・武内・大東・六地・教Ⅱ・治要」无「字」に作る
 47 「無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ」也「字」有り、但、「無窮」は左旁に「イ」の校異記有り
 48 「活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・聖語・宋版・世徳・道藏」無「字」に作る
 49 「無窮・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・宋版・世徳・教Ⅱ・道藏」踈「字」に作る、但、「無窮」は右旁に「疏イ」の校異記有り
 50 「無窮」は右旁に「但イ」の校異記有り
 51 「与」字下、「聖語」之「字」有り
 52 「書陵・慶Ⅰ・足利・東急」契「字」に作る
 53 「道藏」同「字」に作る

下52オ1 獨立第八十

小國寡民²

聖人雖治大國猶以為小儉約不奢泰民雖衆猶若寡
小不敢勞也^{9 10 11 12}

使民有什佰^{13 14 15}

使民各有部曲什佰貴賤不相犯也^{16 17 18 19 20 21 22}

人之器而不用²³

器謂農器而不用者不徵召養民良時也^{24 25 26 27 28 29 30 31 32}

使民重死

君能為民興利除害各得其所則民重死而貪生也^{33 34 35 36 37 38 39}

而不遠徙⁴⁰

政令不煩則安其業故不遠徙離其常處也^{41 42 43 44 45 46 47}

獨立第八十

國ヲ小(シ)キナリトシ民ヲ寡シトス^(補注1)

聖人ハ・大國ヲ治ムト雖・猶以テ小(シ)キナリト為(ス)カ
「猶」シ・儉・約ニソ・奢・泰ナラ不(・)民衆シト雖・猶寡小
ナルカ若シ・敢テ勞ハラ不(也)^(補注2)

民ヲソ(使)什佰有ラ「使」ム

民ヲソ(使)・各部曲什佰有テ・貴賤・相犯サ不(ラ)「使」

ム(也)

人ノ(之)器ヲ・而モ用(ヒ)不

器ト云ハ・農器ヲ謂(フ)・而(モ)用ヒ不ト云ハ(者)・徵召

ソ民ノ良時ヲ奪ハ不(ル)ソ(也)

民ヲソ(使)死ヲ重セ「使」ム

君能(ク)民ノ為(去)ニ・利ヲ興(平)シ害ヲ除ク・各其ノ所

ヲ得(ル)トキハ・(則)民死ヲ重シ・而(シ)テ生ヲ貪ル(也)

而(シ)テ遠ク徙ラ不

政令煩(シ)カラ不(ル)トキハ・(則)其ノ業ヲ安ス・故ニ遠

雖有舟輿無所乘之⁴⁸

清靜無為不作煩華不好出入遊娯也^{49 50 51 52 53 54 55 56 57 58}

雖有甲兵無所陳之^{59 60 61}

无怨惡於天下^{62 63 64}

使民復結繩而用之

去文反質信无欺也^{65 66 67}

甘其食

甘其蔬食不漁食百姓也^{68 69 70 71 72}

美其服

美其惡衣不貴五色^{73 74}

安其居

安其茅茨不好文飾之屋^{75 76 77 78 79}

樂其俗

樂其質朴之俗不轉移也^{80 81 82}

鄰國相望雞狗之声相聞

相去近也

民至老死不相往來^{85 86 87}

ク迂リ^カ徙テ・其ノ^レ常ノ^レ処ヲ離レ不^ハ也

舟輿有^リト雖・乗ル所無^シ之

清靜無^レ為ニ^シ・煩華ヲ作^サ不^レ出^ル入遊娯ヲ好^ムマ

不^ル之也

甲兵有^リト雖・陳スル所無^シ之

〔於〕天^ト下ニ怨^ミ惡^ム去^ルマル、コト无^シ之

民ヲ^レ使^ハ・復テ繩ヲ結テ〔而〕用ヒ使^ム之

文ヲ去テ質ニ反^シ・信アリテ欺クコト无^シ之也

其ノ^レ食ヲ甘シ^シ

其ノ^レ蔬食ヲ甘シ^シ・百姓ヲ漁食セ不^レ也

其ノ^レ服ヲ美シトシ^シ

其ノ^レ惡^シ衣^ヲ美トシ^シ・五色ヲ貴ヒ不^レ

其ノ^レ居ヲ安シ^シ

其ノ^レ茅^ヲ茨ヲ安^シ・文飾ノ^レ之^ヲ屋ヲ好^ム去^ルマ不^レ

其ノ^レ俗ヲ樂^ム入^ルシフ

其ノ^レ質^ヲ朴ノ^レ之^ヲ俗ヲ樂^ム入^ルシ^テ・轉移セ不^レ也

鄰國相望^テ・雞狗ノ^レ之^ヲ声相聞^ク去^ルユ

相^レ去^ルレ^ルコト近シ^シ也

民老死ニ至ルマテニ・相^レ往來セ不^レ

其⁸⁸无⁸⁹情⁹⁰欲⁹⁰也

校異

- 1 「無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・六地・東急・聖語・敦Ⅱ」は章題無し、但、「聖語」は前章との間を先行とする。武内・東大・東洋は「獨立章第八十」に、「弘文」は「獨立章八十」に、「杏Ⅱ・慶Ⅰ・大東」は「小國章第八十」に、「筑波」は「小國寡民章第八十」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「小國章」と、「東洋」は「小國寡民章」と、「筑波・慶Ⅰ・大東」は「獨（獨）立章」と題す、尚、「梅沢」は章題「獨」字右旁に「四十二」と、「無窮」は本章首行眉上に「卅三」と下巻内章次数を記す
- 2 「猶」字上、「慶Ⅰ」獨一「字有り」
- 3 「無窮」少」字に作る
- 4 「筑波・弘文・大東」少一「字に作る
- 5 「審」字上、「道藏」は「國示」二字有り
- 6 「檢」字上、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・聖語・道藏」爲」字有り、尚、「大東」右旁、「無窮」左旁に「イ无」と校異の書入れ有り
- 7 「泰」字下、「無窮・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・聖語」也」字有り
- 8 「無窮」右旁「由イ」の校異記有り
- 9 「武内・東大・東洋・杏Ⅱ・梅沢・東急」は「小」字無し、但、「東洋」は青筆で「寡不」字間に小圈を施し左旁に「之」字を加筆する、宋版・世徳・敦Ⅱは「少」字に、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ」は「之」字に、「道藏・治要」は「乏」字に作る
- 10 「治要」敢」字無し
- 11 「券」字下、「宋版・世徳」之」字有り
- 12 「敦Ⅱ・道藏」也」字無し
- 13 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・六地・宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏」民」字無し、尚、「足利」右旁に「二本無」と、「書陵」の「使有」字間
- 14 左旁に「民一本」と校異の書入れ有り
- 15 「無窮」左旁「任Ⅰ」の校異記有り
- 16 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶

其(レ)情欲无(キ)ソ(也)

- 1 「大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏」は「伯」字に、「東急」は「百」字に作る
- 2 「聖語」入」字に作る
- 3 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏」は「伯」字に、「東急」は「百」字に作る
- 4 「貴」字上、「無窮」貧富」二字有り、但、此の各字右旁には「イ无」の校異記を附す
- 5 弘文「財」字に誤る
- 6 「無窮・書陵」化」字に作る、「敦Ⅱ」は「侵暴」二字に作る
- 7 「足利・東急」也」字無し
- 8 「筑波・大東」矣」字有り
- 9 「農」字下、「宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏」は「人之」聖語」は「民之」二字有り
- 10 「器」字下、「無窮」也」字有り
- 11 「宋版・世徳」者」字無し
- 12 「東急」微」字に作る
- 13 「陽Ⅰ」は「占」字に、「道藏」は「實」字に作る
- 14 「慶Ⅰ」奢」字に作る
- 15 「宋版・世徳」入」字に作る
- 16 「道藏」之」字に作る
- 17 「東急・敦Ⅱ・道藏」也」字無し
- 18 「治要」入」字に作る
- 19 「無窮」与」字に作る
- 20 「其」字上、「斯Ⅱ」而」字有り
- 21 「杏Ⅱ」処」字に作る
- 22 「則」字下、「敦Ⅱ」使」字有り
- 23 「聖語」人」字に作る
- 24 「敦Ⅱ」也」字無し
- 25 「治要」而」字無し
- 26 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・筑波・弘文・大東・足利・東急」徒」字に作る

- 42 「安」字上、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・東急・聖語・治要「民」字有り、「敦Ⅱ」は「使」字有り
- 43 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・筑波 慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・足利・梅沢・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道藏・治要「遷」字に作る
- 44 道藏・治要「徒」字無し、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・筑波・大東・離Ⅰ・東急・聖語は「徒」字、「武内」は「從」字に作る
- 45 「離」字上、敦Ⅱ「以」字有り、道藏は此の「離」字無し
- 46 東急・敦Ⅱ「処」字無し
- 47 宋版・世徳・敦Ⅱ「也」字無し
- 48 武内・東大・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ・治要「无」字に作る
- 49 「清静」、筑波・弘文・大東「静清」に作る
- 50 東大・世徳「淨」字に作る
- 51 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道藏「無」字に作る
- 52 「不作煩華」、治要 此の四字無し
- 53 東急「作」字無し
- 54 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ「繁」字に作る
- 55 筑波「業」字に誤る
- 56 道藏「入」字無し
- 57 「遊娛也」、治要 此の三字無し、「遊」、宋版・世徳「游」字に作る
- 58 敦Ⅱ・道藏「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 59 聖語は「也」字下疊字有り
- 60 弘文「申」字に誤る
- 61 武内・大東・梅沢・六地・敦Ⅱ・治要「无」字に作る
- 62 武内・斯Ⅱ「陣」字に作る
- 63 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道藏「無」字に作る
- 64 「怨」字下、弘文「害」字有り
- 65 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・書陵・梅沢・聖語「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 90 「信」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「而」字有り
- 66 活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道藏「無」字に作る
- 67 東大・敦Ⅱ「也」字無し、「東洋」は「之也」二字に作る、但、「之」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 68 「其」字下、敦Ⅱ「以」字有り
- 69 武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・大東・梅沢・宋版・世徳・道藏・治要「疏」字に作る、但「東洋」は青筆で左旁に見消ちを付し「疏」字を加筆する
- 70 武内「不」字を脱す
- 71 敦Ⅱ・道藏は「魚」字に、「書陵」は「復」字に作る、尚、「梅沢」は「漁」字右旁に「魚イ」「東活」は左旁に「復イ」と校異の書入れがあり、「東洋」は青筆で左旁に見消ちを付し右旁「復」字を加筆する
- 72 敦Ⅱ「也」字無し
- 73 治要「衣」字に作る
- 74 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・道藏「也」字有り
- 75 「其居」、敦Ⅱ「居其」に作る
- 76 「安其」、敦Ⅱ「其安」に作る
- 77 筑波・大東・弘文「之」字無し
- 78 聖語「居」字に作る
- 79 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・東大・杏Ⅱ・筑波・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語「也」字有り、「東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを付す
- 80 治要「樸」字に作る
- 81 「不轉移也」、治要 此の四字無し
- 82 敦Ⅱ・道藏「也」字無し
- 83 梅沢・治要「鷄」字に作る
- 84 道藏「犬」字に作る
- 85 「民」字上、梅沢「使」字有り
- 86 「老」字下、治要「至」字有り
- 87 宋版「死」字無し
- 88 治要「其」字無し
- 89 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道藏「無」字に作る

字に作り、「者」字右旁に「イ无」と校異記を附す

訓読文補注

- 1 「小(シ)キナリトシ」一書陵・武内・筑波・大東・斯II・東急・治要・六地・東活の訓「スコシキナリトシ」に従う。尚、杏IIは「シキナリトシ」の六文字を送り同訓、「陽I」は「スコシキニシ」、梅沢は「スコシキナリトモ」と附訓す、尚、恩始第六十三補注2参照
- 2 「勞ハラ不」、「陽I・書陵・治要・東活」は「勞ハラシメ不」、

下53オ5 顯質第八十一

信言不美

信言者如其實不美者朴且質也

美言不信

滋美言者孳々華詞不信者飾偽多空虛也

善者不辨

善者以道修身不辨者不綵文也

顯質第八十一

信言ハ美ナラ不

信言ハ〔者〕・其ノ實ノ如〔シ〕・美ナラ不ト云ハ〔者〕・朴ニツ且質ナルソ〔也〕

美言ハ信ナラ不〔不信ナリ〕

滋美ノ言ハ〔者〕・孳々トソ華詞アリ・信〔ナラ〕不ト云ハ〔者〕・飾リ偽テ空虛多〔キ〕ソ〔也〕

善者ハ辨ナラ不

善者ハ・道ヲ以テ身ヲ修ム・辨ナラ不ト云ハ〔者〕・綵文ナラ不〔ル〕ソ〔也〕

辨者²⁵不善

辨者謂巧言也。不善者舌致患也。土有玉掘其山水有珠濁其淵。辨口多言亡其身³⁷。

辨者ハ善ナラ不

辨者ト云ハ・巧言ヲ謂(フ)〔也〕。善ナラ不ト云ハ〔者〕・舌ノ患ヘヲ致スソ〔也〕。土・玉有テ・其ノ山ヲ掘ラレ・水・珠有テ・其ノ淵ヲ濁ラス・辨口多言ナルトキハ其ノ身ヲ

知者不博

知者謂知道之士不博者守一元也³⁹。

知(去)者ハ博カラ不

知(去)者ト云ハ・道ヲ知(ル)〔之〕士ヲ謂(フ)・博カラ不ト云

博者不知

博者多見聞不知者失要真也⁴³。

博キ者ハ知(ラ)不

博キ者ハ・見聞(ク)コト多(キ)□・知(ラ)不ト云ハ〔者〕・

聖人不積

聖人積德不積財有德以教愚有財以与貧也⁵⁰。

聖人ハ積マ不

聖人ハ・徳ヲ積テ・財ヲ積(マ)不・徳有テ・以(テ)愚ニ教ヘ・

既以為人已愈有

既以為人施設德化已愈有德⁵¹。

既ニ以テ人ノ為(去)ニスルトキハ・己愈有(リ)

既ニ以テ人ノ為(去)ニ・徳化ヲ施(シ)設(クル)トキハ己愈

既以與人己愈多

既以財賄布施与人而財益多如日月之光无有盡時⁵⁸。

既ニ以テ人ニ與(フ)ルトキハ・己愈多シ

既ニ財ヲ賄ヲ以テ・布(キ)施ソ人ニ与(ヘ)テ・〔而〕財益多

也⁵⁹

天之道利而不害

天生万物愛育之令長大无所傷害也^{60 61 62 63}

聖人道為而不争

聖人法天所施為化成事就不与下争功名故能全其

聖功也⁶⁷

河上公老子德經下⁶⁸

校異

- 1 「無窮」書陵・足利・斯II・六地・東急・聖語・敦IIは章題無し、但、「聖語」は前章との間を空行とする。「武内・東大・東洋」は「顯質章第八十一」に、「弘文」は「顯質章八十一」に、「杏II・慶I・大東」は「信言章第八十一」に、「筑波」は「信言不美章第八十一」に作る、また、本題下に別題名を小書或いは大書する本がある、即ち「武内」は「信言章」と、「東洋」は「信言不美章」と、「筑波・慶I・大東」は「顯質章」と題す、尚、「梅沢」は章題「顯」字右旁に「四十三」と「無窮」は本章首行眉上に「冊四」と下卷内章次数を記す
- 2 「宋版・世徳」「言」字を脱す
- 3 「東急」字下、「活I・活II・陽I・武内・東大・東洋・杏II・筑波・慶I・大東・弘文・足利・斯II・無窮」書陵・梅沢・東急・道蔵「也」字有り
- 4 「實」字下、「活I・活II・陽I・武内・東大・東洋・杏II・筑波・慶I・大東・弘文・足利・斯II・無窮」書陵・梅沢・東急・道蔵「也」字有り
- 5 「東急」字下、「活I・活II・陽I・武内・東大・東洋・杏II・筑波・慶I・大東・弘文・足利・斯II・無窮」書陵「者」字無し、但、「美朴」兩字中間右旁に「者」字を加

キコト・日月ノ「之」光ノ・盡ク「ル」時有「ル」コト无「キ」カ如「シ」也

天ノ「之」道ハ・利ノ「而」害セ不

天万ノ物ヲ生ノ・愛育シ「之」・長「大」ナラ令メテ・傷害スル

所无「シ」也

聖人ノ道ハ・為「而」争ハ不

聖人ハ・天ノ施為スル所ニ法リテ化「成」リ事「就」テ下与功

名ヲ争ハ不・故ニ能「ク」其ノ聖功ヲ全クス也

河上公老子德經下

- 筆する
- 7 「道蔵」「樸」字に作る
- 8 「聖語・敦II」「也」字無し
- 9 「活I・活II・陽I・無窮」書陵・武内・東大・東洋・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・梅沢・東急・聖語・敦II「滋」字無し
- 10 「美」字下、「宋版・世徳・道蔵」「之」字有り
- 11 「攀」字下、「道蔵」「之」字有り
- 12 「道蔵」「美」字に作る
- 13 「活I・活II・陽I・無窮」書陵・武内・東大・東洋・杏II・筑波・弘文・慶I・大東・足利・斯II・梅沢・東急・聖語・敦II・道蔵「辭」字に作る
- 14 「不」字上、「活I・活II・無窮」「也」字有り
- 15 「陽I・書陵・慶I・足利・斯II」「者」字無し、尚、「東洋」は「者」字左旁に青筆で見消しを付す
- 16 「飾」字上、「無窮」「好」字有り、但、左旁に「一イ无」との校異を附す

- 18 17 「慶Ⅰ・敦Ⅱ」也」字無し
「杏Ⅱ・慶Ⅰ・六地・東急・聖語・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」辯」字に作る
- 19 「足利」者」字重複、但、上「者」に見消ちを付す
- 20 「身」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・道蔵」也」字有り
- 21 「不辨者」、聖語・宋版・世徳、此の三字無し
- 22 「慶Ⅰ・東急・敦Ⅱ・道蔵」は「辯」、杏Ⅱ」は「弁」字に作る
- 23 「綴文」、梅沢・聖語・東急・敦Ⅱ」は「文彩」、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ」は「文采」に、「武内・東大・東洋・道蔵」は「文彩」に作る、但、「東洋」は青筆で「彩」字左旁に見消ちを施し右旁に「采」字を加筆する
- 24 「東急」也」字無し、「書陵」「之也」二字に作る
- 25 「武内・東洋・杏Ⅱ・慶Ⅰ・六地・東急・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」辯」字に作る
- 26 「慶Ⅰ・東急・宋版・世徳・敦Ⅱ・道蔵」は「辯」、武内・東洋・杏Ⅱ」は「弁」字に作る
- 27 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ」也」字無し
- 28 「者」字下、「聖語」謂」字有り
- 29 「敦Ⅱ」也」字無し
- 30 「東洋・宋版・世徳」「山」字に作る
- 31 「敦Ⅱ」玉」字無し
- 32 「陽Ⅰ・慶Ⅰ・足利・書陵」は「堀」、武内・大東」は「握」字に作る
- 33 「敦Ⅱ」於」字に作る
- 34 「濁」字上、弘文」也」字有り
- 35 「慶Ⅰ・東急・宋版・世徳・道蔵」は「辯」、武内・東大・東洋・杏Ⅱ」は「弁」字に作る
- 36 「言」字下、道蔵」者」字有り
- 37 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・杏Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・道蔵」也」字有り
- 38 「足利・東急」無」字に作る、但、両本とも、見消ちを付し字傍に「元」の校字書入れ有り
- 39 「敦Ⅱ」也」字無し

- 40 「者」字下、「無窮」謂」字有り、但、右旁に「イ无」と校異の書入れ有り
- 41 「聞」字下、「無窮」也」字有り、但、左旁に「イ无」と校異の書入れ有り
- 42 「東急・敦Ⅱ」字無し
- 43 「斯Ⅱ」者」字無し
- 44 「入」字下、聖語「不」字有り
- 45 「積」字下、敦Ⅱ」不」字有り
- 46 「大東」「行」字に作る
- 47 「財」字下、「無窮」也」字有り
- 48 「治要」以」字重複、但、下「以」字左旁に見消ちを施す
- 49 「武内」食」字に誤る
- 50 「敦Ⅱ」治要」也」字無し
- 51 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・杏Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・聖語」也」字有り、東洋」は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
- 52 「敦Ⅱ」布」字に作る
- 53 「敦Ⅱ」布」字無し、「東大・東洋・梅沢」は「有」字に、「無窮」は「有布」二字に作る
- 54 「敦Ⅱ」施」字無し
- 55 「東洋」人」字無し
- 56 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・聖語・敦Ⅱ・治要」而」字無し
- 57 「光无」、弘文」无光」に作る
- 58 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵」無」字に作る
- 59 「敦Ⅱ・道蔵」治要」也」字無し、「梅沢」は「之也」、東洋」は「者也」二字に作る、但、「東洋」は「者」字左旁に青筆で見消ちを施す
- 60 「筑波・道蔵」天」字に作る
- 61 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵」無」字に作る
- 62 「治要」傷」字無し
- 63 「敦Ⅱ・道蔵」也」字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急」之也」二字に作る
- 64 「所」字上、「筑波・大東・斯Ⅱ・東急・聖語」は「有」字、「敦

II は「无」字有り
 「化」字下、「道威」「功」字有り
 「下」字上、「道威」「天」字有り
 65 「東急・敦II・道威」也・字無し、「筑波・弘文・大東・斯II」
 66 は「之也」二字に作る
 67 最終尾題、「未版」は「河上公老子德經終」、「活I・活II・陽I・
 書陵・武内・杏II・慶I・斯II・梅沢・六地・東急・敦II」は「老
 子德經下」、「東洋」は「老子德經下之終」(但、「之終」左旁に青筆

下54ウ5 老子道德經序

真人葛玄

河上公者莫知姓氏也昔漢孝文皇帝時結草為庵居陝
 河之濱誦道德經

文帝採老氏之言詔文武百執遍令諷念時或有未曉章
 句天下莫能窮究侍臣奏曰河上有公嘗誦道德之經有
 牟矣帝乃遣使費未曉義問之公曰道尊德貴非可遙問
 也

訓読文補注

1 「益」多キコト、「コト」二字は薄墨の後筆
 (で見消ちを付す)、「無窮」は「老子德經卷下」、「世德」は「老子德
 經卷終」、「足利」は「老子經下」、「東大」は「老子經卷之下」、「弘
 文」は「老子◇◇終」、「道威」は「道德真經註卷之四」と題す

老子道德經序

真人葛玄

河上公ハ(者)・姓氏ヲ知(ル)コト莫(シ)〔也〕。昔漢ノ孝
 文ノ皇ノ帝ノ時・草ヲ結テ庵ト為(フ)・陝ノ河ノ〔之〕濱ニ居テ道
 德ノ經ヲ誦ス

文帝・老氏ノ〔之〕言ヲ探テ・文武百執ヲ詔フ・遍ク諷念セ
 令ム・時ニ或ハ章ノ句ヲ曉(ラ)未(ル)コト有(リ)・天下ニ能
 (ク)窮メ(テ)究(ムル)コト莫(シ)・侍臣奏メ曰ク・河上ニ公
 有(リ)・嘗テ道ノ德ノ〔之〕經ヲ誦スルコト・年有(リ)〔矣〕・帝
 乃(チ)使(去)ヲノ遣(ラ)未(ル)義ヲ費テ・問(ハ)〔遣〕ム
 (之)・公ノ曰ク・道尊ク德貴シ・遥ニ問(フ)可(キ)ニ非
 ス〔也〕。

文帝乃命駕請益河上公踞坐不起帝曰普天之下莫非
王化率土之濱莫非王民域中有四大王居其一子雖有
道猶朕民也不能自屈何乃自高朕可使卿富貴貧賤尔

須臾河上公即拊掌坐躍於虛空中良久言如相近俛而
荅曰予上不至天中不累人下不居地何民之有哉陛下
焉能使予富貴貧賤乎

帝乃方悟眞仙遽然下輦稽首禮謝曰朕以無能纂承帝
業雖治世事思服道言國勢既繁未明淵奧唯錫道情垂
愍願亦行之如覩太陽照於幽夕

河上公尋復下降謂帝開闡道德之經分為四篇宣暢微
妙公曰志誦是經疑心自解予注釋經文歷千七百餘載

文帝(補注)乃(チ)駕(命)益(請)河上公(補注)踞坐(起)不・帝ノ曰(ク)・普天ノ(之)下・王化ニ非(ス)ト云コト莫
(シ)。率土ノ(之)濱・王民ニ非(ス)ト云コト莫(シ)。域中
二四一大有(リ)。王其ノ一二居ル)・子道有(リ)ト雖・猶朕カ
民ナリ(也)。自(ラ)屈スルコト能(ハ)不(ソ)・何(ソ)乃(チ)自
(ラ)高フル。朕卿ヲ(使)富貴貧賤(ナラ)使(ム)可(シ)
(尔)。

須臾(補注)ニソ・河上公・即(チ)掌ヲ拊(并)テ坐ナカラ(於)虛空中
二躍(ス)。良久(シク)ソ言(フ)・相近ツキ俛(ス)カ如シ(而)
荅ヘテ・曰(ク)・予上天ニ至(シ)不(ソ)・中人ニ累(セ)不(ソ)・下地ニ
居(ラ)不(ソ)。何ノ民ト云コトカ(之)有(ラ)ン哉。陛下・焉(イ)ンソ
能(ク)予ヲ(使)富貴貧賤(ナラ)使(ム)メン乎。

帝・乃(チ)方ニ眞仙ナルコトヲ悟テ遽然トソ輦ヨリ下リテ・
稽首ノ禮ヲ謝(ニ)・曰(ク)・朕無能ナルヲ以テ・纂(ツ)イテ帝業ヲ
承(ク)・世事ヲ治ムト雖道言ヲ思(ヒ)服(フ)。國務既ニ
繁シ・淵奧ヲ明ニセ未唯道情ヲ錫テ愍ヲ垂(レ)ヨ。願(ハ)亦
行(ン)之。太陽(補注)ノ(於)幽夕ヲ照スラ觀(ル)カ如(ク)ナラン
河上公・尋(ツ)イテ復(去)下(リ)降(リ)テ帝ニ謂テ・道德ノ
(之)經ヲ開(キ)闡(メ)シム・分テ四篇ト為(シ)微妙ヲ宣暢

凡傳三人帝今四矣帝乃跪而授之言訖俄失所止

(セ)シム。公ノ曰(ク)・志(シテ)是ノ經ヲ誦セハ・疑(心)自(ス)カラ^レ解(ケ)ン。予經ノ^レ文ヲ注^レ釋ノ・千七百餘載ヲ歴^レ・凡三人ニ傳フ。帝ハ今四タリナリ(矣)。帝乃(チ)跪テ(而)授(ル)(之)。言(ヒ)訖テ・俄(ル)所ヲ失(フ)。

論曰漢文帝崇老氏之教不能洞覈大旨精思克念以致幽感眞仙下降人間釋義教授復念帝心未信故示見神變以儆之後人因謂之河上公今陝州河側立祠及州西山下文帝仙臺遺址尚存焉

論ノ曰(ク)・漢ノ文帝・老氏ノ^レ教ヲ崇レトモ・大旨ヲ洞^下覈^上(スル)能(ハ)不。精ク思(ヒ)克(ク)念テ・以テ幽^{アキラカ也}感ヲ致ス。眞仙人^下間^上二下(リ)降テ・義ヲ釋テ教(ヘ)授(ク)。復(ヘ)去^レ帝ノ^レ心ノ信セ未(ル)コトヲ念(フ)。故ニ神^變ヲ示(シ)見(去)シテ・以テ儆(ム)之。後ノ^レ人・因テ之ヲ河^上公ト謂(フ)。今陝州ノ河ノ^側二祠ヲ立(ツ)・及州ノ西山ノ下ニ・文^帝ノ仙臺ノ遺^址・尚^存セリ(焉)。

有言之過當者君子之所宜潛其心焉也

一見了 了式別

言^之之過^當者^ルハ^者君子^ノ之宜^ク其^ノ心ヲ潛カニス^宜(キ)所ナリ(焉也)。

此經曰絕聖棄智又絕仁棄義者是其言之過當也

此ノ經ニ曰(ク)聖(ヲ)絶(チ)智(ヲ)棄(ツ)又仁(ヲ)絶(チ)義(ヲ)棄(ツ)ルハ^者是^レ摠其^ノ言^之過^當ナリ(也)。

楊子曰及搃提仁義絕滅禮樂吾無取焉耳者是亦雄言之過當也

楊子カ曰(ク)仁^義ヲ^摠シ及テハ禮^樂ヲ絶^滅スルニ吾^焉取(ル)無^キ耳トハ^者是^レ亦^レ雄力^言之過^當也。

蓋以意逆志乎

學者若欲觀二老之過當之所者試取雲漢之詩而熟參

矣云

不可出寺中

康應二年正月十九日

施入聖山之

蓋ソ意(ヲ)以(テ)志(ヲ)逆(ニセ)「蓋(ル)「乎」

學者若シ二老之過當之所ヲ觀ント欲セハ「者」試ニ雲漢ノ

「之」詩ヲ取テ「而」熟々參ヘヨト「矣」云フ

不可出寺中

康應二年正月十九日

施入聖山之

訓読文補注

- 1 「河上公」、「公」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 2 「漢ノ孝文帝」、「帝」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 3 「文帝」、「帝」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 4 「公」、字下辺に淡丹色の人名符有り
- 5 「齊テ」、「モツテ」は左旁訓、右旁には加點無く、今はこの点に拠る
- 6 「文帝」、「帝」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 7 「河上公」、「公」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる

- 8 「河上公」、「公」字下辺に淡丹色の人名符有り
- 9 「河上公」、「公」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 10 「漢ノ文帝」、「帝」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 11 「河上公」、「公」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 12 「文帝」、「帝」字下辺に人名符、墨色の上から淡丹色を重ねる
- 13 以下の訓点は筆致に変化が認められ、墨色やや淡く、本文加點とは別手後筆と思われる